

令和2年度

県民意識調査

報告書

令和2年9月

福岡県

◇◇ 目 次 ◇◇

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 調査の企画と実施機関	2
II. 対象者属性	3
III. 調査結果	6
1. 県民の幸福実感	6
(1) 幸福実感の点数付け	6
(2) 幸福実感を判断する上で重視した基準	8
(3) 幸福実感を判断する上で重視した事項	8
(4) 5年前と比べての現在の幸福実感	9
(5) 現在と比べて5年後の幸福実感の予測	9
(6) 福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い	10
(7-1)「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼした と思う度合い	11
(7-2)「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼした 要因	12
2. 県の施策について	13
☆ 県政の各分野において、行政に対して力を入れてほしいこと ☆	13
(1) 商工業の振興	13
(2) 観光振興	14
(3) 農林水産振興	15
(4) 雇用対策	16
(5) 地域振興	17
(6) インフラ・社会基盤整備	18
(7) 子育て支援	19
(8) 教育	20
(9) 若者	21
(10) 女性	22
(11) 高齢者・障がいのある人	23
(12) 保険・医療	24
(13) NPO・ボランティア	25
(14) 文化・スポーツ	26
(15) 国際交流	27
(16) 防災対策	28
(17) 防犯・事故対策	29
(18) 環境	30
(19) 新型コロナウイルス感染症対策	31
(20) 重点分野	32
3. 自由意見	33
4. 本調査における特徴的な結果	44
(1) 幸福実感の“判断基準”と“重視事項”による幸福実感の差	44
(2) 家族構成による幸福実感の差	46
(3) 男女別・年代別による幸福実感の差	50

IV. 資料編	-----	57
<調査票>	-----	57

I. 調査概要

1. 調査目的

県民の幸福実感と県が進める施策に対する県民ニーズを把握し、今後の県政運営へ反映させることを目的とする。

2. 調査設計

- | | |
|-------------|--|
| (1) 調査地域 | 福岡県全域 |
| (2) 調査対象者 | 県内に居住する 18 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 4,000 サンプル |
| (4) 標本抽出方法 | 層化二段無作為抽出
県内各市区町村の人口数を基に調査地点数を決定し、400 地点を無作為抽出。ただし、単純に比例配分すると集計・分析に耐えうる十分な資料が得られない地点が出るため、北九州、福岡、筑豊、筑後の 4 地域に分け、各地域 100 地点になるよう、均等に割り当てを行った。その後、調査地点ごとに「選挙人名簿」から 1 地点 10 名、合計 4,000 名を抽出した。 |
| (5) 標本抽出台帳 | 令和 2 年 6 月現在の選挙人名簿 |
| (6) 調査方法 | 郵送法 |
| (7) 調査期間 | 令和 2 年 7 月 10 日～令和 2 年 8 月 3 日 |
| (8) 回収数 (率) | 1,902 サンプル (47.6%) |
| (9) 集計方法 | 地点数を 4 地域で均等配分したため、以下の方法でウェイト値を算出し、加重集計を行う。
①各地域の調査対象年齢の人口を算出。
②各地域の人口を最も人口の少ない地域の人口で除し、人口比の係数を求める。
③各地域の有効回収数を人口の最も少ない地域の有効回収数で除し、サンプル数の係数を求める。
④人口比の係数をサンプル数の係数で除し、ウェイト値を求める。 |

(10) 地域区分 調査地域は下記のとおり、4地域に区分している。

地域	北九州地域	福岡地域	筑豊地域	筑後地域
政令指定都市	北九州市	福岡市		
市	行橋市 豊前市 中間市	筑紫野市 春日市 大野城市 宗像市 太宰府市 古賀市 福津市 朝倉市 糸島市 那珂川市	直方市 飯塚市 田川市 宮若市 嘉麻市	大牟田市 久留米市 柳川市 八女市 筑後市 大川市 小郡市 うきは市 みやま市
町村	芦屋町 水巻町 岡垣町 遠賀町 苅田町 みやこ町 吉富町 上毛町 築上町	宇美町 篠栗町 志免町 須恵町 新宮町 久山町 粕屋町 筑前町 東峰村	小竹町 鞍手町 桂川町 香春町 添田町 糸田町 川崎町 大任町 赤福智町	大刀洗町 大木町 広川町

3. 調査の企画と実施機関

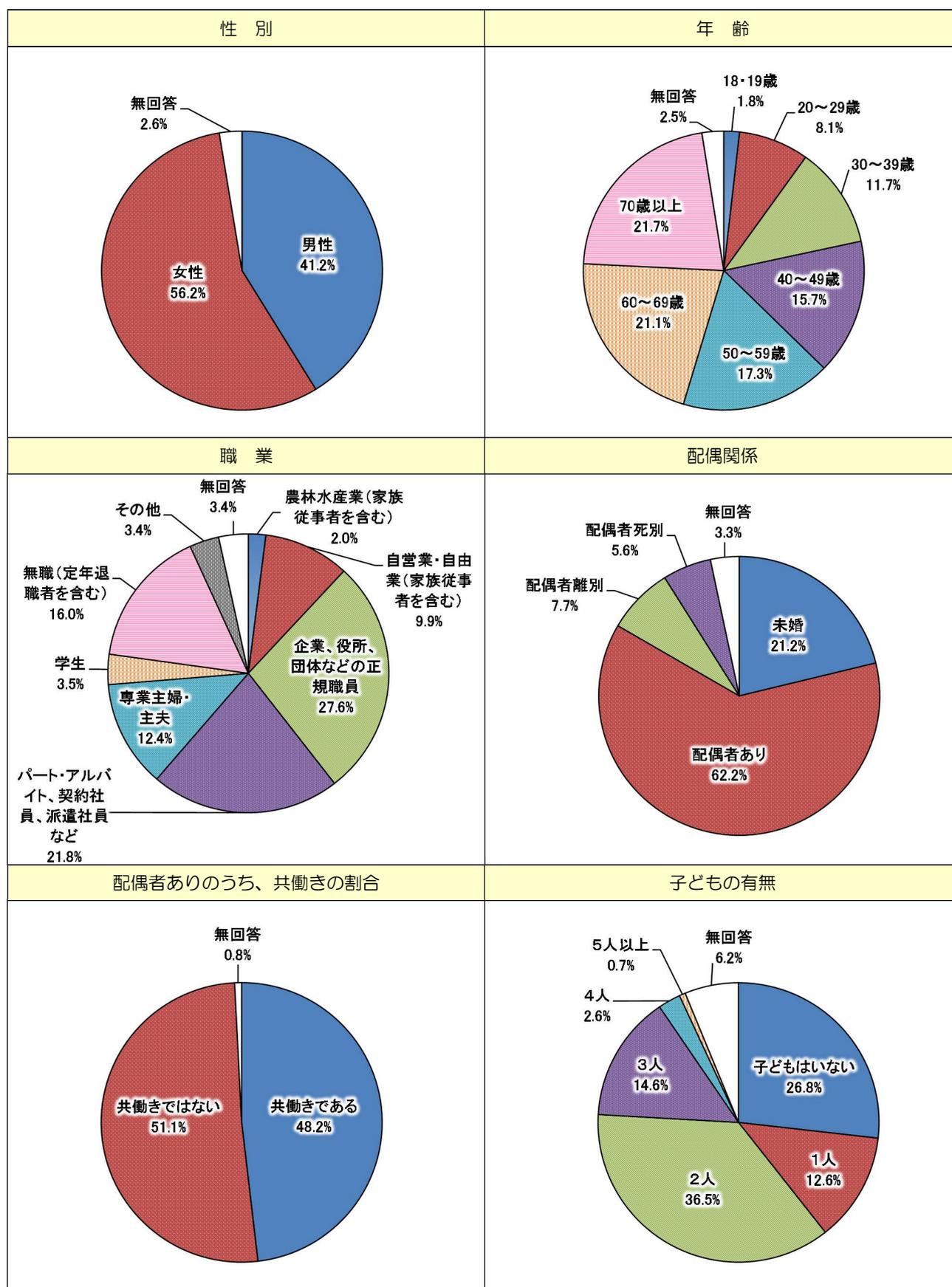
企画 福岡県 企画・地域振興部 総合政策課

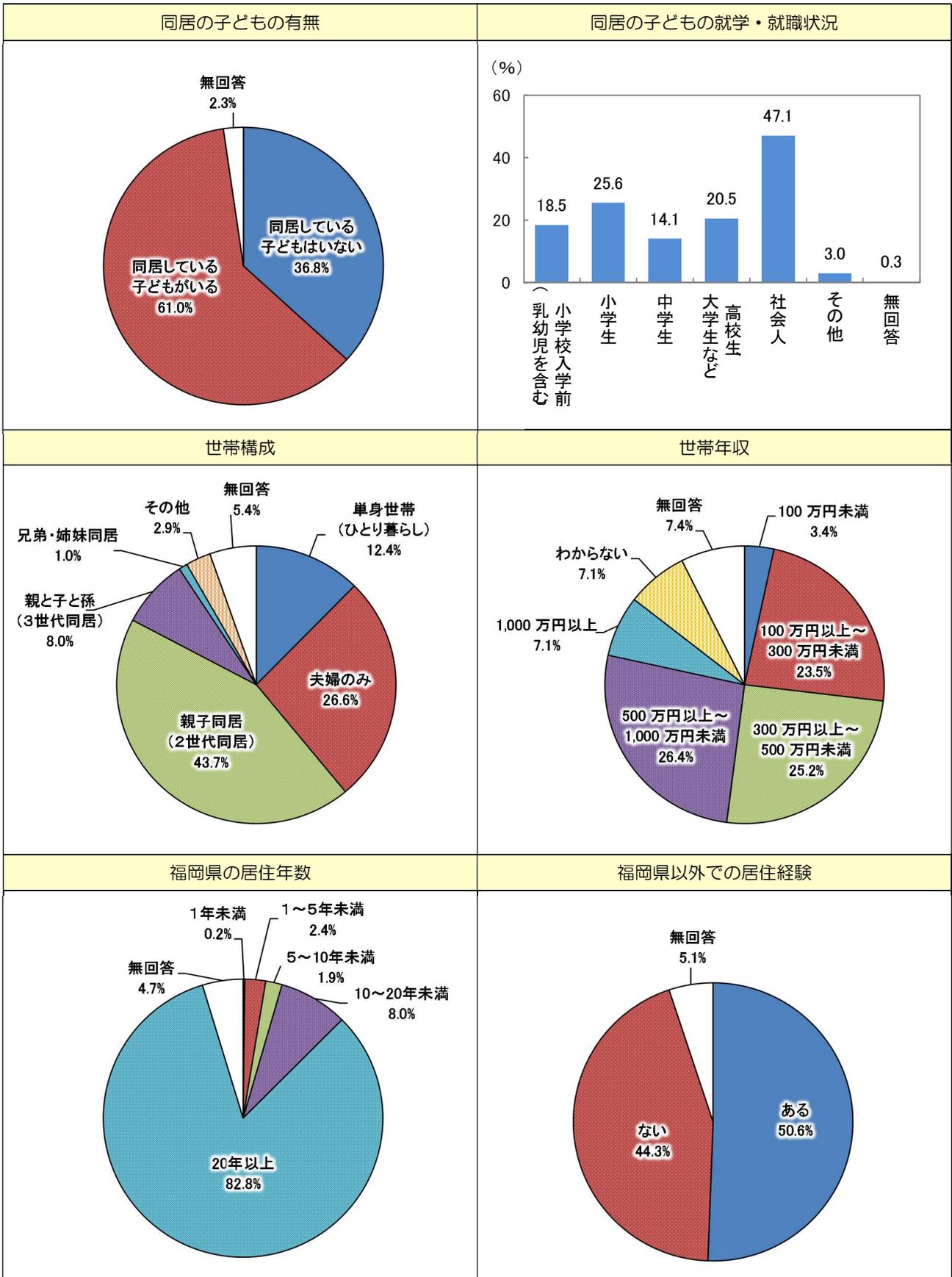
調査実施機関 株式会社サーベイリサーチセンター 九州事務所

【 調査結果利用上の注意 】

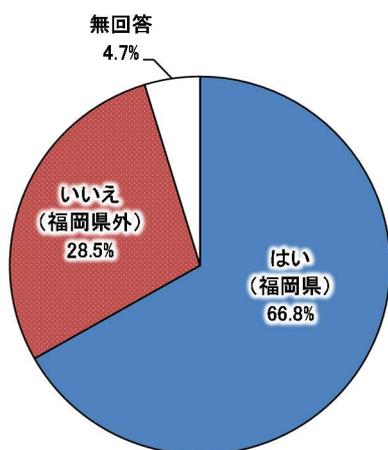
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表に示す選択肢は、スペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。
- (4) サンプル数が僅少となる属性項目については、比率が変動しやすいため、参考程度の掲載にとどめ、分析からは除外している。

Ⅱ. 対象者属性

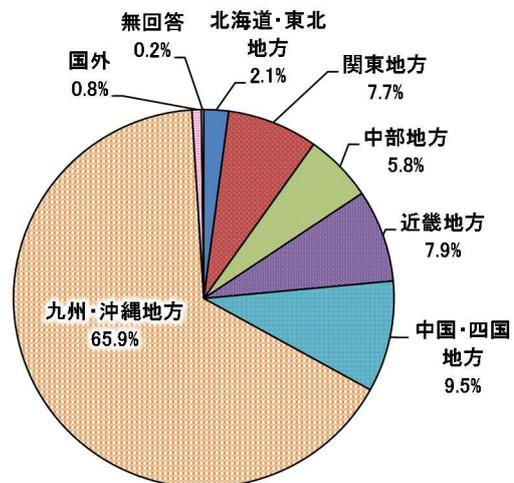




福岡県での出生の有無



福岡県外生まれの場合の出生地



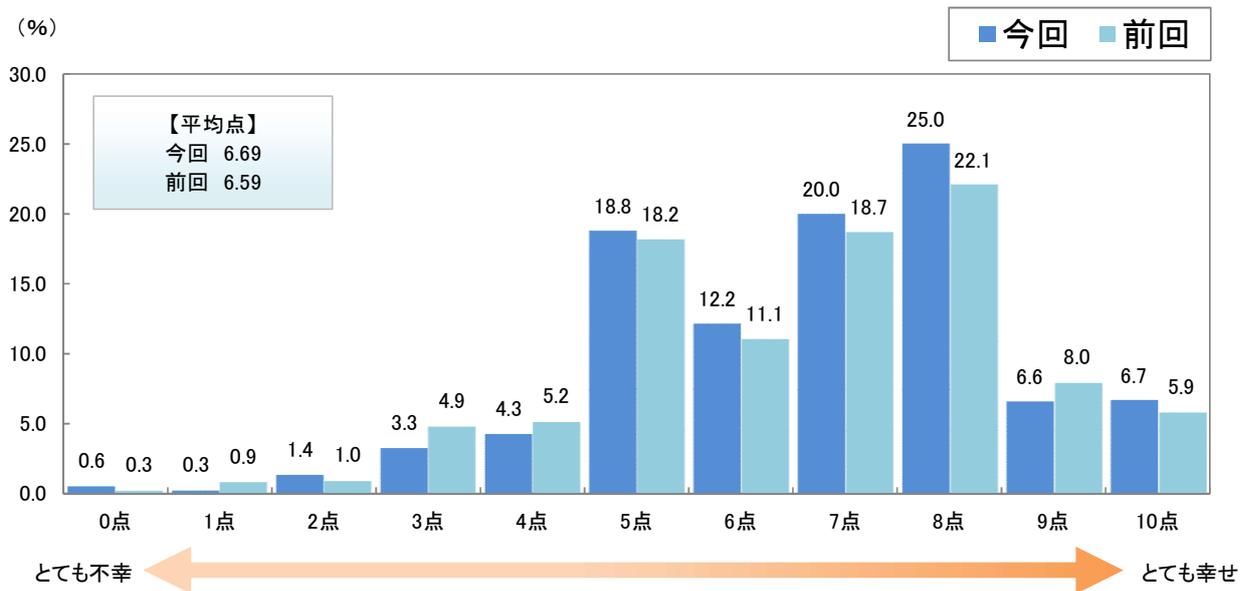
Ⅲ. 調査結果

1. 県民の幸福実感

(1) 幸福実感の点数付け

現在の幸福実感について、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として点数付けしてもらった結果、県民の幸福実感は平均6.69点で、前回（令和元年度）の調査結果の調査結果から0.10点高くなっています。

幸福実感（前回調査との比較）

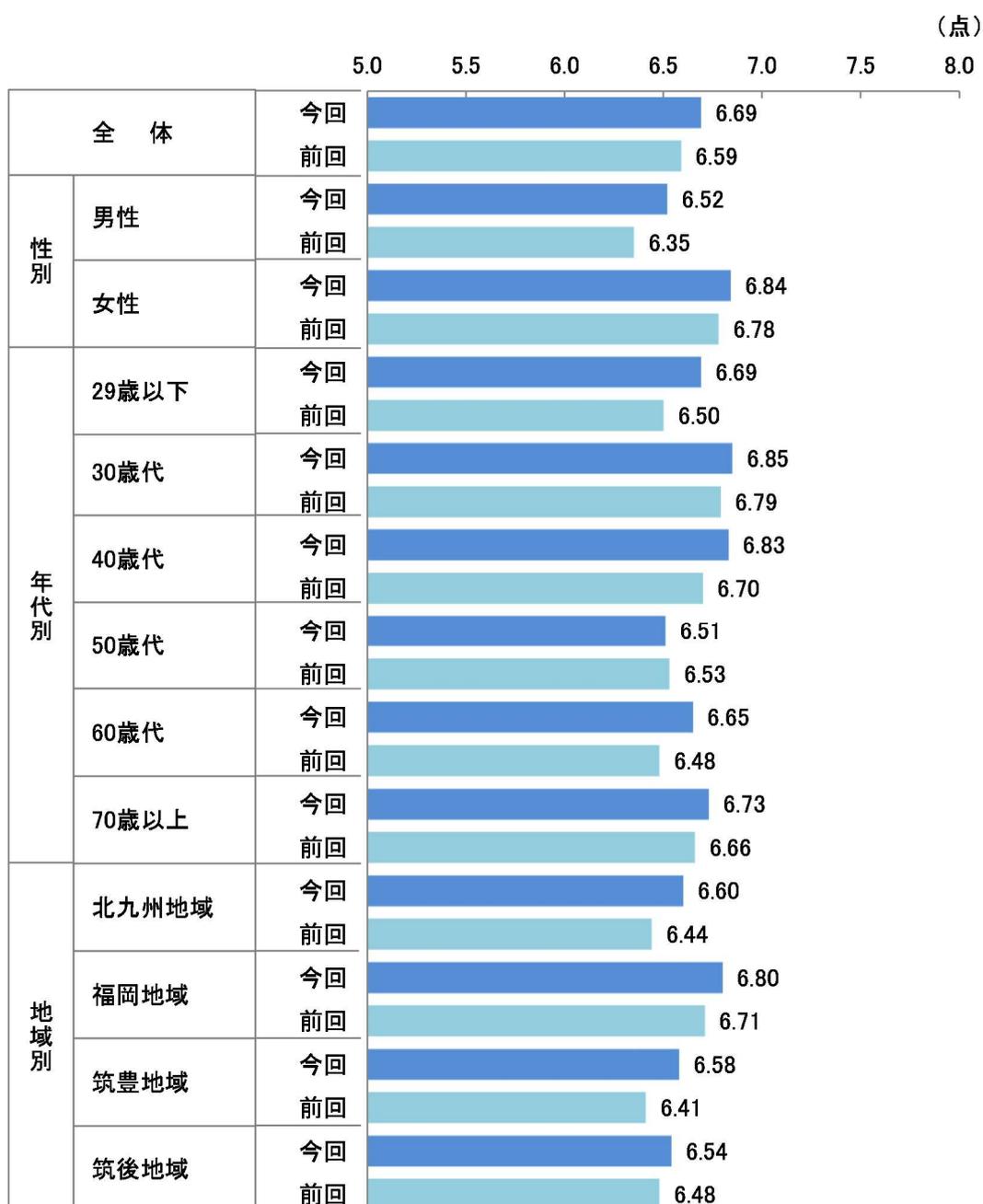


性別にみると、幸福実感の平均点は男性 6.52 点に対し、女性 6.84 点と女性が高くなっています。前回調査と比較すると、男女ともに点数は上がっています。

年代別にみると、30 歳代が 6.85 点で最も高く、30 歳代、40 歳代、70 歳以上は県全体よりも高くなっています。一方で、29 歳以下は県全体と等しく、50 歳代、60 歳代は低くなっています。前回調査と比較すると、50 歳代を除くすべての年代で上がっています。

地域別にみると、福岡地域が 6.80 点で最も高く、筑後地域は 6.54 点で最も低くなっています。前回調査と比較すると、すべての地域で点数が上がっています。

幸福実感平均点比較（性別、年代別、地域別）

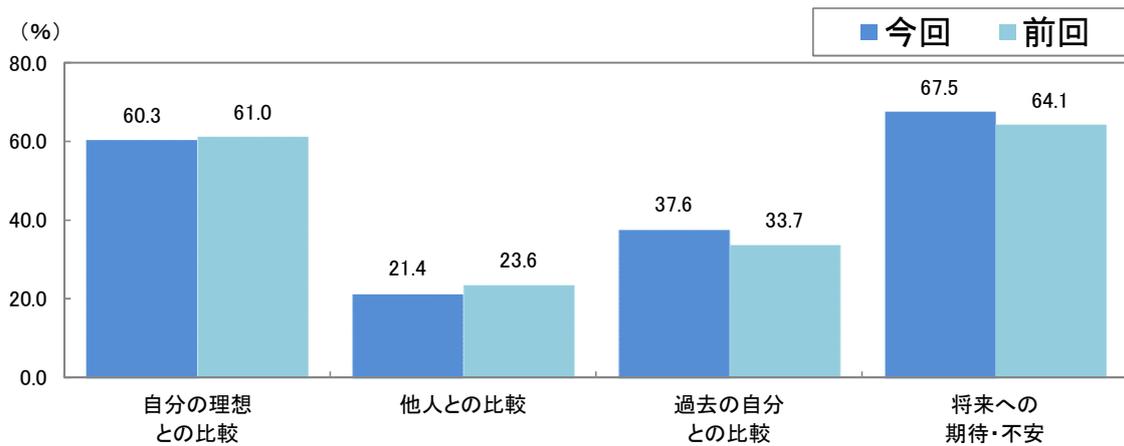


(2) 幸福実感を判断する上で重視した基準

幸福実感を判断する上で重視した基準は、「将来への期待・不安」(67.5%)、「自分の理想との比較」(60.3%)の2項目が多くなっており、前回調査とほぼ同様の結果になっています。

「過去の自分との比較」は前回調査よりも3.9ポイント、「将来への期待・不安」は3.4ポイント上がり、「他人との比較」は2.2ポイント下がっています。

幸福実感を判断する上で重視した基準

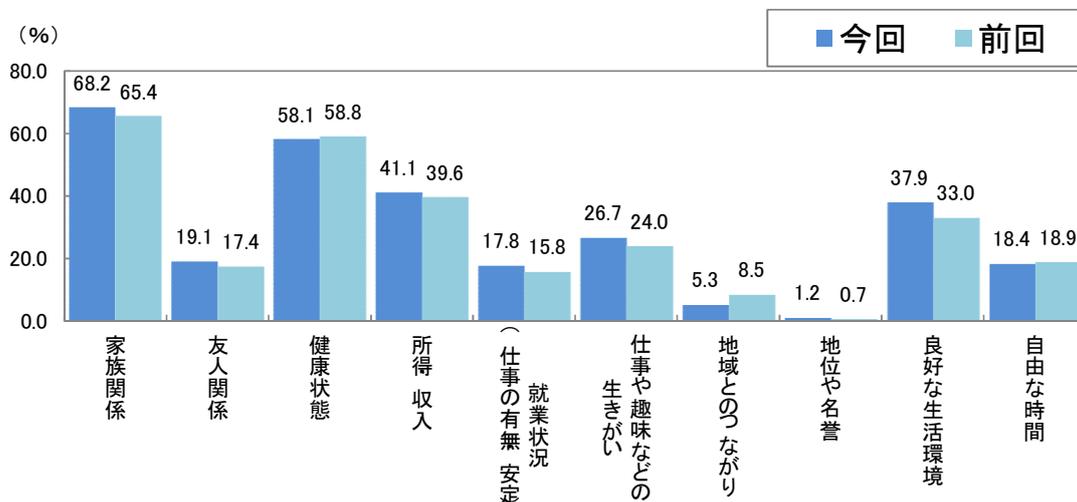


(3) 幸福実感を判断する上で重視した事項

幸福実感を判断する上で重視した事項は「家族関係」(68.2%)が最も多く、次いで、「健康状態」(58.1%)、「所得・収入」(41.1%)、「良好な生活環境」(37.9%)の順となっています。

前回調査と比較すると、「良好な生活環境」、「家族関係」、「仕事や趣味などの生きがい」が大きく上がり、「地域とのつながり」が大きく下がっています。

幸福実感を判断する上で重視した事項

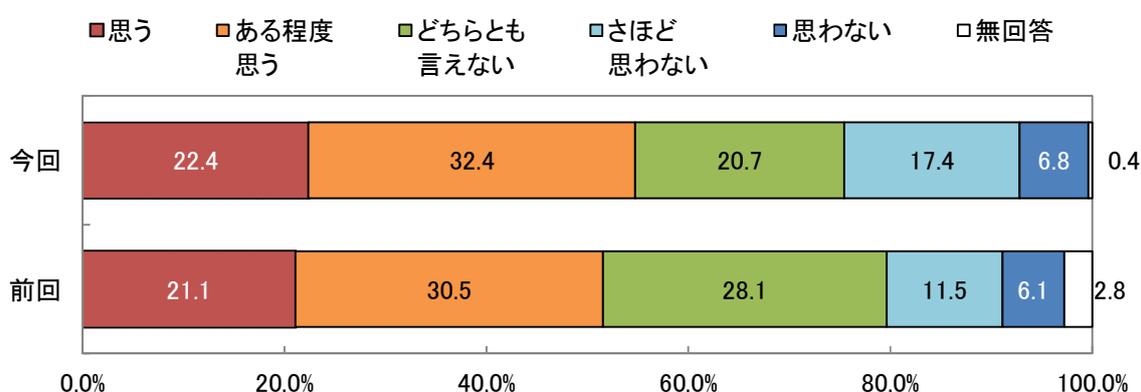


(4) 5年前と比べての現在の幸福実感

5年前と比べて幸せになっていると思うかについては、「ある程度思う」(32.4%)が最も多く、「思う」(22.4%)と合わせ54.8%と半数以上を占めています。なお、前回調査は51.6%でした。

「さほど思わない」(17.4%)と「思わない」(6.8%)を合わせると24.2%となっています。なお、前回調査は17.6%でした。

5年前と比べての現在の幸福実感



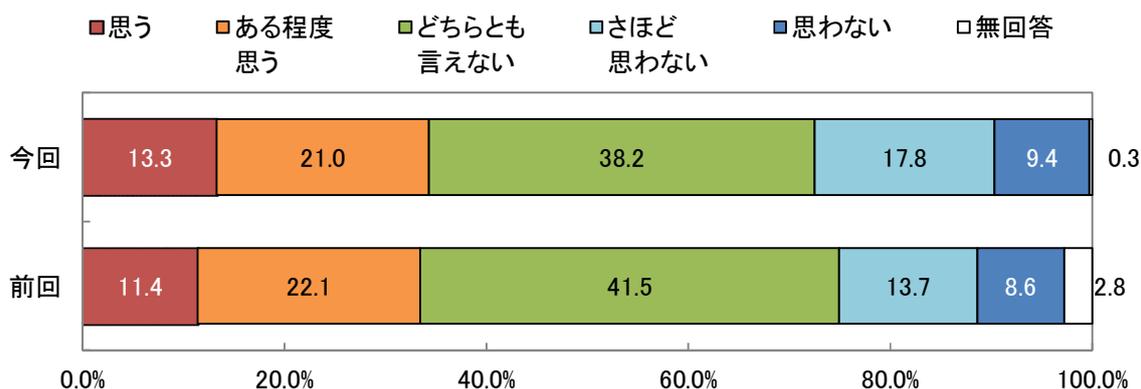
(5) 現在と比べて5年後の幸福実感の予測

5年後は今より幸せになっていると思うかについては、「どちらとも言えない」(38.2%)が最も多くなっています。

「思う」(13.3%)と「ある程度思う」(21.0%)を合わせると、34.3%となっています。なお、前回調査は33.5%でした。

「さほど思わない」(17.8%)と「思わない」(9.4%)を合わせると27.2%となっています。なお、前回調査は22.3%でした。

現在と比べて5年後の幸福実感の予測



(6) 福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い

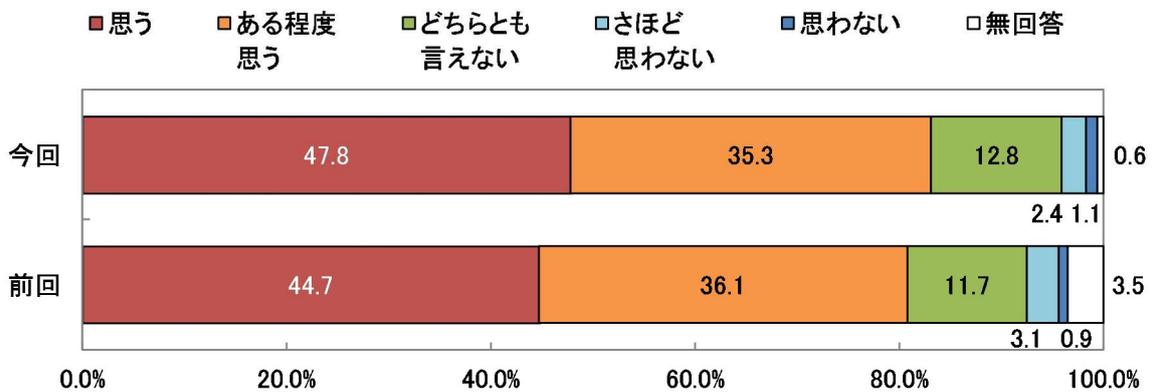
福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合いについて、「思う」(47.8%)が最も多く、「ある程度思う」(35.3%)と合わせた『肯定的回答』は83.1%と8割を占めています。なお、前回調査は80.8%でした。

また、「さほど思わない」(2.4%)と「思わない」(1.1%)を合わせた『否定的回答』は3.5%となっています。なお、前回調査は4.0%でした。

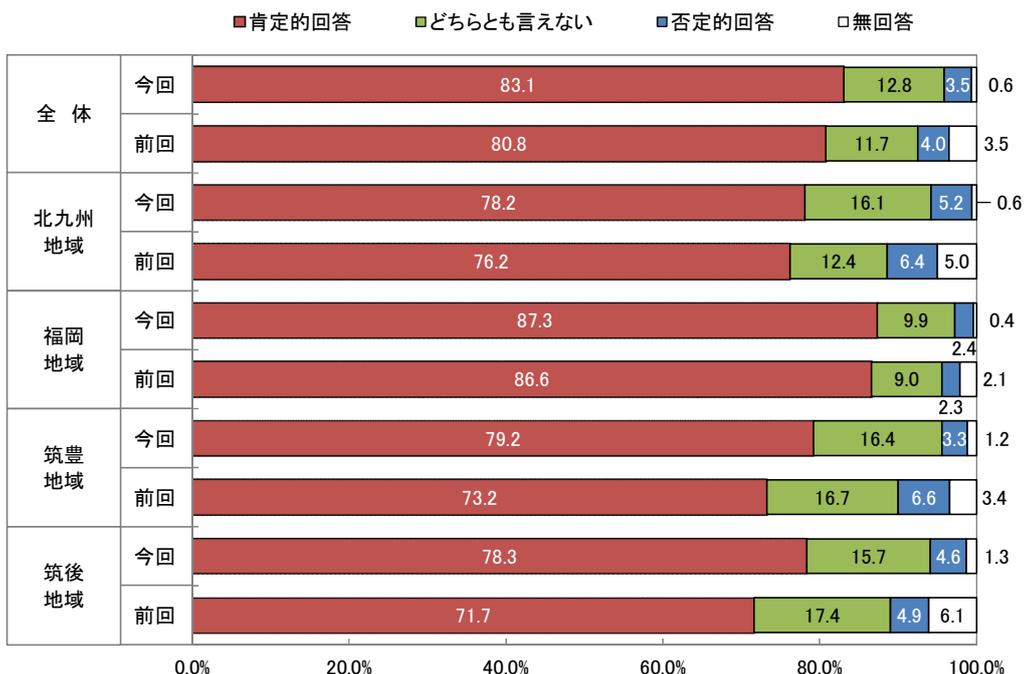
前回調査と比較すると、『肯定的回答』が増加しています。

地域別にみると、『肯定的回答』は、北九州地域 78.2%、福岡地域 87.3%、筑豊地域 79.2%、筑後地域 78.3%となっています。

福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い



福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い(地域別)



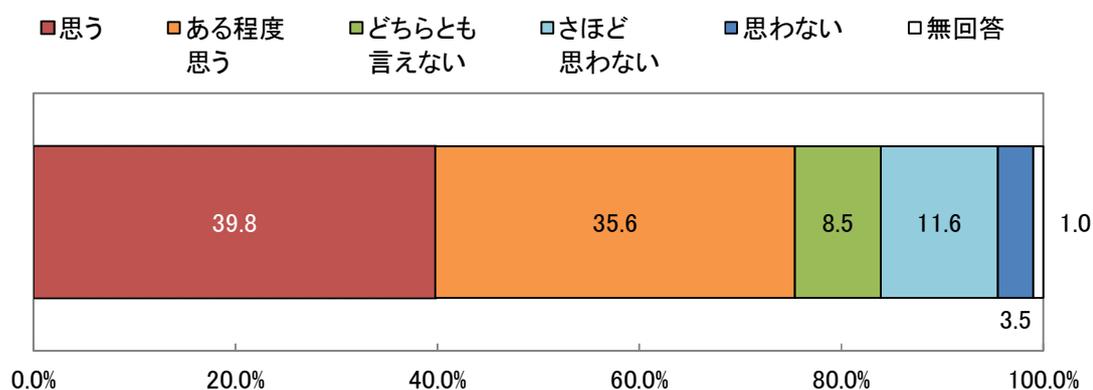
(7-1) 「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼしたと思う
度合い

今回新たに尋ねた「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼしたと思う度合いについて、「思う」(39.8%)が最も多く、「ある程度思う」(35.6%)と合わせ75.4%と7割以上を占めています。

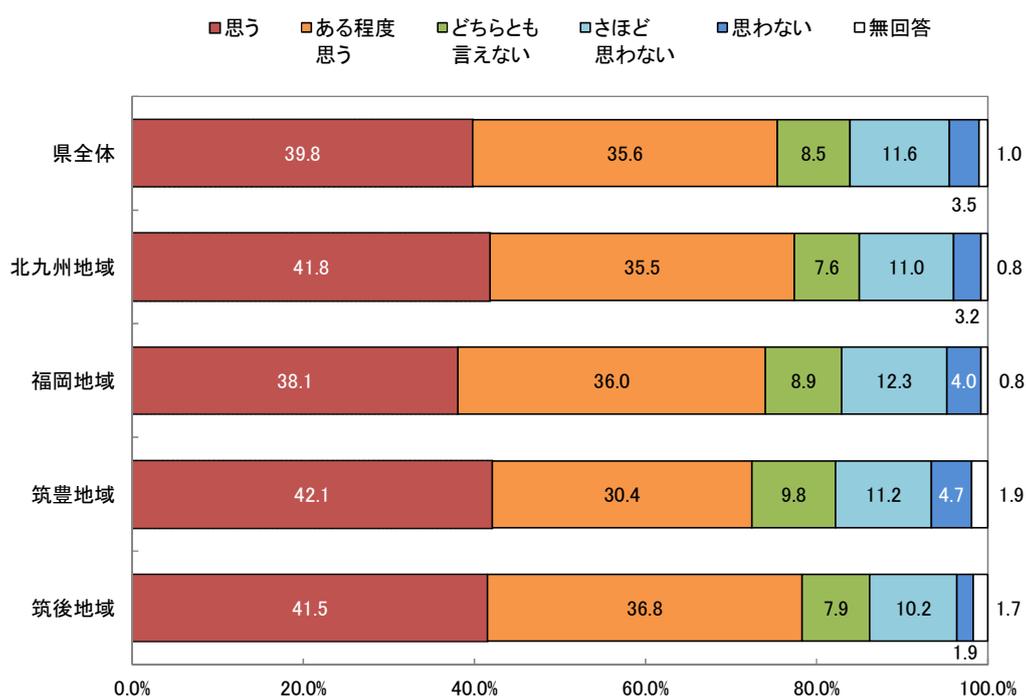
また、「さほど思わない」(11.6%)と「思わない」(3.5%)を合わせると15.1%となっています。

地域別にみると、「思う」と「ある程度思う」を合わせた回答の割合は、北九州地域77.3%、福岡地域74.1%、筑豊地域72.5%、筑後地域78.3%となっています。

「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼしたと思う度合い



「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼしたと思う度合い(地域別)

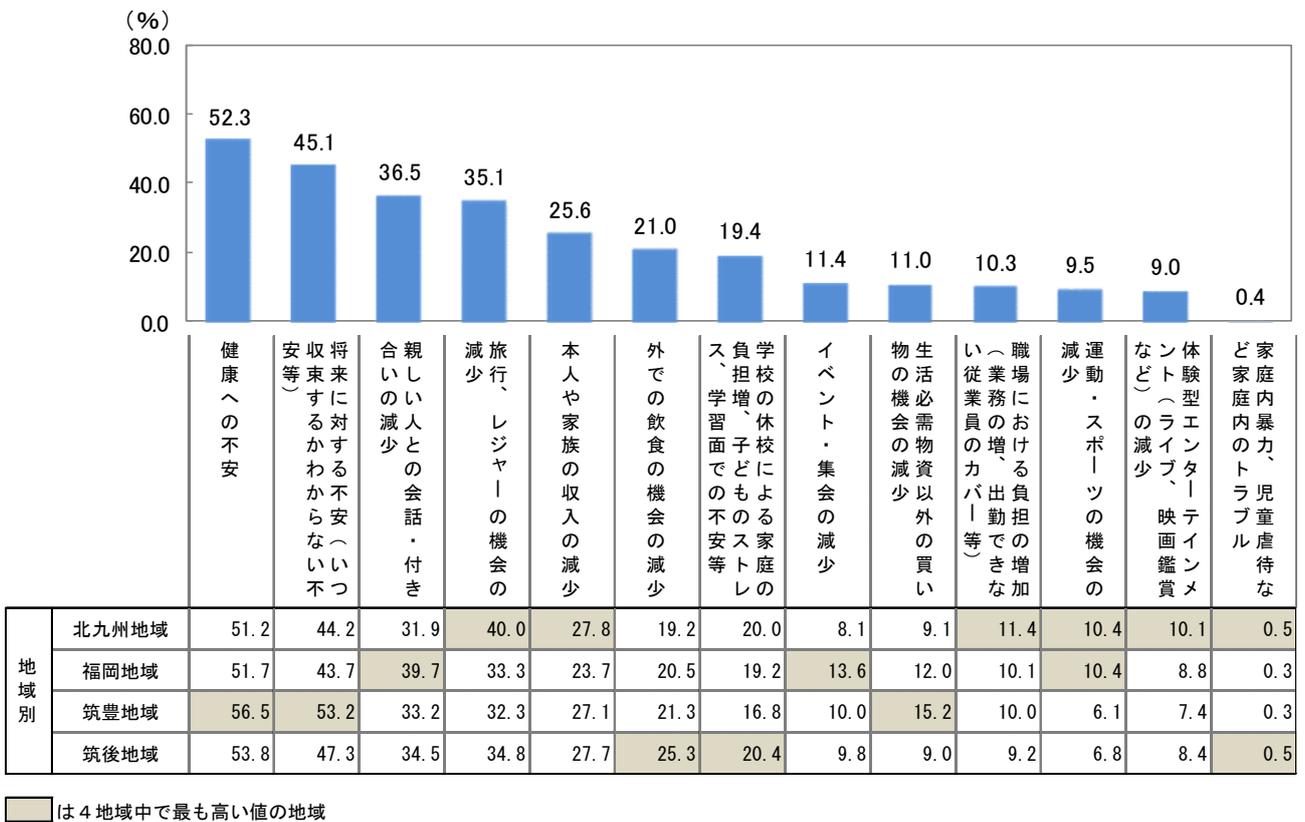


(7-2) 「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼした要因

県全体では、「健康への不安」(52.3%)が最も多く、次いで、「将来に対する不安(いつ収束するか分からない不安等)」(45.1%)、「親しい人との会話・付き合いの減少」(36.5%)、「旅行、レジャーの機会の減少」(35.1%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「旅行、レジャーの機会の減少」、福岡地域では「親しい人との会話・付き合いの減少」、筑豊地域では「将来に対する不安(いつ収束するか分からない不安等)」、筑後地域では「外での飲食の機会の減少」が他地域と比較して高くなっています。

「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼした要因



2. 県の施策について

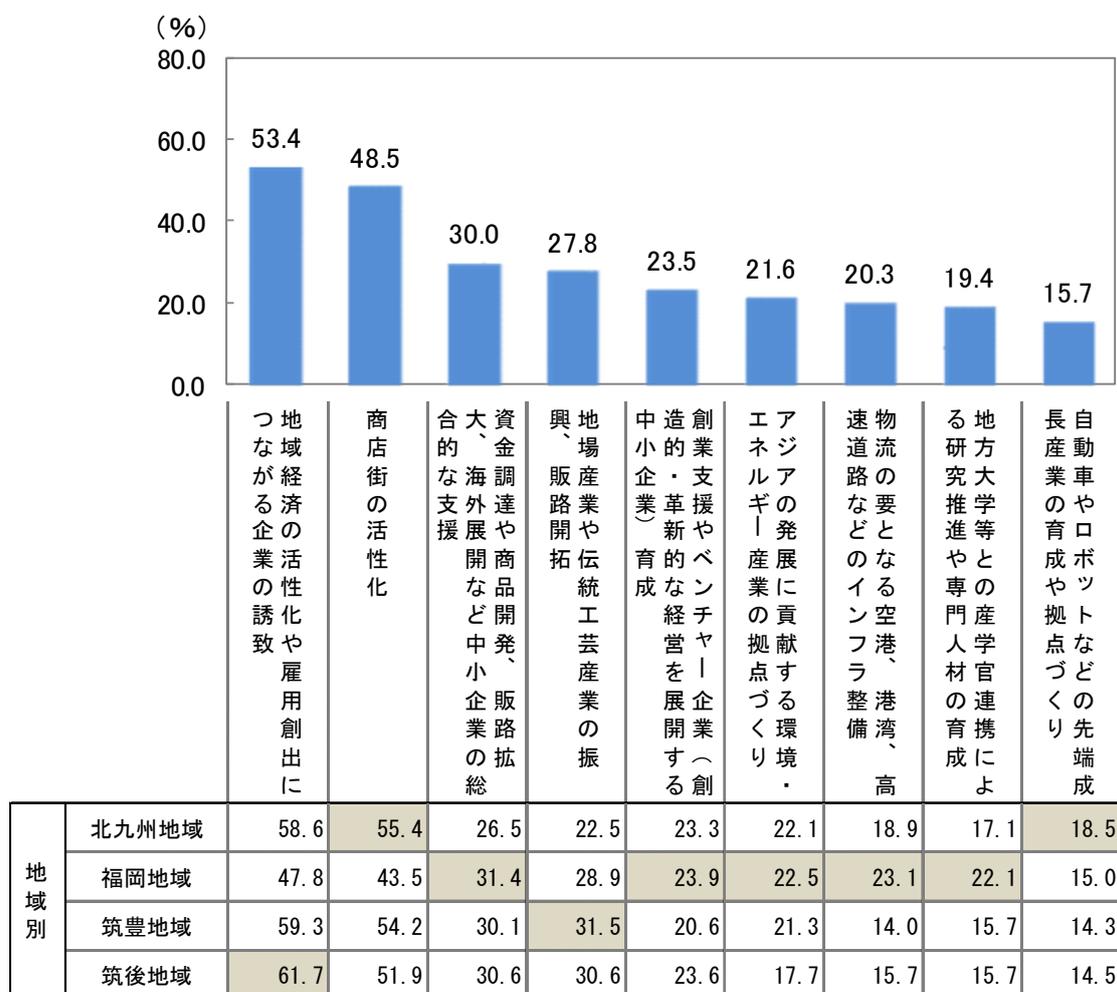
☆ 県政の各分野において、行政に対して力を入れてほしいこと ☆

(1) 商工業の振興

県全体では「地域経済の活性化や雇用創出につながる企業の誘致」(53.4%)が最も多く、次いで、「商店街の活性化」(48.5%)、「資金調達や商品開発、販路拡大、海外展開など中小企業の総合的な支援」(30.0%)、「地場産業や伝統工芸産業の振興、販路開拓」(27.8%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「自動車やロボットなどの先端成長産業の育成や拠点づくり」、福岡地域では「物流の要となる空港、港湾、高速道路などのインフラ整備」や「地方大学等との産学官連携による研究推進や専門人材の育成」が他地域と比較して高くなっています。

商工業の振興



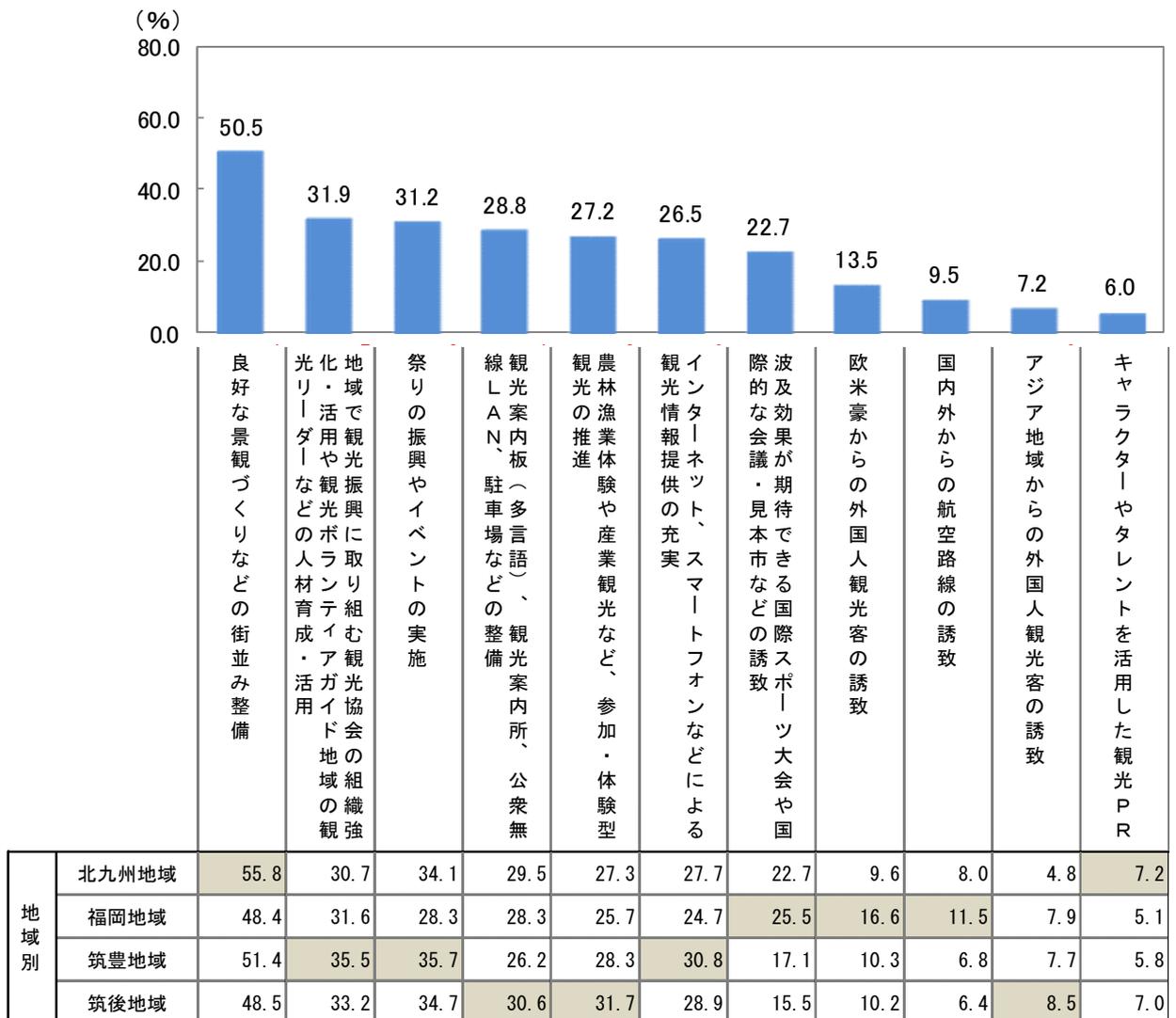
■ は4地域中で最も高い値の地域

(2) 観光振興

県全体では「良好な景観づくりなどの街並み整備」(50.5%)が最も多く、次いで、「地域で観光振興に取り組む観光協会の組織強化・活用や観光ボランティアガイド地域の観光リーダーなどの人材育成・活用」(31.9%)、「祭りの振興やイベントの実施」(31.2%)、「観光案内板(多言語)、観光案内所、公衆無線LAN、駐車場などの整備」(28.8%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「良好な景観づくりなどの街並み整備」、福岡地域では「欧米豪からの外国人観光客の誘致」や「国内外からの航空路線の誘致」、筑後地域では「農林漁業体験や産業観光など、参加・体験型観光の推進」が他地域と比較して高くなっています。

観光振興



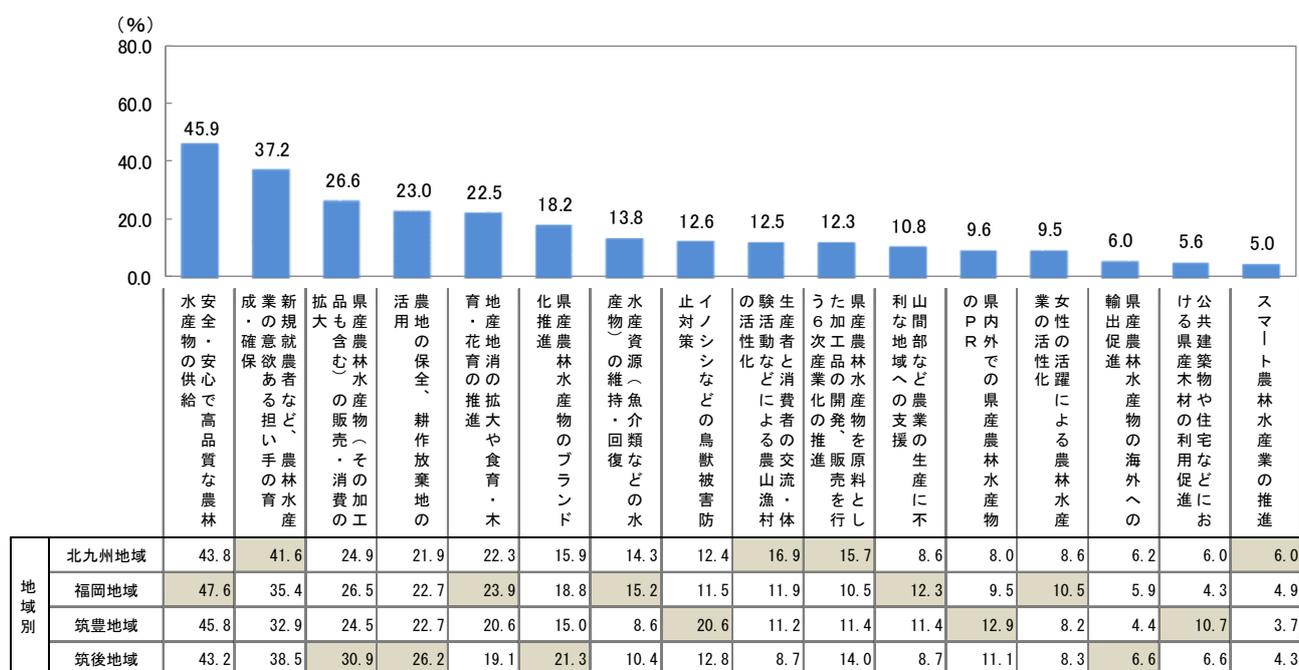
■は4地域中で最も高い値の地域

(3) 農林水産振興

県全体では「安全・安心で高品質な農林水産物の供給」(45.9%)が最も多く、次いで、「新規就農者など、農林水産業の意欲ある担い手の育成・確保」(37.2%)、「県産農林水産物(その加工品も含む)の販売、消費の拡大」(26.6%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「生産者と消費者の交流・体験活動などによる農山漁村の活性化」、筑豊地域では「イノシシなどの鳥獣被害防止対策」や「公共建築物や住宅などにおける県産木材の利用促進」、筑後地域では「県産農林水産物(その加工品も含む)の販売、消費の拡大」が他地域と比較して高くなっています。

農林水産振興



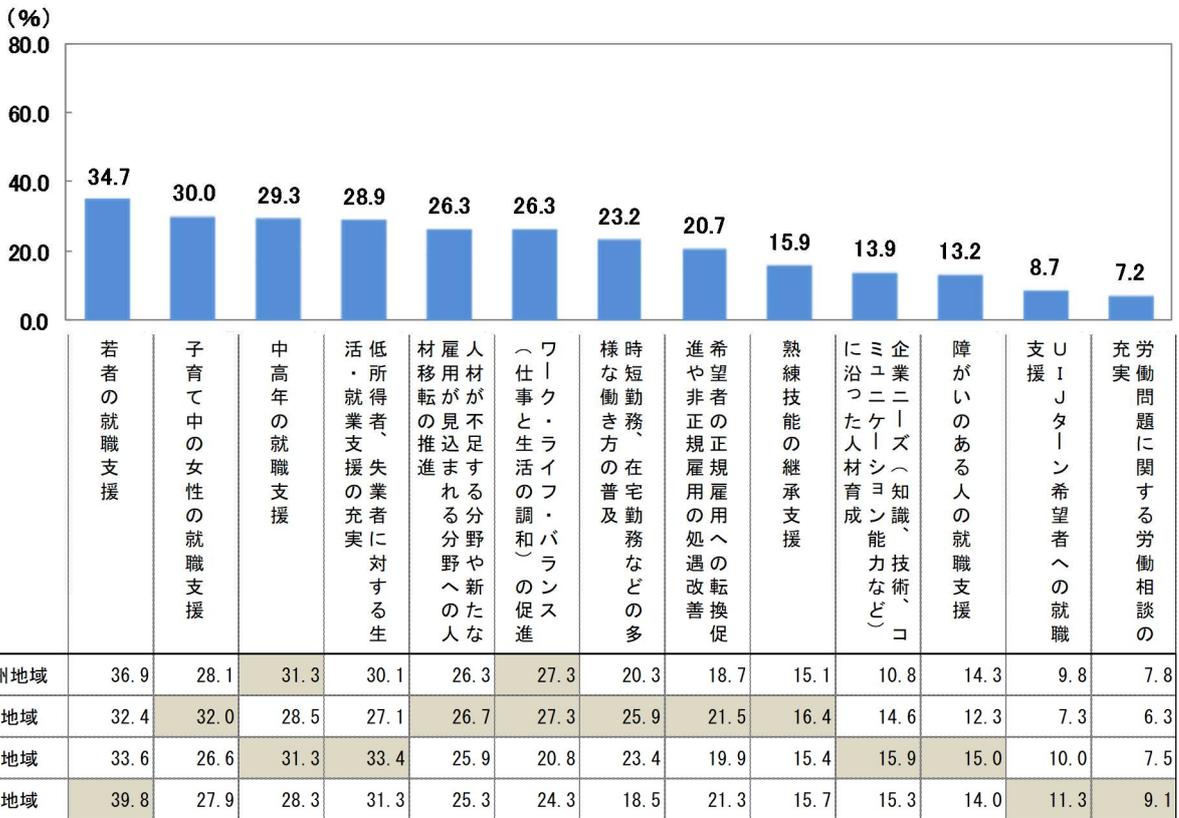
■は4地域中で最も高い値の地域

(4) 雇用対策

県全体では「若者の就職支援」(34.7%)が最も多く、次いで、「子育て中の女性の就職支援」(30.0%)、「中高年の就職支援」(29.3%)、「低所得者、失業者に対する生活・就業支援の充実」(28.9%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「子育て中の女性の就職支援」が他地域と比較して高くなっています。

雇用対策



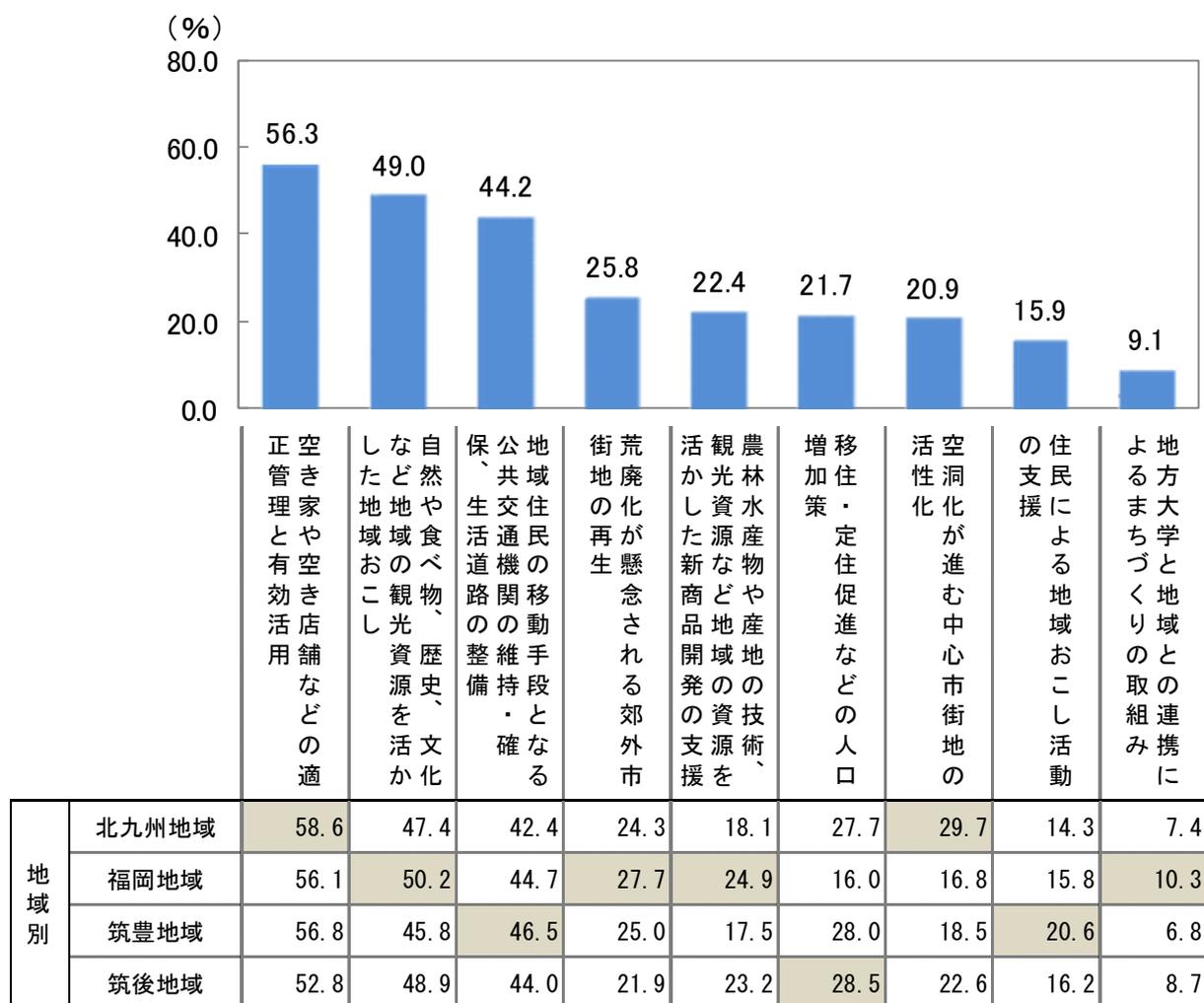
■ は4地域中で最も高い値の地域

(5) 地域振興

県全体では「空き家や空き店舗などの適正管理と有効活用」(56.3%)が最も多く、次いで、「自然や食べ物、歴史、文化など地域の観光資源を活かした地域おこし」(49.0%)、「地域住民の移動手段となる公共交通機関の維持・確保、生活道路の整備」(44.2%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「空洞化が進む中心市街地の活性化」、筑豊地域では「住民による地域おこし活動の支援」が他地域と比較して高くなっています。

地域振興



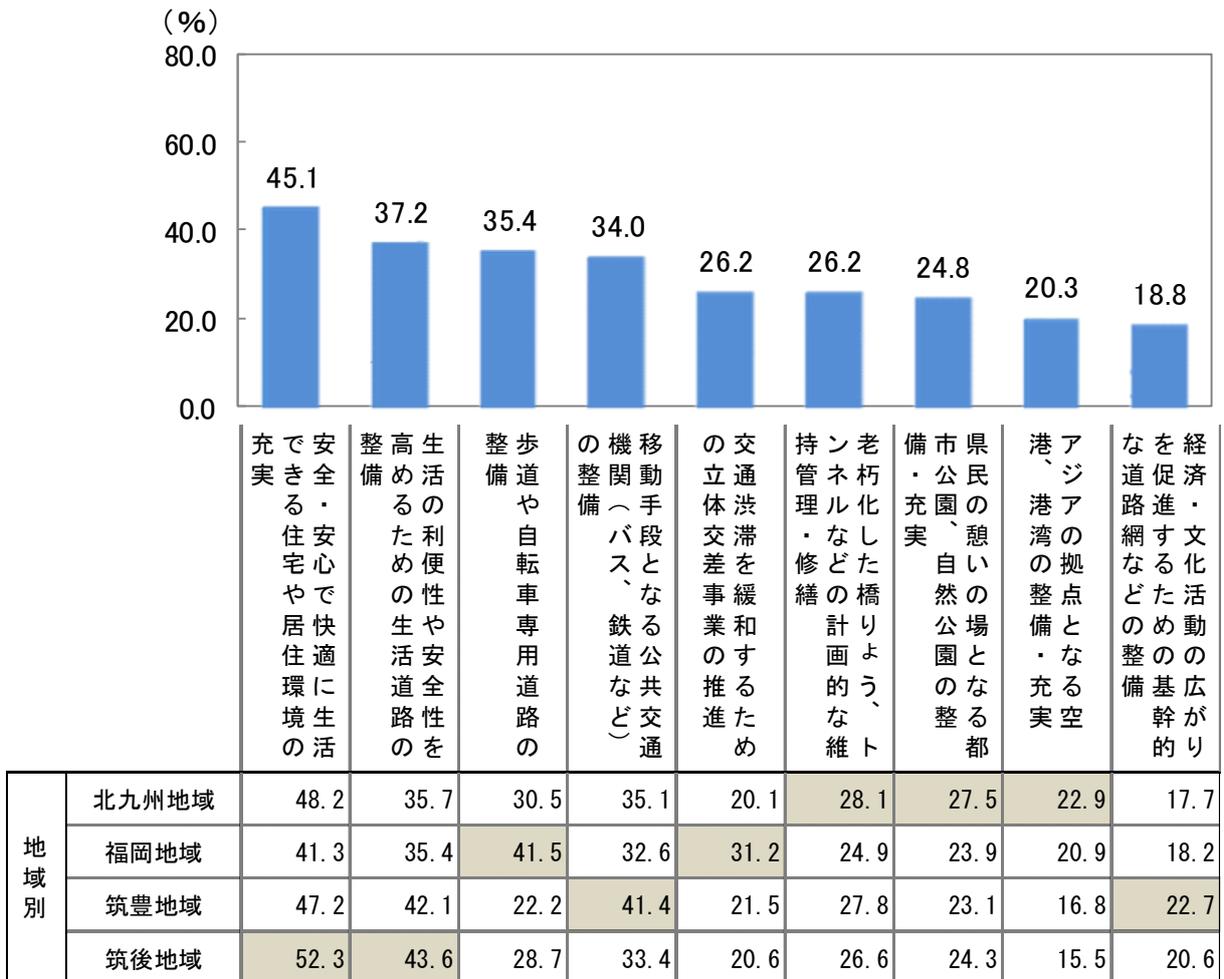
は4地域中で最も高い値の地域

(6) インフラ・社会基盤整備

県全体では「安全・安心で快適に生活できる住宅や居住環境の充実」(45.1%)が最も多く、次いで、「生活の利便性や安全性を高めるための生活道路の整備」(37.2%)、「歩道や自転車専用道路の整備」(35.4%)、「移動手段となる公共交通機関(バス、鉄道など)の整備」(34.0%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「歩道や自転車専用道路の整備」や「交通渋滞を緩和するための立体交差事業の推進」、筑豊地域では「移動手段となる公共交通機関(バス、鉄道など)の整備」、筑後地域では「安全安心で快適に生活できる住宅や居住環境の充実」が他地域と比較して高くなっています。

インフラ・社会基盤整備



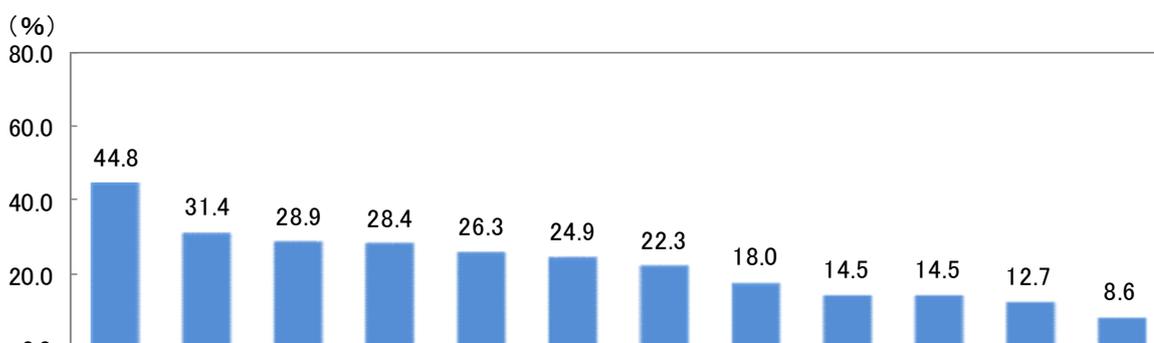
■は4地域中で最も高い値の地域

(7) 子育て支援

県全体では「子育てをしながら働き続けられる職場環境づくり」(44.8%)が最も多く、次いで、「保育サービスの充実(延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど)」(31.4%)、「虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもなど、きめ細かな対応が必要な子どもへの支援」(28.9%)、「犯罪や事故からの子どもの安全確保」(28.4%)の順となっています。

地域別にみると、筑後地域では「妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実」が他地域と比較して高くなっています。

子育て支援



地域別	子育てをしながら働き続けられる職場環境づくり	保育サービスの充実(延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど)	虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもなど、きめ細かな対応が必要な子どもへの支援	犯罪や事故からの子どもの安全確保	健康サービスや医療体制の充実	妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスの確保など	待機児童の解消(保育所の整備や保育士の確保など)	子育て家庭の経済的負担の軽減	社会全体で子育てを応援する気運の醸成	男性が子育てや家事に関わるための意識啓発	ひとり親家庭の自立支援	子育て中の女性の就職支援	地域における子育ての情報提供や相談体制の整備
北九州地域	47.8	32.7	31.1	26.5	28.3	22.3	21.7	17.5	16.5	13.5	12.0	9.0	
福岡地域	42.5	31.4	28.9	28.9	23.3	25.9	21.7	19.0	14.2	15.8	13.2	8.5	
筑豊地域	44.4	31.1	32.2	28.3	28.5	24.5	25.0	14.3	11.9	14.0	12.4	9.1	
筑後地域	48.5	29.4	23.8	30.2	32.3	25.7	23.6	17.4	13.6	12.1	11.7	7.9	

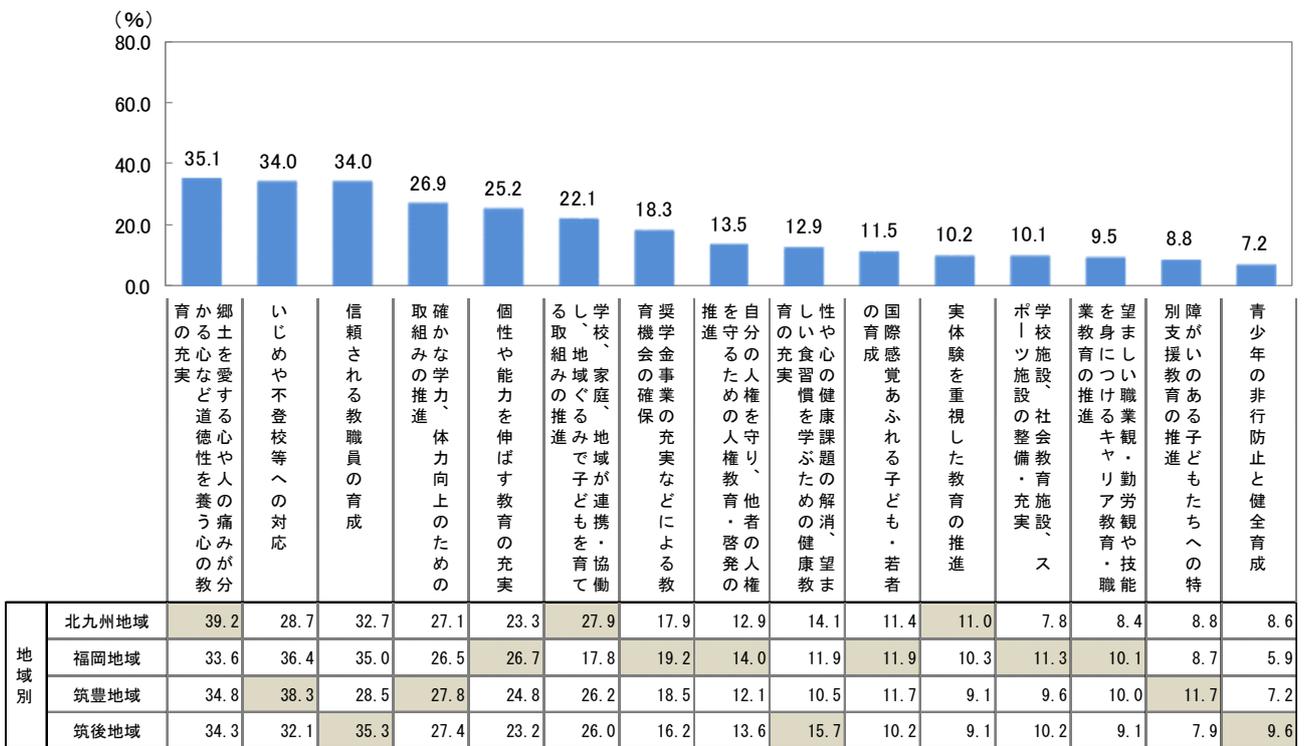
■ は4地域中で最も高い値の地域

(8) 教育

県全体では「郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実」(35.1%)が最も多く、次いで、「いじめや不登校等への対応」、「信頼される教職員の育成」(ともに34.0%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実」が他地域と比較して高くなっています。

教 育



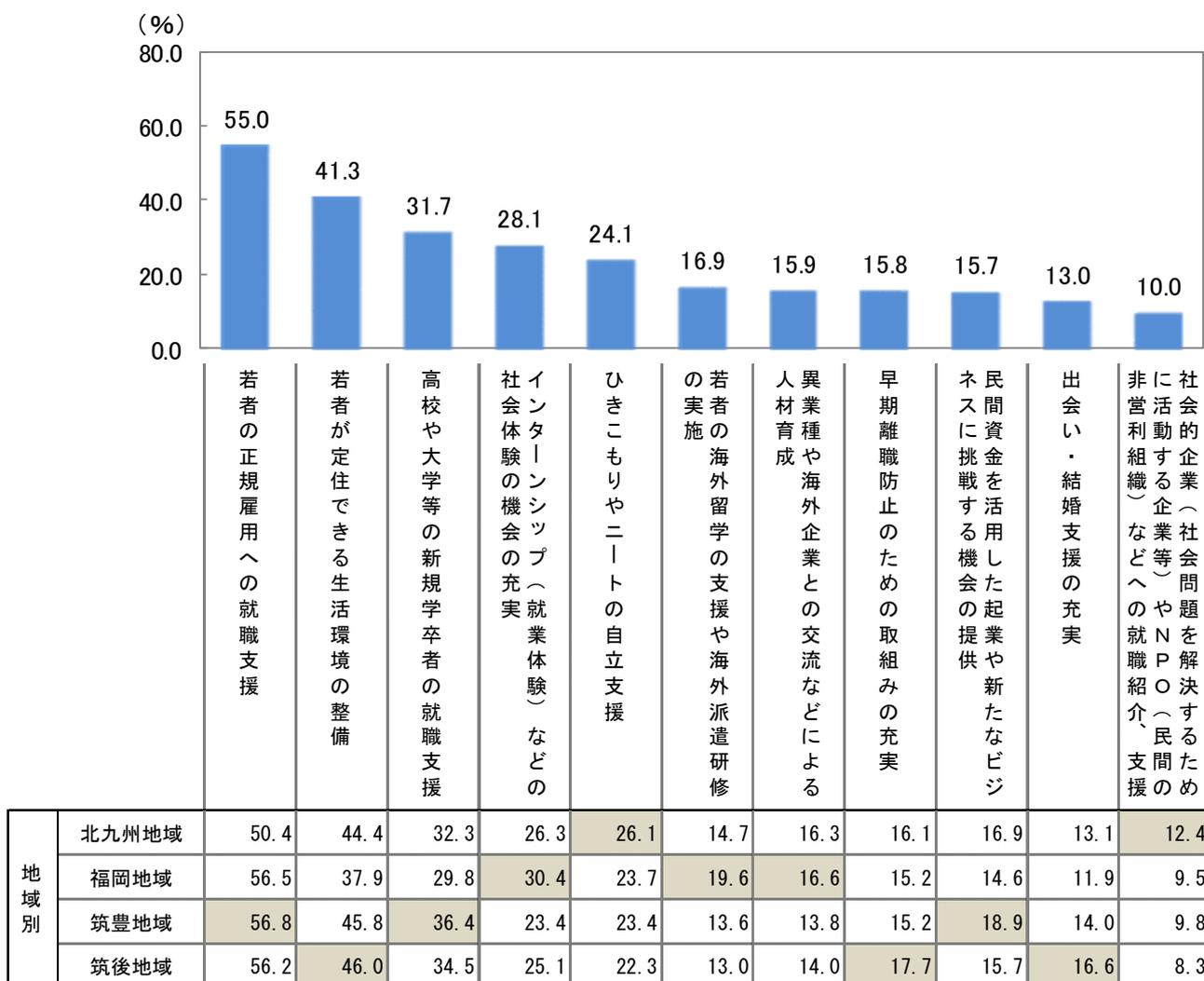
■は4地域中で最も高い値の地域

(9) 若者

県全体では「若者の正規雇用への就職支援」(55.0%)が最も多く、次いで、「若者が定住できる生活環境の整備」(41.3%)、「高校や大学等の新規学卒者の就職支援」(31.7%)、「インターンシップ(就業体験)などの社会体験の機会の充実」(28.1%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「インターンシップ(就業体験)などの社会体験の機会の充実」や「若者の海外留学の支援や海外派遣研修の実施」が他地域と比較して高くなっています。

若 者



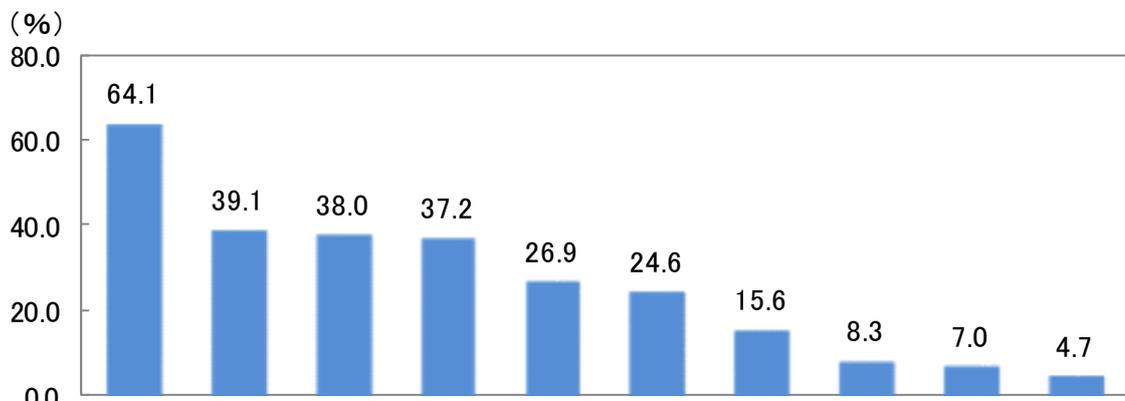
■は4地域中で最も高い値の地域

(10) 女性

県全体では「女性が結婚や出産をしても働き続けることができる職場環境づくり」(64.1%)が最も多く、次いで、「子育て支援の充実」(39.1%)、「勤務時間・勤務体制の見直しなどワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み」(38.0%)、「職場や地域などにおける男女の均等な機会と待遇の確保」(37.2%)の順となっています。

地域別にみると、回答割合に大きな差は見られませんでした。

女 性



		女性が結婚や出産をしても働き続けることができる職場環境づくり	子育て支援の充実	勤務時間・勤務体制の見直しなどワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み	職場や地域などにおける男女の均等な機会と待遇の確保	「男は仕事、女は家庭(家事、子育て、介護の担い手)」といった役割分担意識の払しょく	セクハラ、ストーカー、DV(夫婦・恋人間の暴力)、性暴力の防止対策、被害者への支援	職場や地域などにおける指導的地位(役員、管理職、自治会長など)への女性の進出促進	男性への男女共同参画の意識啓発	女性の起業、キャリア形成支援	さまざまな分野で活躍している女性の紹介(モデル(模範となる人)の紹介)
地域別	北九州地域	66.9	36.7	38.8	34.1	29.5	26.5	15.7	7.4	6.8	4.4
	福岡地域	62.1	39.5	37.9	37.5	26.5	24.5	15.8	8.5	7.5	4.9
	筑豊地域	64.7	40.0	34.3	40.0	27.6	24.8	15.9	8.2	6.3	3.5
	筑後地域	66.4	41.1	38.7	39.4	23.8	21.9	14.9	9.1	5.7	4.7

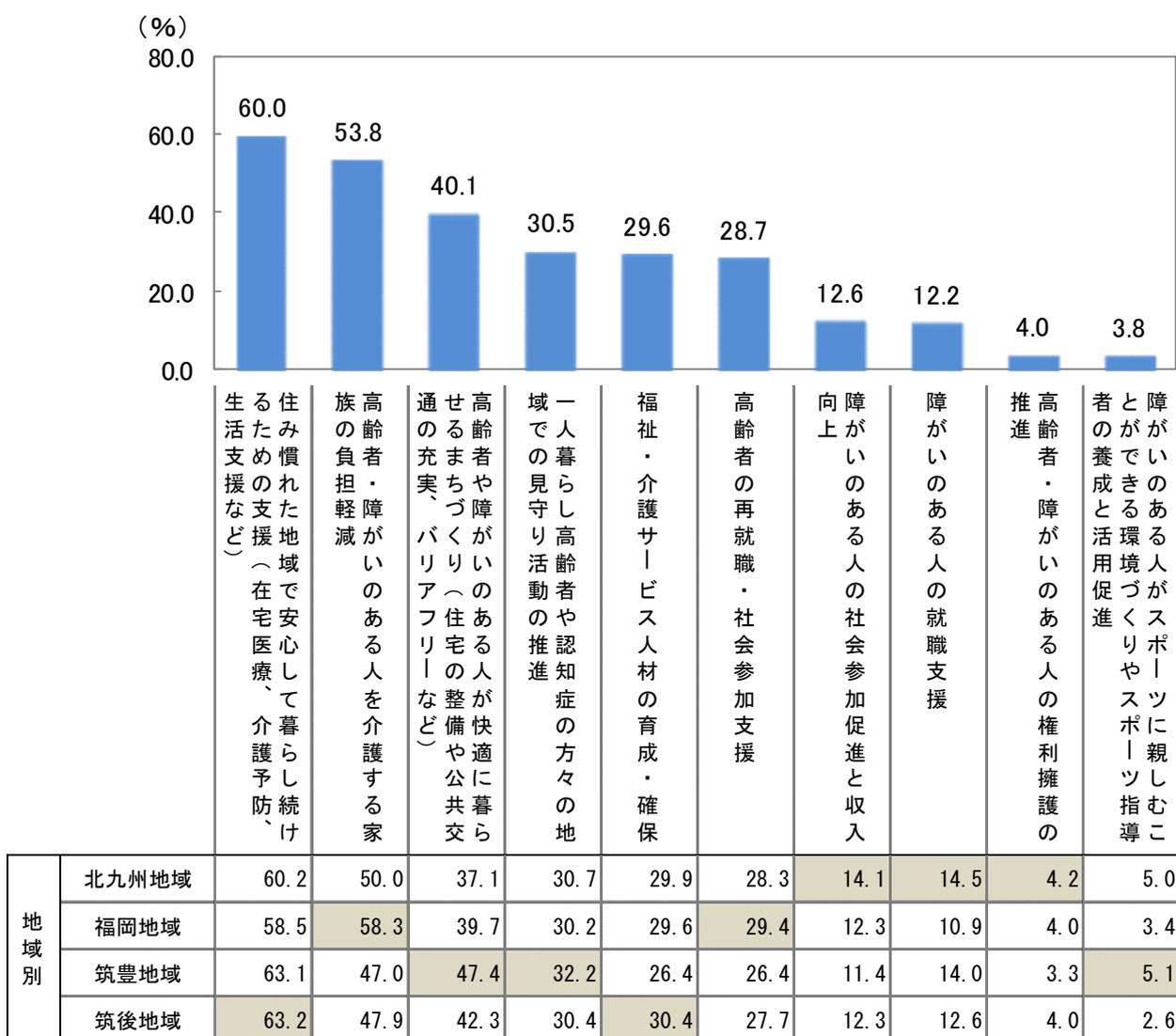
■ は4地域中で最も高い値の地域

(11) 高齢者・障がいのある人

県全体では「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援（在宅医療、介護予防、生活支援など）」（60.0％）が最も多く、次いで、「高齢者・障がいのある人を介護する家族の負担軽減」（53.8％）、「高齢者や障がいのある人が快適に暮らせるまちづくり（住宅の整備や公共交通の充実、バリアフリーなど）」（40.1％）の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「高齢者・障がいのある人を介護する家族の負担軽減」、筑豊地域では「高齢者や障がいのある人が快適に暮らせるまちづくり（住宅の整備や公共交通の充実、バリアフリーなど）」が他地域と比較して高くなっています。

高齢者・障がいのある人



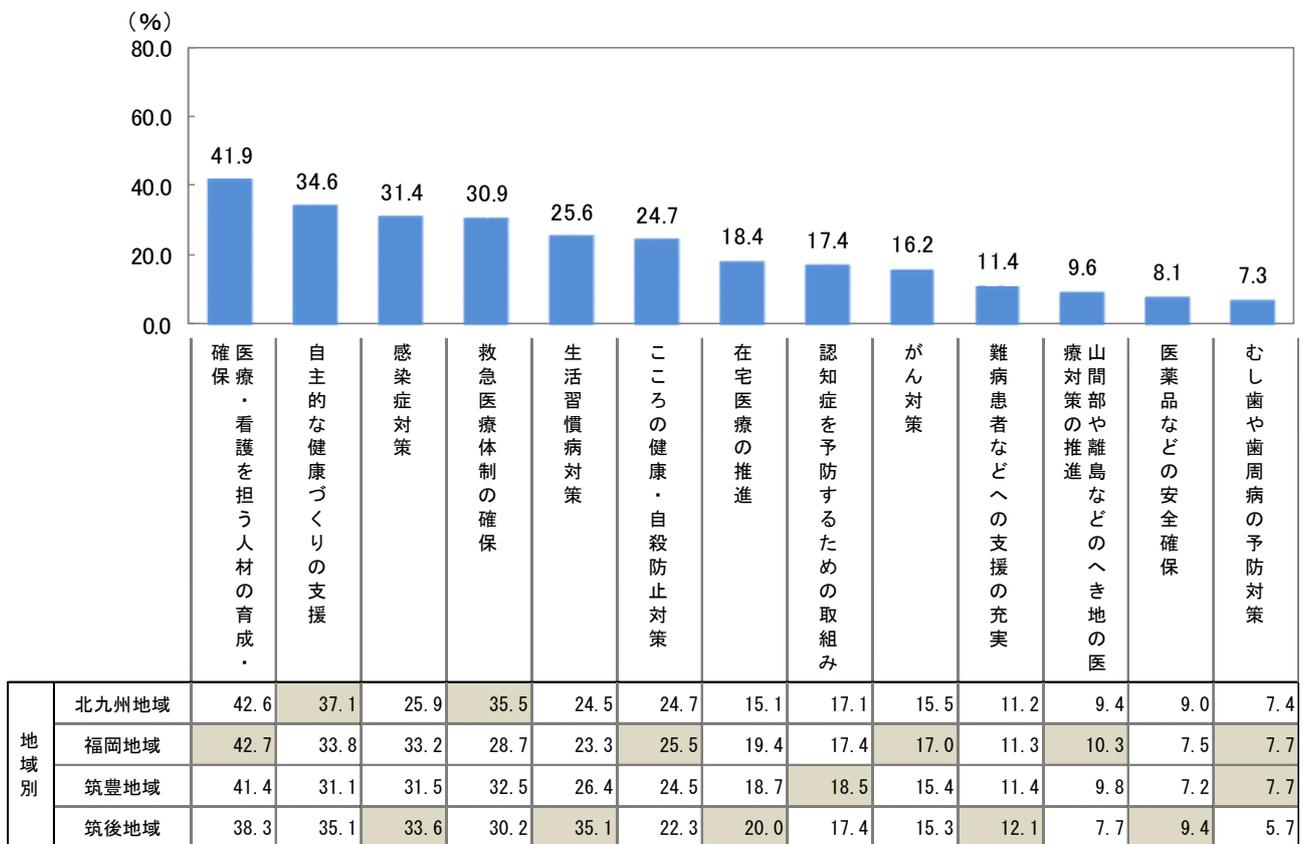
は4地域中で最も高い値の地域

(12) 保険・医療

県全体では「医療・看護を担う人材の育成・確保」(41.9%)が最も多く、次いで、「自主的な健康づくりの支援」(34.6%)、「感染症対策」(31.4%)、「救急医療体制の確保」(30.9%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「救急医療体制の確保」、筑後地域では「生活習慣病対策」が他地域と比較して高くなっています。

保険・医療



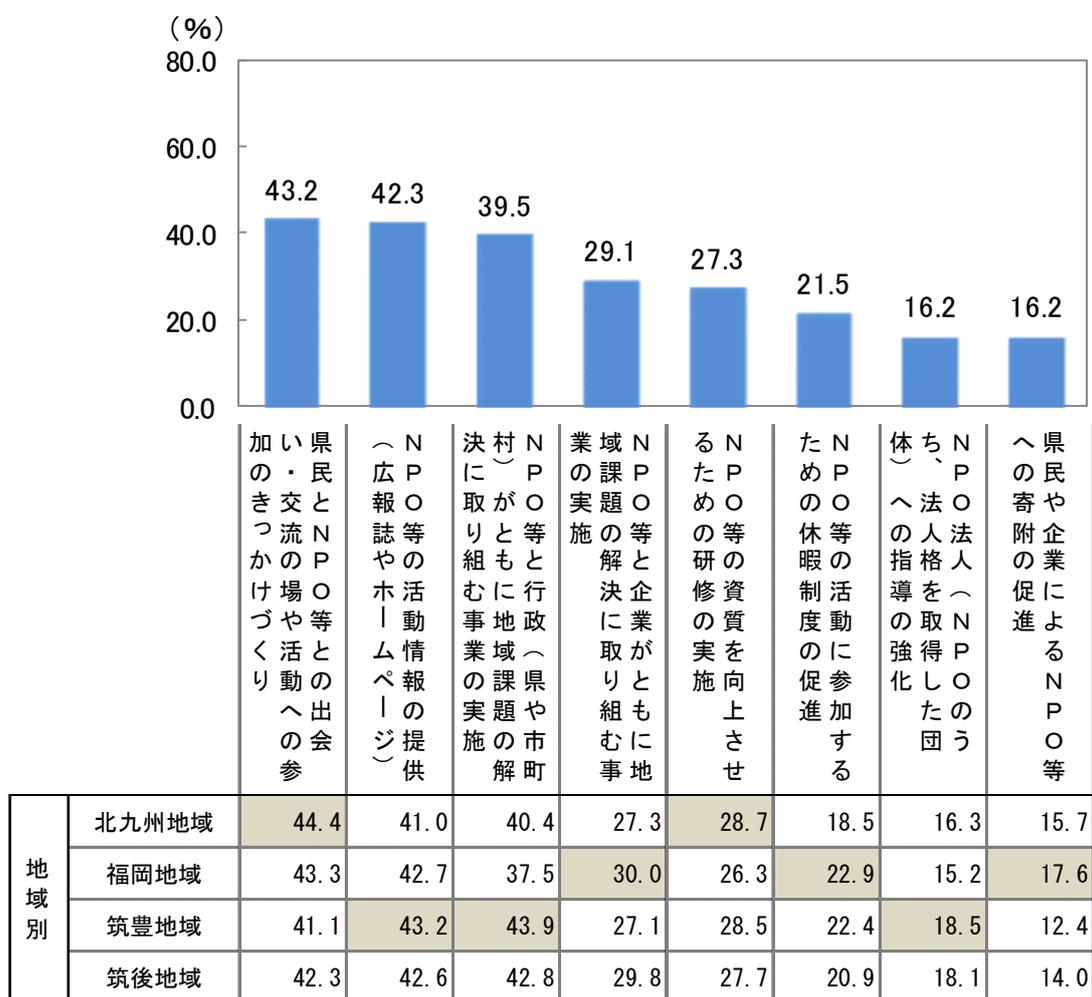
■は4地域中で最も高い値の地域

(13) NPO・ボランティア

県全体では「県民とNPO等との出会い・交流の場や活動への参加のきっかけづくり」(43.2%)が最も多く、次いで、「NPO等の活動情報の提供(広報誌やホームページ)」(42.3%)、「NPO等と行政(県や市町村)がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施」(39.5%)の順となっています。

地域別にみると、回答割合に大きな差は見られませんでした。

NPO・ボランティア



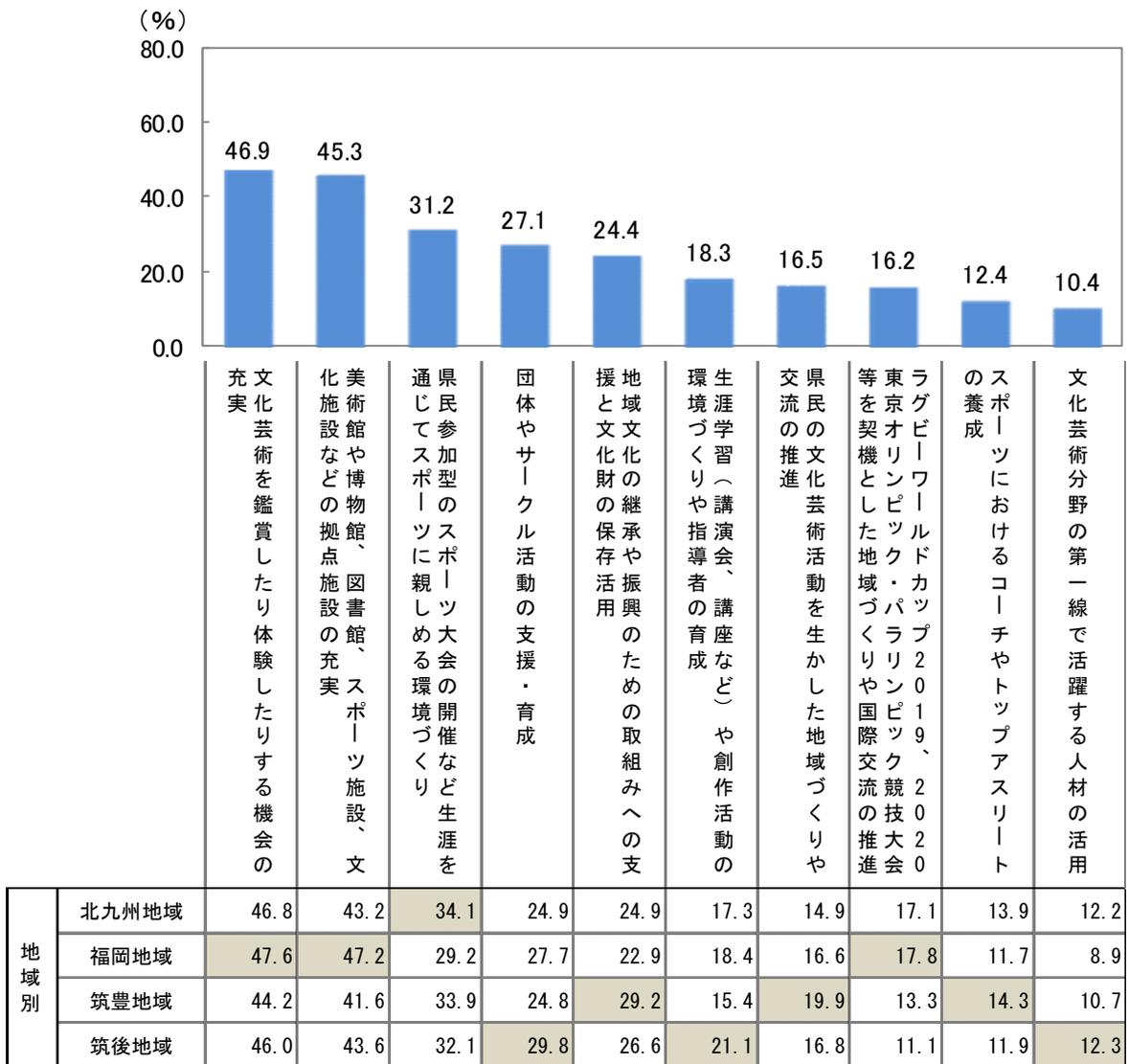
■ は4地域中で最も高い値の地域

(14) 文化・スポーツ

県全体では「文化芸術を鑑賞したり体験したりする機会の充実」(46.9%)が最も多く、次いで、「美術館や博物館、図書館、スポーツ施設、文化施設などの拠点施設の充実」(45.3%)、「県民参加型のスポーツ大会の開催など生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくり」(31.2%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「美術館や博物館、図書館、スポーツ施設、文化施設などの拠点施設の充実」、筑豊地域では「県民の文化芸術活動を生かした地域づくりや交流の推進」が他地域と比較して高くなっています。

文化・スポーツ



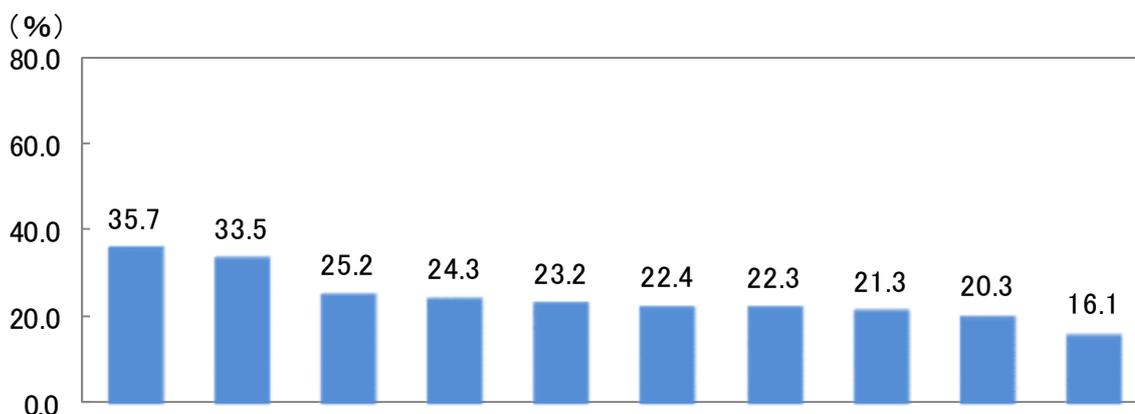
■ は4地域中で最も高い値の地域

(15) 国際交流

県全体では「文化芸術やスポーツでの交流」(35.7%)が最も多く、次いで、「外国人が暮らしやすい環境の整備(多言語での情報提供、相談窓口の開設など)」(33.5%)、「青少年などの海外研修事業」(25.2%)、「国際見本市、物産展の開催、県産品の海外展開への支援」(24.3%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「外国人が暮らしやすい環境の整備(多言語での情報提供、相談窓口の開設など)」、「若者文化を通じた交流(まんが、アニメ、ファッションなど)」が他地域と比較して高くなっています。

国際交流



地域別	国際交流の項目										
	文化芸術やスポーツでの交流	外国人が暮らしやすい環境の整備(多言語での情報提供、相談窓口の開設など)	青少年などの海外研修事業	国際見本市、物産展の開催、県産品の海外展開への支援	国際交流・協力活動を行う民間団体との連携や支援	諸外国との人材ネットワークづくり	留学生などの受け入れ体制の充実	若者文化を通じた交流(まんが、アニメ、ファッションなど)	企業や研究機関への就業支援	専門知識や技術をもつ外国人の県内	アジア諸地域との環境分野での交流
北九州地域	38.6	36.5	22.1	24.7	20.1	18.3	21.1	26.3	22.5	16.5	
福岡地域	34.4	32.6	26.3	25.1	24.7	24.3	22.3	19.0	18.6	14.8	
筑豊地域	36.2	32.5	24.1	22.7	22.2	22.0	21.0	22.7	18.5	19.6	
筑後地域	35.3	32.3	27.0	21.5	23.6	22.3	24.9	20.4	24.0	17.9	

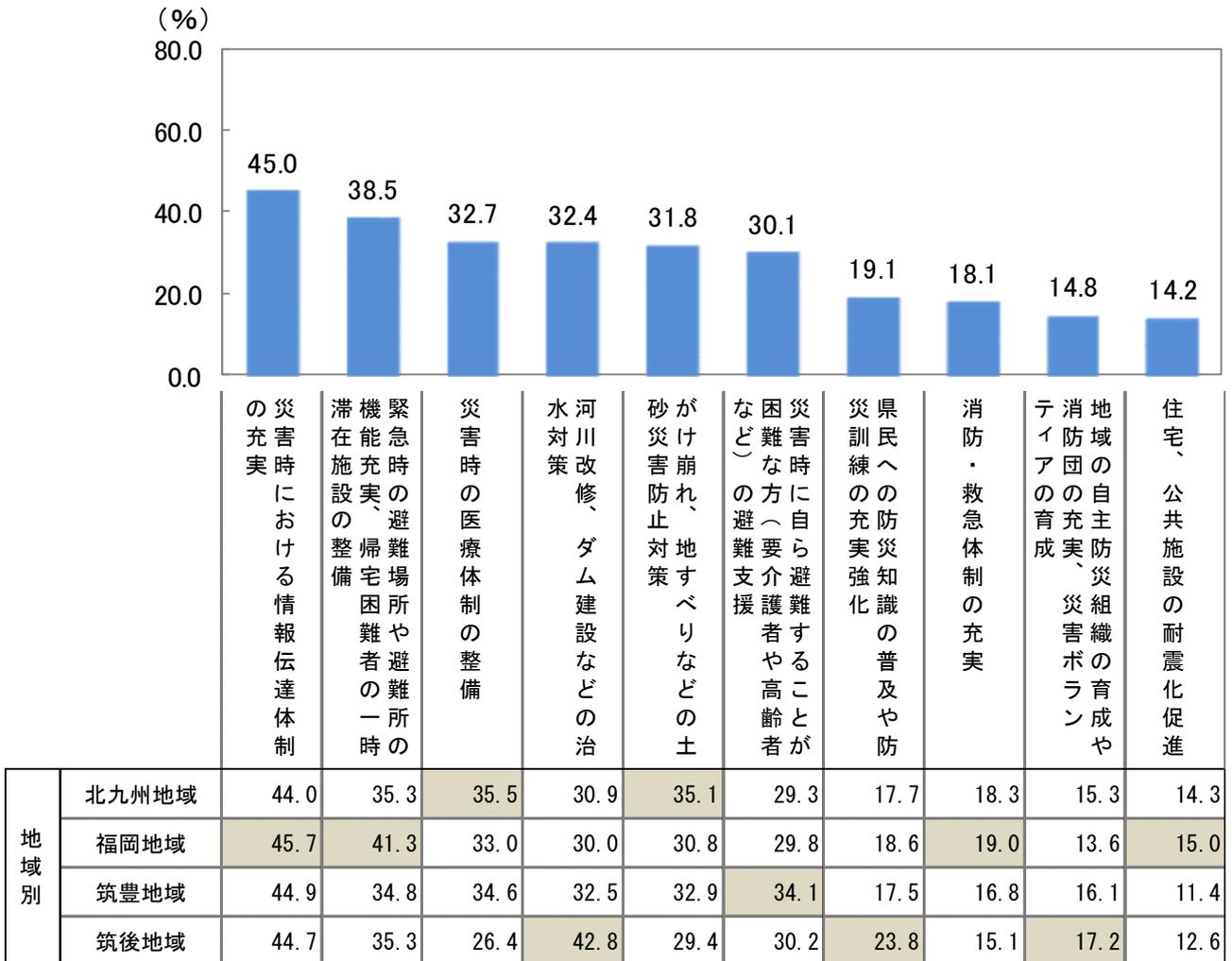
■ は4地域中で最も高い値の地域

(16) 防災対策

県全体では「災害時における情報伝達体制の充実」(45.0%)が最も多く、次いで、「緊急時の避難場所や避難所の機能充実、帰宅困難者の一時滞在施設の整備」(38.5%)、「災害時の医療体制の整備」(32.7%)、「河川改修、ダム建設などの治水対策」(32.4%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「緊急時の避難場所や避難所の機能充実、帰宅困難者の一時滞在施設の整備」、筑豊地域では「災害時に自ら避難することが困難な方(要介護者や高齢者など)の避難支援」、筑後地域では「河川改修、ダム建設などの治水対策」や「県民への防災知識の普及や防災訓練の充実強化」が他地域と比較して高くなっています。

防災対策



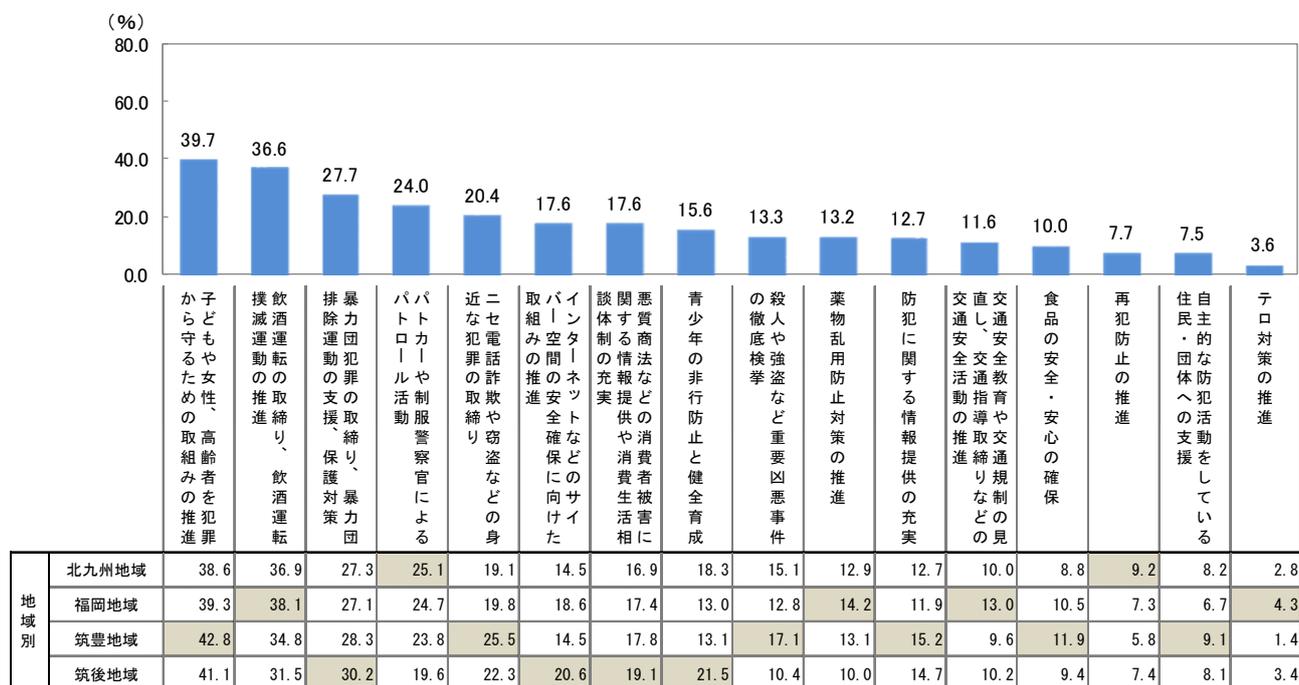
■ は4地域中で最も高い値の地域

(17) 防犯・事故対策

県全体では「子どもや女性、高齢者を犯罪から守るための取組みの推進」(39.7%)が最も多く、次いで、「飲酒運転の取締り、飲酒運転撲滅運動の推進」(36.6%)、「暴力団犯罪の取締り、暴力団排除運動の支援、保護対策」(27.7%)の順となっています。

地域別にみると、筑豊地域では「ニセ電話詐欺や窃盗などの身近な犯罪の取締り」、筑後地域では「青少年の非行防止と健全育成」が他地域と比較して高くなっています。

防犯・事故対策



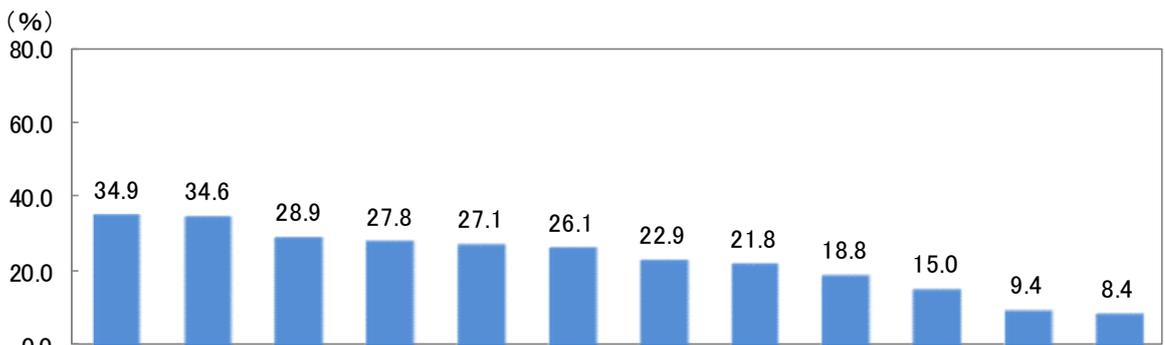
■は4地域中で最も高い値の地域

(18) 環境

県全体では「地球温暖化対策の推進(家庭・事業所での省エネ推進、公共交通の利用促進 等)」(34.9%)が最も多く、次いで、「大気汚染、水質汚濁、生活排水、土壌汚染、騒音、悪臭などへの対策」(34.6%)、「海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染(PM2.5、黄砂など)への対策」(28.9%)、「エネルギーの効率的利用と再生可能エネルギー(太陽光、水力など)の普及」(27.8%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「エネルギーの効率的利用と再生可能エネルギー(太陽光、水力など)の普及」、筑豊地域では「廃棄物の不法投棄対策の強化」、筑後地域では「地球温暖化対策の推進(家庭・事業所での省エネ推進、公共交通の利用促進 等)」や「気候変動の影響への適応(熱中症予防、高温に強い品種の開発等)」が他地域と比較して高くなっています。

環 境



		地球温暖化対策の推進(家庭・事業所での省エネ推進、公共交通の利用促進 等)	大気汚染、水質汚濁、生活排水、土壌汚染、騒音、悪臭などへの対策	海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染(黄砂など)への対策	エネルギーの効率的利用と再生可能エネルギーの普及	リサイクルの抑制、資源化などの推進	美しい田園風景や、自然、歴史、文化などを活かした良好な街並みの保全	気候変動の影響への適応(熱中症予防、高温に強い品種の開発等)	土砂災害防止(水や空気の供給、森林の保全や緑化の推進)	豊かな自然環境や生物多様性の保全・再生	廃棄物の不法投棄対策の強化	動物愛護の推進	環境情報の提供や環境教育の推進
地域別	北九州地域	33.9	35.9	29.9	26.5	29.1	25.1	23.1	20.1	20.3	14.5	8.4	9.6
	福岡地域	33.8	34.4	30.8	29.6	25.7	26.3	21.7	23.5	17.6	15.0	9.9	7.7
	筑豊地域	32.7	35.5	26.4	24.8	25.5	26.2	22.4	22.0	21.5	18.7	8.2	7.9
	筑後地域	41.3	32.6	21.9	25.1	29.4	27.2	26.8	18.7	19.4	14.3	9.6	9.1

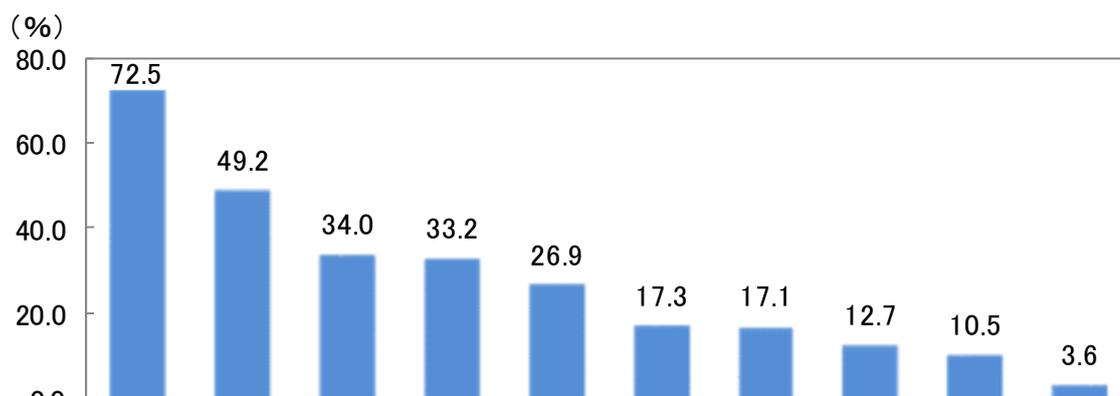
■は4地域中で最も高い値の地域

(19) 新型コロナウイルス感染症対策

県全体では「治療薬・ワクチンの開発」(72.5%)が最も多く、次いで、「医療提供体制の強化」(49.2%)、「迅速かつ正確でわかりやすい情報の提供」(34.0%)、「教育機関、福祉施設、介護施設等における感染拡大の防止」(33.2%)の順となっています。

地域別にみると、回答割合に大きな差は見られませんでした。

新型コロナウイルス感染症対策



		治療薬・ワクチンの開発	医療提供体制の強化	迅速かつ正確でわかりやすい情報の提供	教育機関、福祉施設、介護施設等における感染拡大の防止	生活に困っている世帯や個人への支援	中小・小規模事業者への支援	雇用の維持、確保	ターゲティング、観光・運輸業、飲食業、イベント・エンターテインメント事業等に対する支援	テレビ会議、在宅勤務等、ICT(情報通信技術)を活用したリモート化の推進	農林水産業への支援
地域別	北九州地域	68.9	49.4	32.7	31.3	27.5	18.5	16.3	15.1	11.0	3.6
	福岡地域	72.5	49.6	34.6	33.2	25.5	17.0	18.0	12.6	10.9	3.6
	筑豊地域	76.9	45.1	34.3	36.0	27.8	18.5	17.1	11.2	10.3	2.8
	筑後地域	76.2	49.8	33.8	34.5	30.2	16.0	15.3	10.0	8.3	4.3

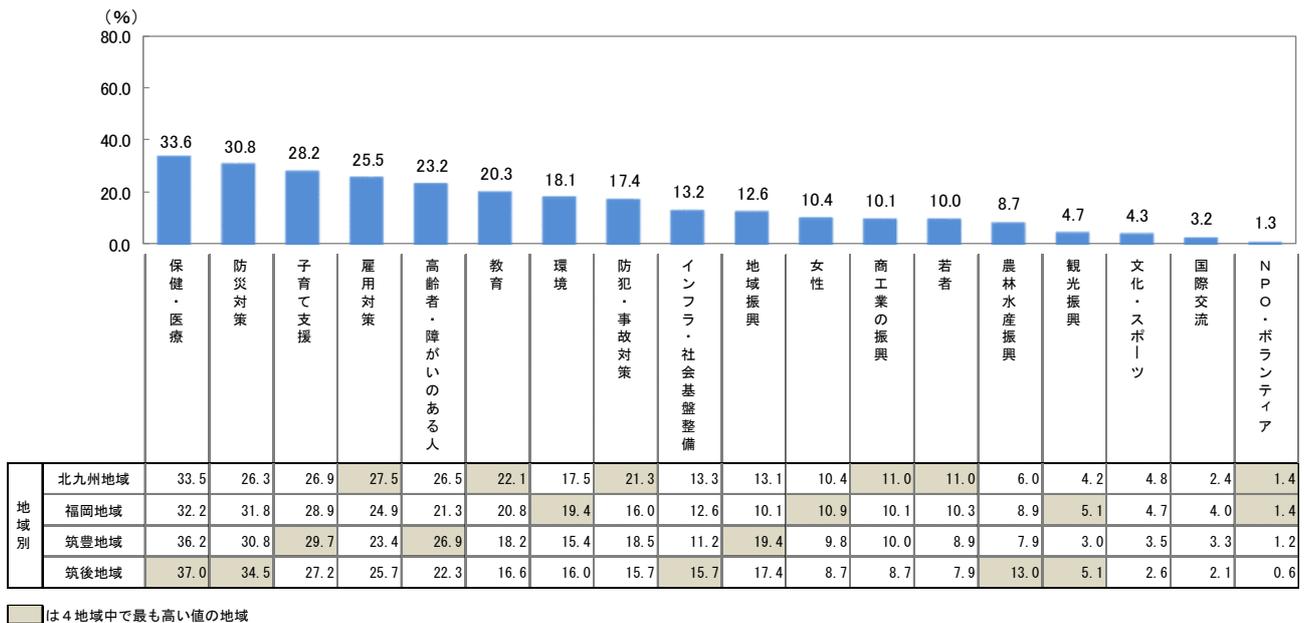
■ は4地域中で最も高い値の地域

(20) 重点分野

県全体では「保健・医療」(33.6%)が最も多く、次いで、「防災対策」(30.8%)、「子育て支援」(28.2%)、「雇用対策」(25.5%)の順となっています。

地域別にみると、筑後地域では「農林水産振興」が他地域と比較して高くなっています。

重点分野



3. 自由意見

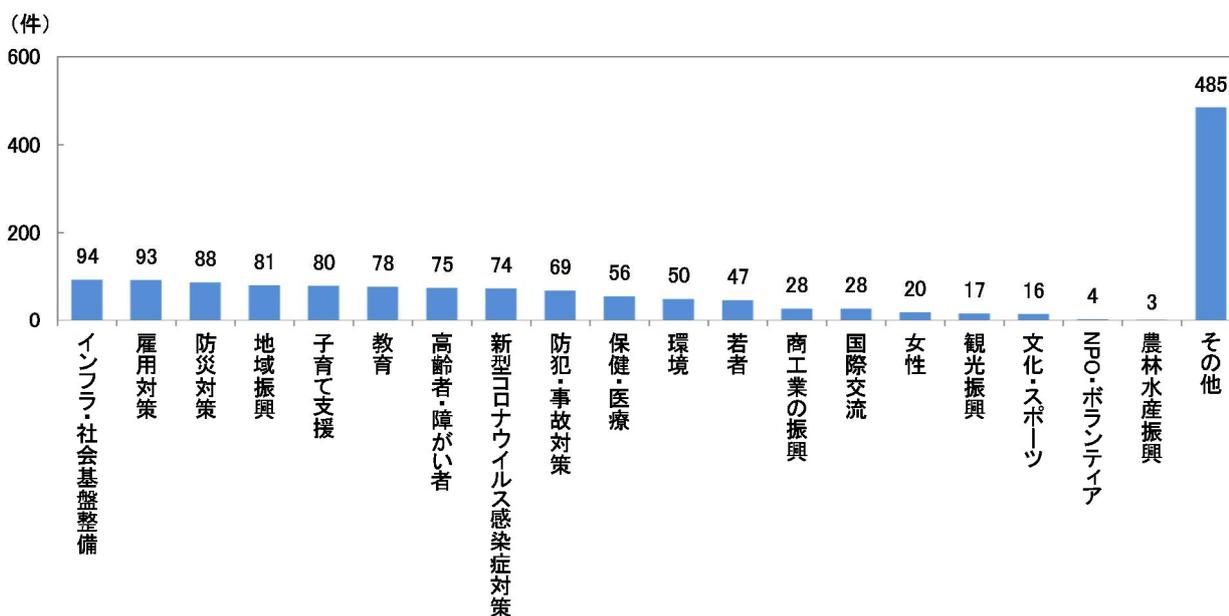
福岡県に期待することや思い描く将来の福岡県の姿について自由に回答してもらったところ、902人の方から、1,486件のご意見が寄せられました。

その内容を分野ごとに分類すると、「インフラ・社会基盤整備」、「雇用対策」、「防災対策」などに関する意見が多く、それ以外にも多岐にわたって幅広く意見をいただきました。

また、どの分野にも該当しない「その他」では、「安全安心・思いやり」、「社会的・経済的弱者への支援」、「行財政」といった内容について、多くの意見が寄せられました。

以下に、分類した意見の数と、主な内容の一部をご紹介します。

自由意見（福岡県に期待すること、思い描く将来の福岡県の姿）



○インフラ・社会基盤整備

- ・福岡市の大都市でなくても、バス等がせめて1時間に1本くらいはあり、高齢になって免許を返納しても安心して外出できる環境にあること。
- ・地下鉄の路線がもっと拡大し、幅広い人達+簡単に利用出来る様で、あってほしいです。(年配の方も、障害のある方も)
- ・スーパーや病院等は車が絶対ないと生活できない。将来がとても不安である。
- ・運転免許証返上における、交通の充実。(町内バスやタクシー) 移動マーケットの設立。
- ・福岡市、北九州市、久留米市の局集中はやむをえないと思いますが、その地域で働ける様、筑豊地区からの鉄道等の便を良くし、通勤等が可能な交通整備を望みます。(鉄道の乗り継ぎの整備)
- ・車の運転が出来なくなった時の、買物や病院への手段がない。
- ・高齢者になっても、車を使わずに生活出来る環境を整えてもらいたいです。
- ・都市部以外でも安心して生活できる環境整備を目指してほしい。
- ・老朽化住宅の手直し。
- ・公共施設の充実と利用促進。生活道路の整備と外燈の設置。

○雇用対策

- ・福岡県は、他県と比べて所得が少ないと思います。
- ・失業者、引きこもり等の非労働力への就職支援。フリーター、派遣社員を正規雇用。
- ・子どもの数が減っているのので、県内の雇用をもっと増やして、若者が県外に出ていかないようにしてほしい。
- ・今回のコロナウイルス感染症が収束しても、季節的なインフルエンザや子供間での感染症はたくさんあるので、在宅勤務、在宅教育があたりまえになってほしい。大企業だけで普及しても意味がありません。
- ・雇用対策に力を入れてほしいです。高齢者も安心して暮らせる社会になってほしいです。
- ・会社の労働基準法を遵守してほしい。もっと働きやすい社会へ。
- ・国で週休二日制度を統一してほしい。有休を消化できる事と買いあげる制度があると嬉しい。有休をとりやすい社会にしてほしい。

○防災対策

- ・毎年のように災害に見舞われる地域があるので、まずは災害復旧に力を入れていただき、できるだけ多くの県民が同程度の生活レベルで毎日を過ごすことができるようになることが、幸福度を上げていく大切な要因であると思います。
- ・災害地などの支援等の積極的な行動。
- ・ほぼ毎年豪雨被害に見舞われているので、豪雨対策をしっかりとしてほしい。
- ・河川の整備を早急に、小さな町、村にある川の堆積排水の整備を願う。町民村民の高齢化が進み、清掃に限界があり、大雨のたびにあふれでているのが現状である。
- ・災害への対策、環境対策を強化してアピールしてほしい。
- ・災害にあった時の避難所の増設と、助けを求める人を一人の命を一人も残さず全員救助する体制を強化する。
- ・最近も大雨による被害が甚大で、復旧が追いついていない地域も多い。安心安全な居住地の移動を行政が提案していくことも必要ではないのでしょうか。

○地域振興

- ・福岡県＝福岡市のイメージが強い。他の地域にも均等に力を入れて欲しい。
- ・県内の地域格差があり、各地域がより交流し、発展できると良い。
- ・田舎の過疎化は進むばかりです。高齢化も進み、若者は都会に出る。若者がいつか戻ってきたいと思う町にしていくためにももう少し地方の声に耳を傾けてほしい。
- ・地域の特色・風土を生かした町作り。都市化しすぎない町作り。子供が夢を持てる町作り。
- ・市や区だけでなく、道路や商店等を充実させて欲しいです。地方に行けば、一人暮らしの方や、車を使用しないと日用品の買い物にも行けないという方々がいらっしやいます。不便を感じる生活は、年を重ねると苦痛です。
- ・地方の商店街が、また、賑わってほしい。
- ・福岡県内のシャッター街をなくしてほしい。
- ・食品を地元の物を安全に新鮮なうちに利用するなど、地元の商店街などを学生や開業資金の少ない方も使用させてあげるなど、まず、地域地元を大切にする！！から福岡全体を幸せにしていくことができればよいなと思います。
- ・アドベンチャー、アトラクション施設を増やしてほしい。

- ・人口が減っていくことを考えると、再利用できる資源（空き家など）もあるのでは。有効に活用して頂き、多額のお金を使うより今あるものを。リフォームする感覚で進めてほしいと思います。

○子育て支援

- ・子育てがしやすく他県からも移住したいと思われるような県になってほしい。
- ・福祉介護対策も大事だと思いますが、これから先、福岡を支えるのは子供たちなので子育て家庭＝ひとり親家庭を大事にしてほしい。
- ・一人親の子育て支援。子供への虐待防止。将来のある子供がみんな幸福になれるように。
- ・結婚、子育て支援はもちろん、産休後の女性（男性）の職場復帰への支援に力を入れて欲しいです。
- ・子供達を安心して育てられる環境。地域が一丸となって子供を守る。通学路の交通安全確保など特に力を入れて欲しいです。
- ・少子化問題の解決の為に、子育て世帯には今以上に支援をしてほしい。たくさんの子供がほしいが金銭問題で一人しか育てられない。
- ・子供医療費無料化。
- ・地方自治体によって子供の医療負担額が違ったりするのを県内一律にするようにしてほしい。
- ・認可保育園の受け入れ、施設の充実化。
- ・不妊治療は高額だからあきらめてしまう人はたくさん居ます。福岡県の医療がもしも安くなれば人も集まり、赤ちゃんもたくさん生まれ人口も増えるはずです。

○教育

- ・子育て世代なので特に思うことは学校の多様性です。先生方や親がもっと協力しながら1人1人にあった勉強や学校生活がおくれたらいいなと思います。
- ・未来を担う子どもたちの教育に力を入れて欲しいと思います。学力はもちろん心豊かに他人に痛みが分かる人間に育つよう教育の環境を整えて下さい。
- ・高校無償化。質の高い教育をして若者を育ててほしい。
- ・子供達は貧富の差がないように、誰でも学べ、活動する場所を提供してほしい。
- ・人が幸福だと思える社会で最も大切な事は、平等を実感できる事。知性、情緒豊かな人間性を育む環境教育の充実を願います。
- ・自分の力で考え、立派な人間になる様、指導をお願いしたいです。日本を知ってから、グローバル化を考えているのが本道だと思います。
- ・子供達が自分の土地で育ち、地元を支えていく大人になってほしいと思います。地域との関わり教育です。
- ・性犯罪が特にこわいので、子供達にはその教育を。犯罪防止の方にも力を入れて欲しい。

○高齢者・障がいのある人

- ・若者が高齢になっても安心して介護（面倒を見てくれる）の心配をしなくてよい制度、体制が作られている県。
- ・老後の不安のない社会実現。
- ・デイサービスなどで少々の娯楽はございますが、専門の先生も限られ、お遊び程度の事しかできません。もっと芸術鑑賞他へ連れて行っていただけるような補助があればよいと思います。
- ・高齢者をもっと活用できる状況にする。
- ・高齢者に対する医療補助の充実。

- ・自分一人で介護するのではなく簡単に入所できる様な施設が増えてほしい。
- ・今でも十分、幸福を感じていますが、期待するのは高齢者が安く行ける、スポーツ施設の充実、また一人になった時の支援（精神）の充実を。
- ・障がい者にとって生活しやすい社会。公共施設等に障がい者枠を増やしてほしい。
- ・障がい者が有る無しにかかわらず雇用があること。安全して生活をしていける収入があること。
- ・重度の障がい者施設、グループホームが大変少ないと思います。入所施設を作らないように県はしている様ですが、精神障がい者はグループホームでは受け入れが難しい方が多くおられます。障がい施設、グループホーム介護者を増やしていただけないでしょうか。
- ・介護・障害者等の福祉施設等に勤務している方々の処遇の向上をしてもらいたい。現在、人手不足が深刻な社会問題となっており、この分野の今働いている方々の処遇を向上してもらえればと思います。

○新型コロナウイルス感染症対策

- ・現時点で考える事はまずコロナが収束しワクチン、治療薬の開発。どうしてもコロナの事が一番心配です。
- ・福岡市と県のコロナ対策に対する支援内容の差を感じる。統一して欲しい。
- ・新型コロナウイルスが収束しない限り、外に出る機会や、人との接触が減るので活動に対しても制限がかかるので、コロナ収束に向けて力を入れて欲しい。
- ・福岡モデルは？県内を3ヶ所くらいに拠点を設け県民が安心して検査受けられる様システム作ってほしい。リーダーのスピードです。
- ・最前線でコロナウイルスと向き合って医療従事者やコロナウイルスに罹患した患者の受入れ又は受入れ態勢をとっている医療機関への支援に期待する。地方都市の状況は特に苦しい。
- ・新型コロナウイルスにより、就活が厳しい状況で、内定を頂くことが難しい事になっている。また、ウイルス流行により、職を失った人が多数いる。そういった人達の為に、何か職業支援のような事をして頂ければ良いのではないかと考えています。
- ・今年、大学生になりましたが、入学して一度も登校できていません。ずっとオンライン授業です。ですが、授業料は変わらないです。学生に対する支援をより多くしていただきたいです。
- ・特に高齢者施設・デイサービス等に感染拡大マニュアルを再度提示し、保育・教育現場へも同様に行ってほしいです。徐々に意識が薄れつつある若者へ県からの呼びかけ（ツイッター等SNSを利用など）をもっとしてほしいと思います。

○防犯・事故対策

- ・交通ルール・マナーがとても悪い県である。取締りや検挙をもっとすべきである。子供や高齢者を守る為、警察にはもっと頑張ってもらいたい。
- ・最近、あおり運転が多いので、運転しやすい環境づくりをして欲しい。横断歩道を渡らない人、自転車のマナーが悪い人、全てに注意している上にあおり運転にも注意しないとイケない。
- ・暴力団、飲酒運転の取締り強化を推進して欲しい。
- ・福岡県に限らずSNSでの書き込みなどできなくしてほしい。誹謗中傷多すぎ。心が傷ついたら、立ち直るまでに時間もかかるし立ち直れなかつたりも多いし、楽しく人生を送りたい。
- ・田舎は変質者を野放しにしがちなので対策して欲しい。
- ・サイバーテロ防止、空き巣、放火の予防。

○保健・医療

- ・心の健康を様々な世代が保つ為に何が出来るか考えて頂きたい。虐待、非行、自殺、ひきこもりなど心の健康が大きく関わっている。
- ・健康寿命を保つ為の健康指導や、高齢者が運動出来る施設の充実。
- ・年金生活になった時の医療費の軽減。
- ・収入の少ない人でも、体の具合が悪い際、病院代金を国が補助して、病院へかかれるようにすること。
- ・北九州の医療制度が大学病院一か所しかない事で中核になる病院が不足（人口に対して）している。その他の地域を含め、医療連携にもっと力を入れて欲しい。

○環境

- ・荒れた田畑、河川、山林を美しい自然に戻してほしい。
- ・再生可能エネルギー（水力、潮力等）を積極的に推進して持続可能な社会の仕組み。
- ・県民が温暖化や環境に関心をもち、心掛けることで、自然や環境を守る意識を身につけることが環境を守るために大事だと思います。
- ・都会と田舎が共存できる環境が良い。現在も良いと思っている。
- ・福岡市はいつも住みやすい都市ランキング上位なので、このイメージを継続する努力をしてほしい。PM2.5が多いので、環境問題にももっと力を入れてほしい。
- ・飼主を失った動物の保護施設の設立、避妊去勢手術の助成、悪質ブリーダーの取締り、地域猫活動への理解等、行政として注力頂き、動物と共生出来る社会が幸福度を高める事の1つになると思います。

○若者

- ・これからの若者が幸せに暮らせる様に教育や就職のことに力を入れてほしい。資格も取れやすいように工夫できるようにしてほしい。
- ・引きこもりの若者を救ってほしい。そして、その若者の能力を引き出し活用してほしい。
- ・若者がこれからの福岡を造り上げていくのだから、予算がないのであれば高齢者よりも若者に対してもっとお金をかけて補助してほしい。
- ・若い世代が活躍出来るように税金の軽減や、起業サポート、就業サポートしてもらいたい。
- ・福岡で生まれ育った若者達が、東京や大阪と言う大都市圏に就職せざるを得ない現実。企業の誘致やベンチャーなど、若者がもっと福岡に残り、仕事出来るような県になって欲しいと思っています。
- ・子供や若者が、経済な問題で、夢をあきらめなくていい社会を望みます。

○商工業の振興

- ・地方市にもそれぞれ独自の産業発展が目指せる企業の誘致。
- ・観光も重要だが、コアとなる産業の育成と定着による雇用の確保と安定化が必須である。
- ・アジア諸地域との企業交流がさかんになり職場環境・生活環境がもっと豊かになる人材確保に育成、推進を行ってほしい。
- ・海外支援の誘致、創業支援、ベンチャー企業への優遇。
- ・第2の香港みたいな大都市を作って欲しい。金融、物流等の最先端の町（街）。

○国際交流

- ・福岡が歴史的にアジアの玄関口として、発展して来た、他にない底力を活かして、これらのアジアの発展に貢献できるような、元気な福岡であってほしい。東京を追いかけるのではなく、独自の歩みを。
- ・外国人の留学など力を入れて、グローバルになってほしい。
- ・福岡の特徴をビジネスに継ぐ戦略。国際化と外国人の受入れし、交流、移住の推進。
- ・九州の代表県として国際性豊かな県になってほしい
- ・日本とアジア諸国の結びつきを強くする玄関口としての役割や、九州エリアのリーダー的な役割も果たしてほしい。

○女性

- ・障がい者、女性、子育て、はひとくくりだと思うので、安心して育てられ女性がもっと自立できる制度に力を入れてほしい。
- ・経済的に弱いといわれている働くシングルマザーの家庭や非正規雇用の方々への助成金強化をして欲しい。
- ・結婚、出産、育児で仕事を続けることをあきらめた女性をたくさん見てきました。自分次第だとは思いますが、社会・職場の環境と後押しも必要だと思います。女性が多く活躍する社会のベースを作ってください。
- ・「男女平等」が優先され、女性が働きにくい環境が昔と全然変わらない企業が多い。どんなことでも、人が居ないと充実しない。そのためには子どもを安心して生める・育てることができる環境づくりが大切だと思う。

○観光振興

- ・県外の人々が来た時に紹介できる観光地が少ないと感じます。
- ・外国人観光客に依存するのではなく、国内の観光客も増える取り組みを期待します。
- ・福岡県だよりに載っている今月のイベント、有名なものばかりなので、もう少しマイナーなものを教えてほしいです。そうする事で、普段行かない市町村へ行き、地域の観光振興になるのでは？
- ・福岡は食べ物もおいしく、良い街ですが、観光の目玉がない。都会の遊び場がなく、いまいち人が集まらず活性化してない。USJクラスの施設があったら、いいと思う。
- ・柳川へ来て遊べる様な施設。たとえば県立野球場、体育館、公園、その他作ってもらいたいです（運動場）。

○文化・スポーツ

- ・東京や大阪だけしかイベントがないとなると色々な面で不利を感じるなので、その辺に力を入れて欲しい。
- ・Jリーグクラブ、大相撲九州場所は貴重な財産である。県として、財政面、インフラ面等支援してほしい。
- ・生活していくのが精一杯の中、文化・芸術が後退していく事のない様、心の豊さを感じられる県であってほしいと願います。
- ・地域ごとにスポーツ施設をたて、子供達が安全にスポーツを楽しめる環境を作っていただきたいと思っています。

○NPO・ボランティア

- ・NPO・ボランティアの活動をしている方々への社会的優遇（例えば経済的負担を減らすなど）があれば、それに関わる人々が増えて地球にも人にも優しい県になれると思います。
- ・コロナで犬、猫を飼う人が増え、面倒をみきれず捨てる、保健所へという人が多いと聞く。殺処分ゼロに向けてもっとNPO支援や里親募集情報を広く発信すべき。

○農林水産振興

- ・県内第1、2、3次産業の活性化。
- ・若い人が県内で農業や畜産業、水産業など（第一次産業）に取り組む支援を充実して欲しいです。
- ・自然と都市、豊かな農林水産、安定した気候を生かした県まちづくりをして頂けたらと思います。

○その他

（安全安心・思いやり）

- ・お互いを思いやり、相手の立場に立って考え行動できる人が増えて欲しいです。
- ・教育に力を入れて、人を思いやり、地域の為に働く人材を育ててほしいです。
- ・すべての人がやさしい気持ちを持てば、かなり幸福感を得ることができると思います。道徳教育が大切だと思います。
- ・不安をもちながらの日々の生活ではなく、各個人が仕事にたずさわり、やりがいを感じながら日常を過ごせるようにして欲しい。
- ・地域のコミュニティが充実しており、お互い助け合いながら健康で文化的な生活が送れている。老若男女に関らず、お互いの役割・人権を尊重しあっている。すべての人が社会に参加しており、日々充実した生活が送れている。
- ・今迄そしてこれからも安心、安全な海の幸、山の幸（野菜）が食せること。また災害の多い昨今、被害にあわれた方に優しく寄り添える行政であることを希望します。
- ・県民全体で県民を支える。平均的な県になって欲しい。
- ・子どもからお年寄りまで安心して暮らせる町。

（モラル・マナー・県民の意識の向上）

- ・県民一人一人が自分達も福岡の幸福度が高まるように努力しなければいけないと思います。
- ・県民一人ひとりのモラルの強化と常識やマナーを守るという感覚をしっかりと持つこと。
- ・飲酒運転事故ワースト1に過去なったように、県民のモラルの低さ、民意の低さが見受けられます。県民の意識が変わり、他人を思いやることのできるあたたかい住みやすい県になればと思います。
- ・人材育成、コンプライアンスの徹底と教育指案。
- ・自由は良いが、自由すぎて昔の様な思いやりや優しさが少なくなっている。一般常識がない人が増えている、教育は学問だけでなく人材育成が必要になっていると感じている。

（家族・地域との繋がり・絆）

- ・隣近所と密な近所付き合い。
- ・地域、行政ともに力をいれた仲間意識の向上。
- ・生活する中で、人間関係が希薄化してきていると思うので、協力や助け合いができるための環境づくりや情報提供を進めてほしい。

- ・子供達が自分の土地で育ち、地元を支えていく大人になってほしいと思います。地域との関わり教育です。
- ・今住んでいる場所で近所の方々と仲良く老後を送る事が出来、一人暮らしが出来なくなった時は、受け入れてくれる施設がある事。子供達の元気な声が聞こえる地域である事。

(社会的・経済的弱者への支援)

- ・本当に真剣に生きて働いて頑張っている人でも苦しい生活をしている人も多くいる事に対して、そんな人達の事もわかってほしいと思う事は、結構あります。
- ・弱い立場の人を見捨てるのではなく、出来る限り手を差し伸べて住みやすい福岡県になって欲しいと思います。
- ・福岡県の姿は現状で十分なのですが…もっとこまかな貧困とまではいかないが、困っている生活者は一年先どんなふうになっているのか？そういう人または家庭があることも頭に入れて、住民の為に考えてほしい。

(いじめ・虐待・差別をなくす)

- ・人がどんな人でも差別する事なく、その人の人権を尊重し合える。そんな人が増えたらいいと思います。
- ・LGBTの方々も他の方々と変わらない仕事ができ、融通の利く柔軟性のある思考を持つような人が増えてほしい。
- ・子供に自由を与えられる制度。LGBTQへの理解。
- ・学校、職場での、いじめ、不登校、パワハラを無くしてほしい。ひきこもり、ニートの自立支援し社会復帰出来る様にしてもらいたい。
- ・いじめを許さないための教育ができる教職員の育成。(その為に無駄な業務内容の改善。業務が多すぎて子供に目が向いていかない、向けられない)
- ・障害がある人でも、差別されることなく一人ひとりが理解し、サポートや支援を十分に受け、仕事や生活がしやすいような環境、国であってほしいです。

(格差の是正)

- ・色々な面で格差の無い事。
- ・今はまだ、福岡が終のすみかとして…とは思えない。格差がものすごくあると思います。のんびりしているようで、せせこましくて冷たい福岡なので、ほっとできる県になればよいと思う。
- ・地域・貧富・教育などの格差のない社会や生活。格差を感じている人が、格差が縮まったと思える様な、安心して暮らせる福岡県になって欲しいです。

(人口減少対策)

- ・人口減少地域に対する増加対策としての補助やアドバイス。
- ・道路とかお金のかかることはやめて今の道路等の老朽化が進んでいる為、公共工事は整備だけにして子育て、人口増加を考えないと日本の将来は危ない。
- ・人口減少問題、環境問題に取り組む県であってほしい。もちろんこれだけに限るものではないが、人口減少問題に向きあうことは自然と共存・共生できる社会、子どもが元気に成長できる社会、そういう福岡県を実現して頂ければと思います。

- ・福岡市以外の人口流出が続いている他の市への対策。
- ・大牟田市では毎月100人近く人口が減少しているため5年、10年後はどうか不安です。人口が減少しない対策をとってもらいたいです。

(経済発展・経済成長)

- ・中国、韓国頼りの経済にしない。
- ・経済がよくなれば、生活が楽になり、教育にも良い影響を与え、格差がなくなる。
- ・九州の経済の中心地として、福岡県のみではなく、九州全体の経済成長を支えまた取り込むような形で地域発展をしてほしい。

(SDGs)

- ・SDGsの取り組みについて、県として対策などを発信して欲しい。
- ・子供達が次の世代を安心して生活していける持続可能な環境づくりに取り組んでいきたい。その為には一人一人が地道にコツコツと身近なところから行うという啓蒙活動が必要であると思う。

(行財政)

- ・相談しやすく、対応してくれる行政。不公平のない幸福を感じる生活、充実した生活になれば…。
- ・県の情報について、福岡県のHPは見にくい。知りたい情報をすぐに見つけられるよう、見やすくしてほしい。迅速な情報提供を希望。
- ・県と県内市町村の行政手続きの統一化。同様の手続きは同じ様式ややり方で手続きできるように県が指導してほしい。
- ・以前、県の教育委員会に問い合わせた事があるのですが、対応が画一的で、全く何も解決しないことがありました。市町も同じで、新しい取り組みに消極的で自分達から変化や進化していくような考えは無いように感じました。まずは行政の意識改革からではないでしょうか。
- ・ボランティアや寄付に頼ることなく、しっかりとした財政政策を立てて、足元をしっかり固めて、未来に負担を残すことなく、地道に取り組んでほしい。税金を払うために、生活を切り詰めて生きている人々のお金なのです。
- ・県内地域差が無い均等（バランス）の取れた財政支出（農村⇔都市部）。

(政治について)

- ・小川知事に強いリーダーシップで、どんどんと幸福度を高めてほしい。自然、食べ物、最低限の生活保障。
- ・忖度の無い政治にしてほしい。
- ・コロナ対策のことで政府の無能さを改めて知りました。保健所の対応もどうかと思います。福岡県は政府のようにならないよう願います。
- ・コロナ禍、県民の生活は混頓としています。こういった時にこそ行政のリーダーシップが求められると思っています。県民の立場での、発想とスピード感が必要です。
- ・県と市町村の連携に依り、市町村も「幸福度日本一」を目指した施策を進めてほしい。市町村議会の改革を指導して下さい。当選後の研修制度や選挙に出られるかどうかの資格の試験とか制度化して下さい。
- ・議員の定数を減らして下さい。

- ・市議員の定数を減らして欲しい。そのお給料分を、年金支払いに回せると思います。名ばかりで、仕事もしていないのにお給料を市民の税金から支払われるのはおかしいです。
- ・県議、市議員の活動が、住民・県民にもっと知れる活動に期待したい。

(税・社会保障)

- ・私達の世代は、子育て終了後親の介護や孫育てのサポートを頑張っています。自分の老後の時は、社会福祉が充実し、独り暮らしになった時でも、自立できる環境をお願いします。
- ・年金支給の安定化。
- ・年金生活者が 65 才を過ぎてまで、生活のためだけに仕事を続けていかなければならない様なことはあってはならないと思います。
- ・税金がある程度高くても老後には生活資金とか医療費など心配しないで楽しく生きられる社会。
- ・介護保険、健康保険が高い。
- ・税金と公共料金の見直し。
- ・県民税を安くして欲しい。
- ・消費税を下げしてほしい。苦しい。
- ・不必要な政治家を減らし、税金の無駄遣いをやめて、必要とする弱者へ税金をまわしてほしい。愛のある福岡県にしてほしいです。
- ・税金の使い方の工夫。ムダをなくし、税率を下げる。
- ・福岡は本当に住みやすく幸せだと思います。ただ、年金や保険料は上がっていく一方、収入は増えるわけでもなく、国民年金、健康保険を負担している身としては、子供にかかるお金や老後に対する不安でいっぱいです。税金が少し上がっても将来に不安がなく暮らせる社会になってほしいです。

(幸福について)

- ・福岡県で生活したいと思える＝幸福 だと思います。環境・雇用・子育て・福祉が充実している福岡県を目ざして欲しい。
- ・幸福度は目標をつくるという事で「幸せ」を感じると思う。自分だけではなく社会全体の幸せ・幸福を深めていき、一人一人が家庭を大切に日々を大事に充実感を感じながら生きていく。
- ・人の幸せなんて、人それぞれですので自分が感謝しながら、前向きに幸せと思って生きていきたいです。県に対して不満も、特別ありがたいと言う事ありません。
- ・皆が誰かのために貢献できる社会ができるといいと思います。幸福の考え方は人それぞれであって答えが一つではないと思います。

(調査について)

- ・意識調査を行うならば県民のために、よく精査をして無駄を無くし、税金を使ってほしい。
- ・回答の項目は目先の対病療法的なものが多く、回答者もそれに○をつけるのではないかと思っています。もっと長期的な取り組みをしないと幸福度も一過性のものになります。行政の取り組みとして難しいこともあるでしょうが、県民の本音を導く回答が欲しい。
- ・この意識調査を行っている自体がとても「期待できる、より良くしようとしてくれている」という気持ちが伝わります。
- ・目先のことだけ、県民からのうけ狙いのみでなく、我が県ならではのユニークな試策を展開して欲しい。その為には老若男女からの様々な意見を聞く機会を多くもって欲しいと思います。
- ・福岡県に期待することは、この調査票を基に、県民と日本に夢のある将来を創造して頂きたい。

(その他)

- ・あまり期待しない。
- ・県民を大切に思って、頑張ってもらったら嬉しいです。
- ・個人の個性が本当に輝ける社会になって欲しい。
- ・普段の生活は何の不自由もなく過ごしておりますが、子どもが大きくなる時は、また時代の流れで社会も変わっていくそれに対応できるような地域づくりを私たちが今しなければと思った。
- ・福岡県のTV番組を県民がかかさず見る位の番組作り。
- ・偏った意見にならず、幅広い意見を取り入れてほしいです。
- ・福岡県民である事を、みんなからうらやましがられるようなブランド性。
- ・他の県の方へ誇れる福岡であってほしい。

4. 本調査における特徴的な結果

(1) 幸福実感の“判断基準”と“重視事項”による幸福実感の差

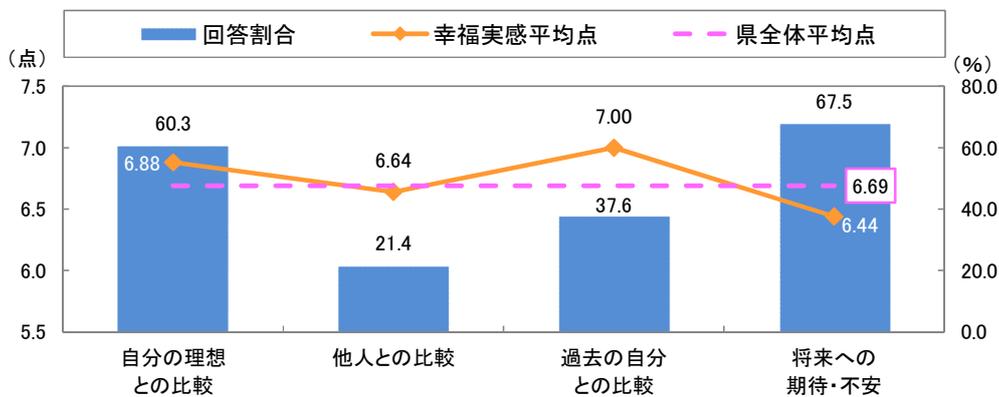
- 「過去の自分との比較」、「自分の理想との比較」を判断基準とした層の幸福実感は、比較的高い。
- 「将来への期待・不安」を判断基準とした層の幸福実感は、比較的低い。

幸福実感を判断する上で重視した基準（以下、判断基準）別に幸福実感平均点をみると、「過去の自分との比較」（7.00点）が最も高く、次いで「自分の理想との比較」（6.88点）、「他人との比較」（6.64点）、「将来への期待・不安」（6.44点）となっています。なお、判断基準別の平均点の順位は前回調査と同様の結果となっています。

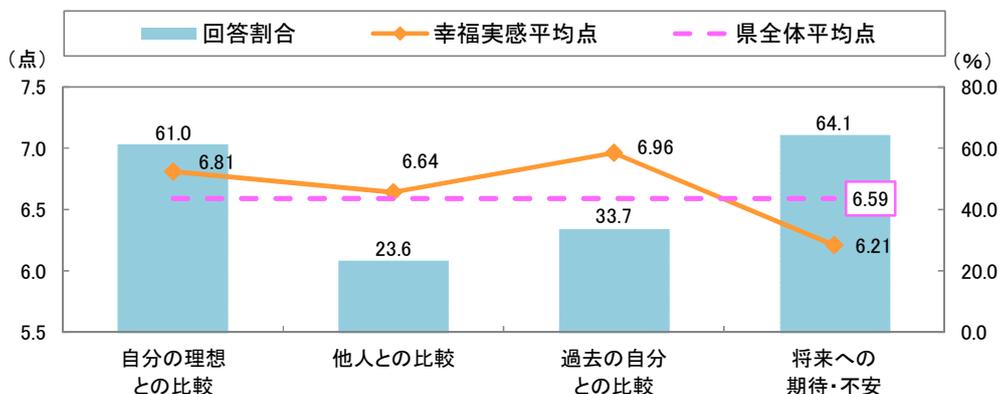
「自分の理想との比較」、「過去の自分との比較」では、平均点が県全体より高いことから、県全体の平均点にプラスの影響を与えていると考えられます。

一方で、「将来への期待・不安」は平均点が低く、将来について期待よりも不安を感じている層が、県全体の平均点にマイナスの影響を与えていると考えられます。なお、「将来への期待・不安」は回答割合が前回調査と同様に最も多く、県全体の67.5%を占めています。

判断基準別の回答割合と幸福実感平均点



判断基準別の回答割合と幸福実感平均点（前回）



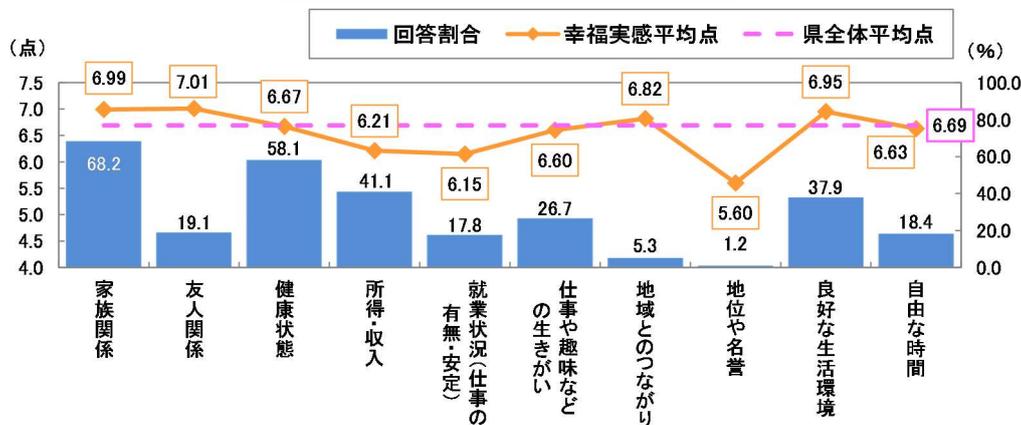
- ・「家族関係」、「友人関係」、「良好な生活環境」を重視事項とした層の幸福実感は、比較的高い。
- ・「所得・収入」、「就業状況（仕事の有無・安定）」を重視事項とした層の幸福実感は、比較的低い。

幸福実感を判断する上で重視した事項（以下、重視事項）別に幸福実感平均点をみると、「友人関係」（7.01点）が最も高く、次いで「家族関係」（6.99点）、「良好な生活環境」（6.95点）となっています。また、「所得・収入」（6.21点）、「就業状況（仕事の有無・安定）」（6.15点）は平均点が低くなっています。なお、重視事項別の平均点の水準は前回調査とほぼ同様の結果となっています。（「地位や名誉」を除く）

「友人関係」や「家族関係」、「良好な生活環境」の平均点が高いことから、身近な人間関係や生活環境に満足している層が、県全体の平均点にプラスの影響を与えていると考えられます。なお、「友人関係」の回答割合は県全体の約2割、「家族関係」は約7割、「良好な生活環境」は約4割となっています。

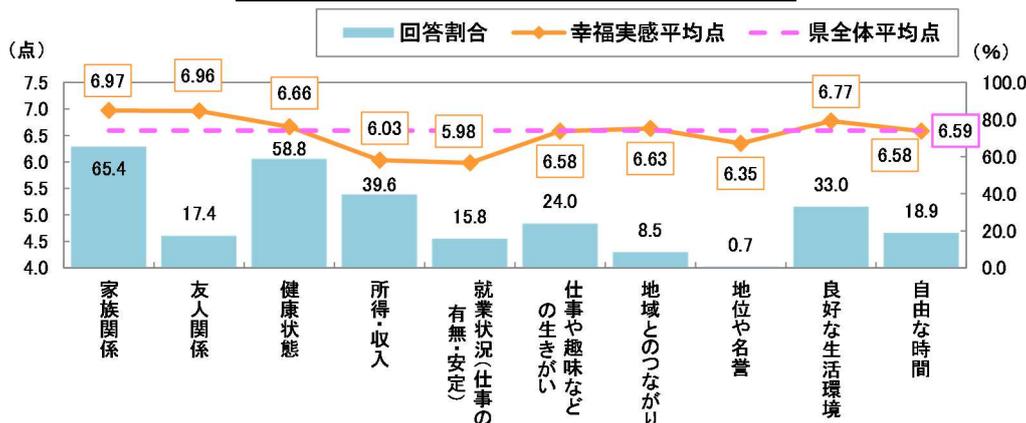
また、「就業状況（仕事の有無・安定）」や「所得・収入」の平均点が低いことから、仕事関係や経済的な面で不満を感じている層が、県全体の平均点にマイナスの影響を与えていると考えられます。なお、「就業状況（仕事の有無・安定）」の回答割合は県全体の約2割、「所得・収入」は約4割となっています。

重視事項別の回答割合と幸福実感平均点



※「地位や名誉」はサンプル数が少ないため、分析から除外している

重視事項別の回答割合と幸福実感平均点（前回）



(2) 家族構成による幸福実感の差

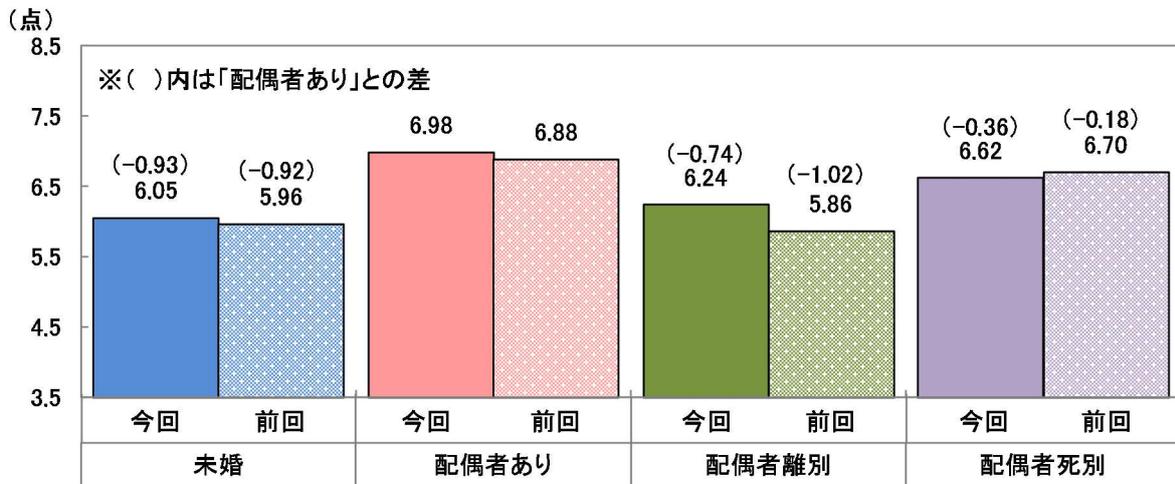
- ・「配偶者あり」は「未婚」等比べて、幸福実感が高い。
- ・男性は女性に比べて、「配偶関係」が幸福実感に与える影響はやや大きい。

配偶関係別に幸福実感平均点をみると、「配偶者あり」(6.98点)が最も高く、次いで「配偶者死別」(6.62点)、「配偶者離別」(6.24点)、「未婚」(6.05点)の順となっており、前回調査と比較すると、「配偶者死別」を除くいずれの層も幸福実感の点数が高くなっています。なお、今回調査では前回と異なり、「未婚」の平均点が最も低くなっています。

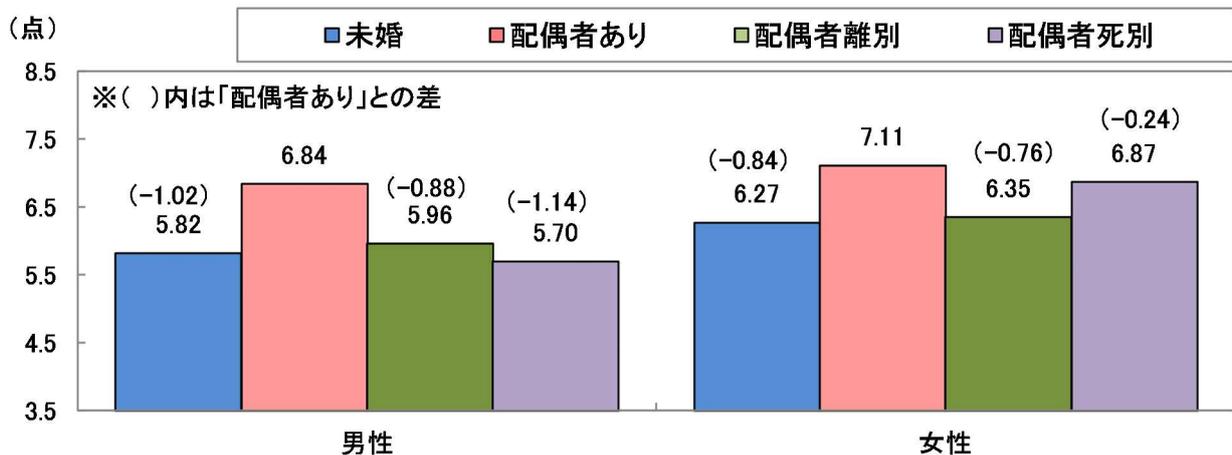
男女別にみると、男女ともに「配偶者あり」の平均点が最も高くなっています。また、「未婚」と「配偶者あり」との平均点の差を比較すると、男性は1.02点差、女性は0.84点差となっています。なお、前回調査では、男性は1.09点差、女性は0.81点差でした。

「未婚」と「配偶者あり」の差から、男性の方が女性よりも、配偶関係が幸福実感に与える影響がやや大きいことがうかがえます。

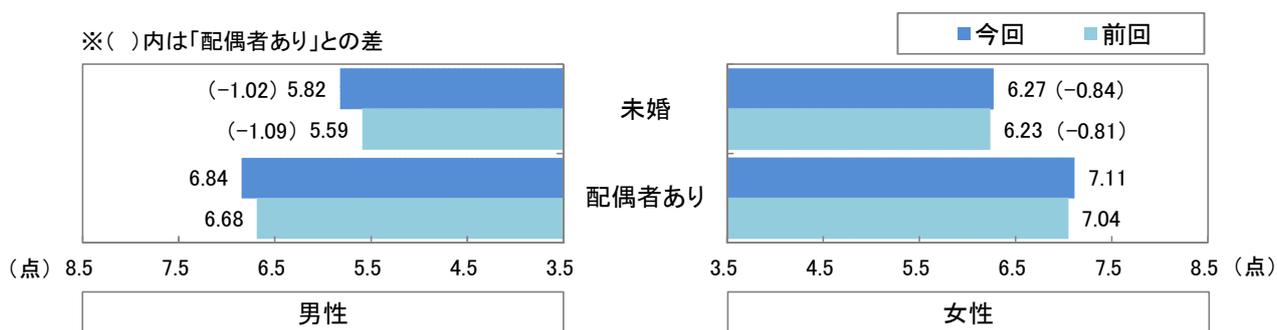
配偶関係別の幸福実感平均点



配偶関係別の幸福実感平均点(男女別)



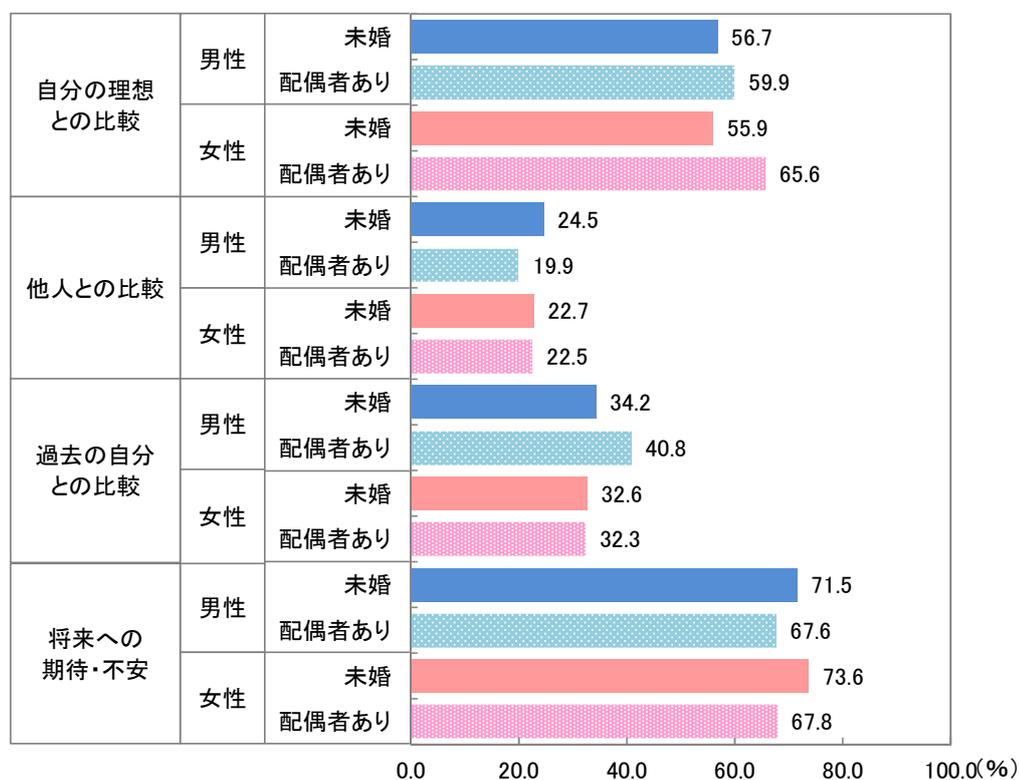
配偶関係別の幸福実感平均点（男女別：前回との比較）



また、幸福実感の判断基準の回答割合をみると、男女ともに「未婚」「配偶者あり」にかかわらず、「将来への期待・不安」の割合が高くなっています。

「未婚」と「配偶者あり」との差を比較すると、男性では「過去の自分との比較」で大きな差が見られ、「配偶者あり」の割合が6.6ポイント高くなっています。また、「他人との比較」では「未婚」の割合が4.6ポイント高くなっています。女性では「自分の理想との比較」で大きな差が見られ、「配偶者あり」の割合が9.7ポイント高くなっています。また、「将来への不安・期待」では「未婚」の割合が5.8ポイント高くなっています。

配偶関係別の幸福実感判断基準（男女別）

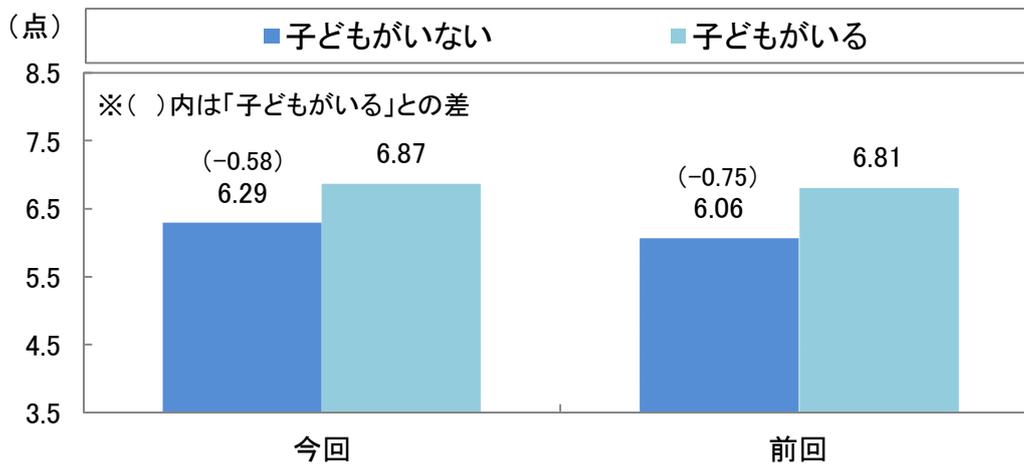


- 「子どもがいる」は「子どもがいない」に比べて、幸福実感が高い。
- 男性は女性に比べて、子どもの有無が幸福実感に与える影響がやや大きい。

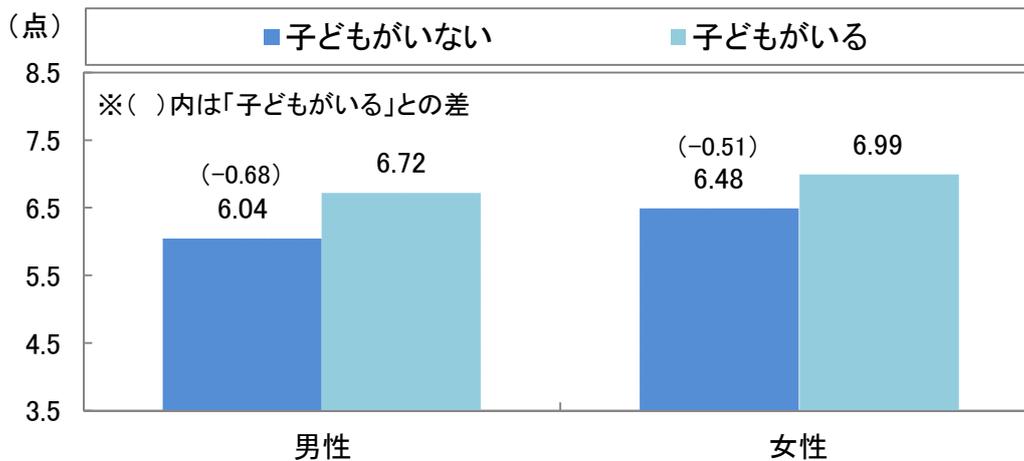
子どもの有無別に幸福実感平均点をみると、「子どもがいる」(6.87点)が「子どもがいない」(6.29点)に比べて0.58点高くなっています。なお、前回調査でも「子どもがいる」が高く、0.75点差でした。

男女別にみると、男女ともに「子どもがいる」の平均点が高くなっています。平均点の差を比較すると、男性は0.68点差、女性は0.51点差となっており、男性の方が女性よりも子どもの有無が幸福実感に与える影響がやや大きいことがうかがえます。

子どもの有無別の幸福実感平均点



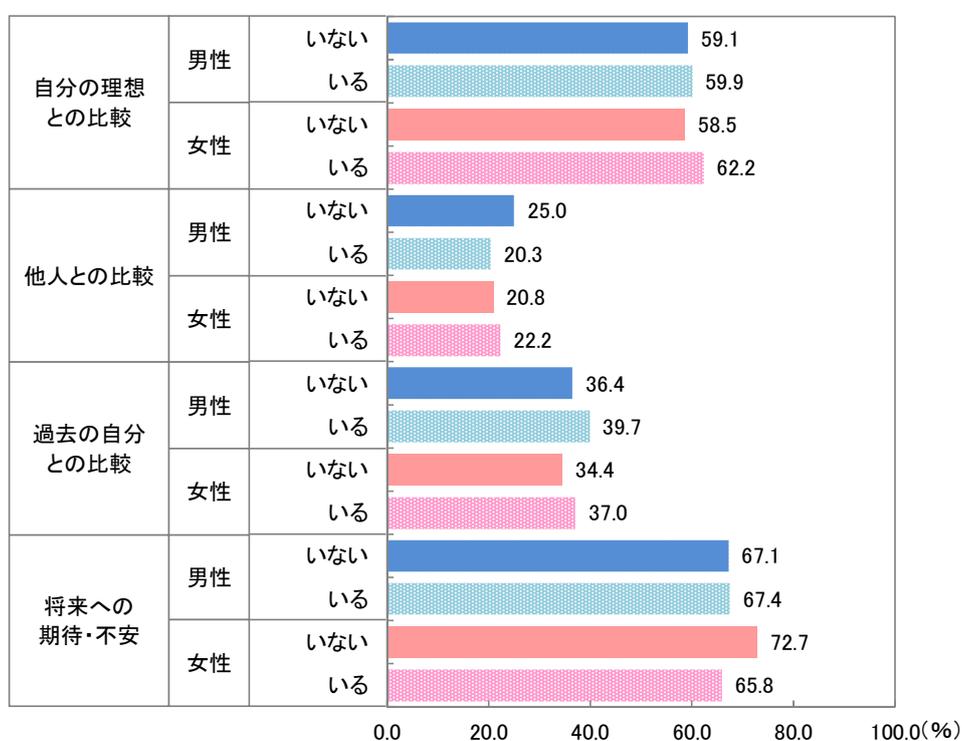
子どもの有無別の幸福実感平均点 (男女別)



また、幸福実感の判断基準の回答割合をみると、男女ともに「子どもがいない」・「子どもがいる」にかかわらず、「将来への期待・不安」が最も高くなっています。

「子どもがいない」と「子どもがいる」との差を比較すると、男性では「他人との比較」で大きな差が見られ、「子どもがいない」の割合が4.7ポイント高くなっています。また、「過去の自分との比較」では「子どもがいる」の割合が3.3ポイント高くなっています。女性では「将来への期待・不安」で大きな差が見られ、「子どもがいない」の割合が6.9ポイント高くなっています。また、「自分の理想との比較」では「子どもがいる」の割合が3.7ポイント高くなっています。

子どもの有無別の幸福実感判断基準（男女別）



(3) 男女別・年代別による幸福実感の差

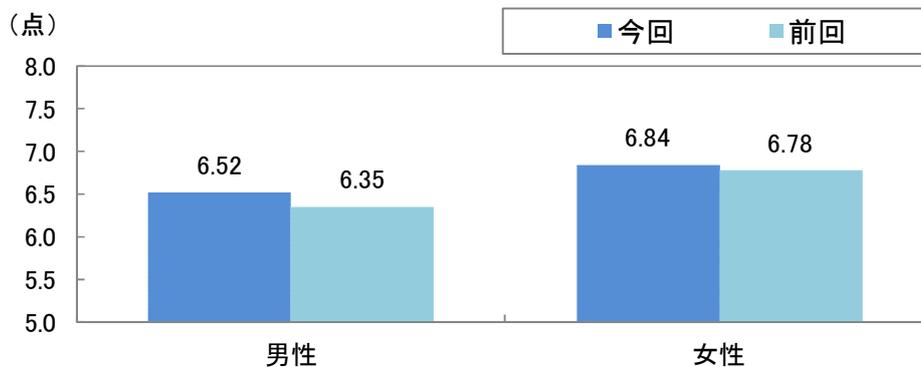
- 女性は男性より幸福実感が高く、50歳代を除く年代で県平均点を上回っている。
- 男性では40歳代が県平均を上回っている。
- 29歳以下男性、40歳代男性、30歳代女性、60歳代女性は幸福実感の点数が前回調査より上がっている。
- 30歳代男性、50歳代女性は幸福実感の点数が前回調査より下がっている。

男女別に幸福実感平均点をみると、女性が0.32点高くなっています。前回調査と比較すると、男性は0.17点、女性は0.06点それぞれ上がりました。

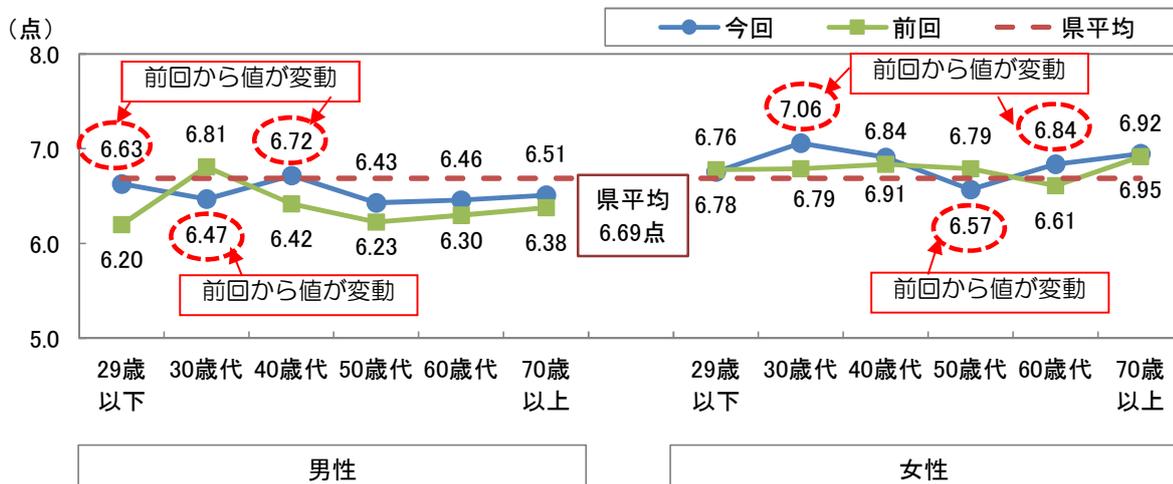
性・年代別にみると、男性は40歳代を除くすべての年代が県全体の平均点を下回り、女性は50歳代が県全体の平均点を下回りました。特に、50歳代男性(6.43点)が最も低く、次いで60歳代男性(6.46点)が低くなっています。

また、前回調査と比較すると、29歳以下歳男性は0.43点、40歳代男性は0.30点、30歳代女性は0.27点、60歳代女性は0.23点上がっている反面、30歳代男性は0.34点、50歳代女性は0.22点下がっています。

男女別の幸福実感平均点



男女・年代別の幸福実感平均点

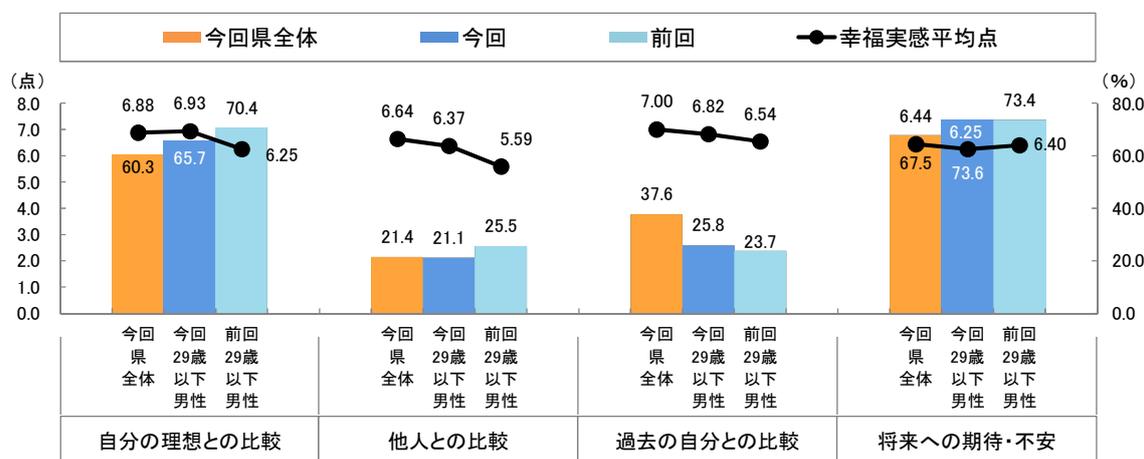


29歳以下男性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、前回調査より「過去の自分との比較」が2.1ポイント増加し、「自分の理想との比較」が4.7ポイント減、「他人との比較」は4.4ポイント減となっています。また、幸福実感の平均点は「将来への期待・不安」を除くいずれも前回より上がっています。特に「他人との比較」の平均点は0.78点上がっています。

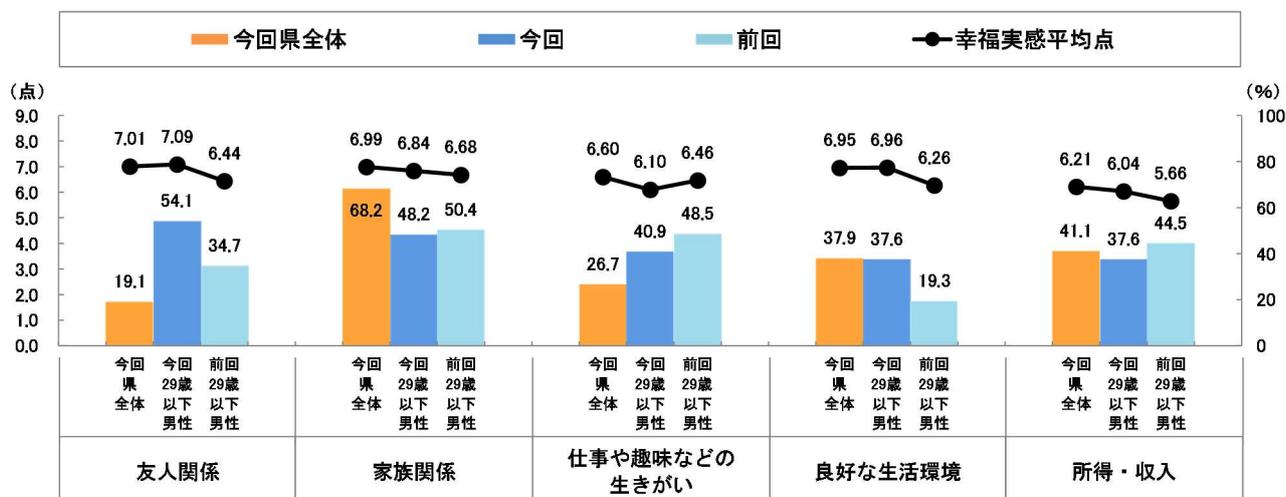
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「友人関係」が19.4ポイント増、「良好な生活環境」が18.3ポイント増となっています。また、幸福実感の平均点は「仕事や趣味などの生きがい」を除くすべての項目で前回より上がっています。

これらのことから、29歳以下男性の幸福実感にプラスの影響を与えているのは、過去の自分と比較した場合の、友人関係や生活環境などに対する満足感ではないかと考えられます。

【29歳以下男性】判断基準別の幸福実感平均点



【29歳以下男性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）

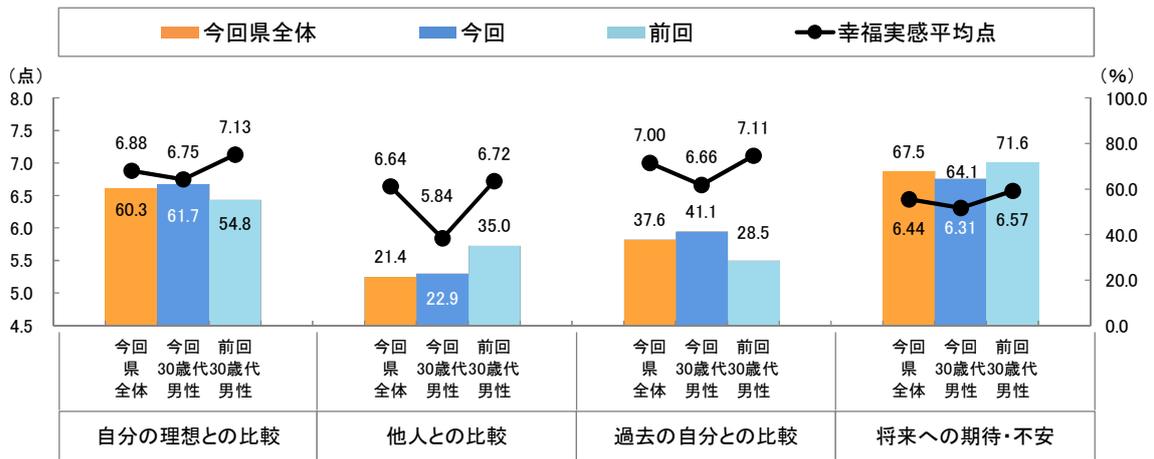


30歳代男性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、「過去の自分との比較」では前回調査より12.6ポイント増、「自分の理想との比較」では6.9ポイント増となっています。一方、「他人との比較」は前回より12.1ポイント減となっています。また、幸福実感の平均点はすべての項目で前回調査より低下しており、特に「他人との比較」では前回より0.88点下がっています。

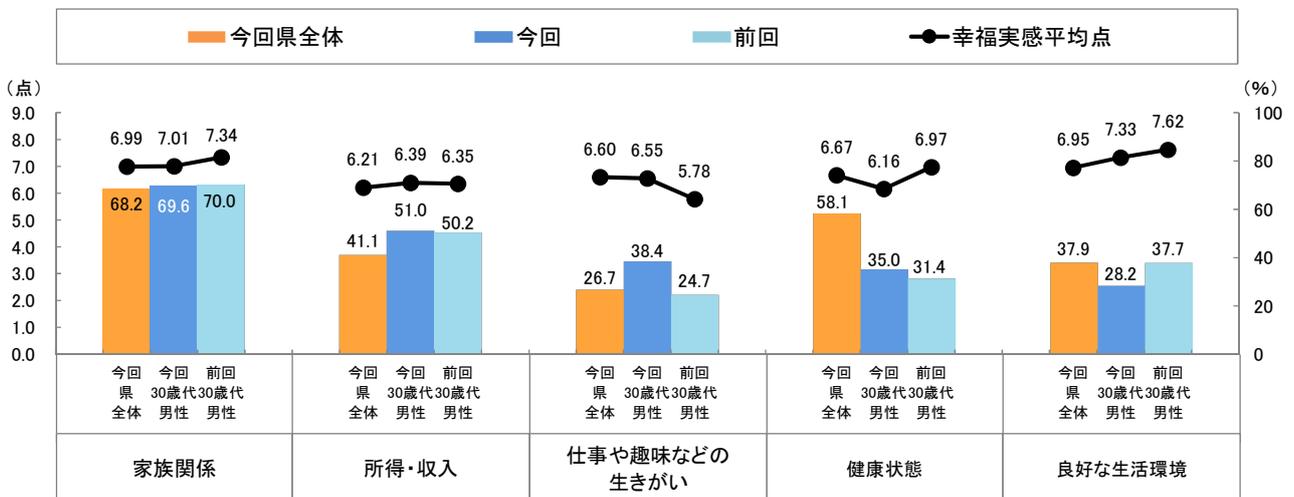
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「家族関係」と「良好な生活環境」を除く3項目は前回調査より増加しており、特に「仕事や趣味などの生きがい」は13.7ポイント増となっています。ほかに前回との差が大きな項目は「良好な生活環境」で、9.5ポイント減となっています。また、幸福実感の平均点は「所得・収入」と「仕事や趣味などの生きがい」を除く3項目で前回調査より低くなっています。

これらのことから、30歳代男性の幸福実感にマイナスの影響を与えているのは、自分の理想や過去の自分と比較した場合の、自身の健康に対する不満ではないかと考えられます。

【30歳代男性】判断基準別の幸福実感平均点



【30歳代男性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）

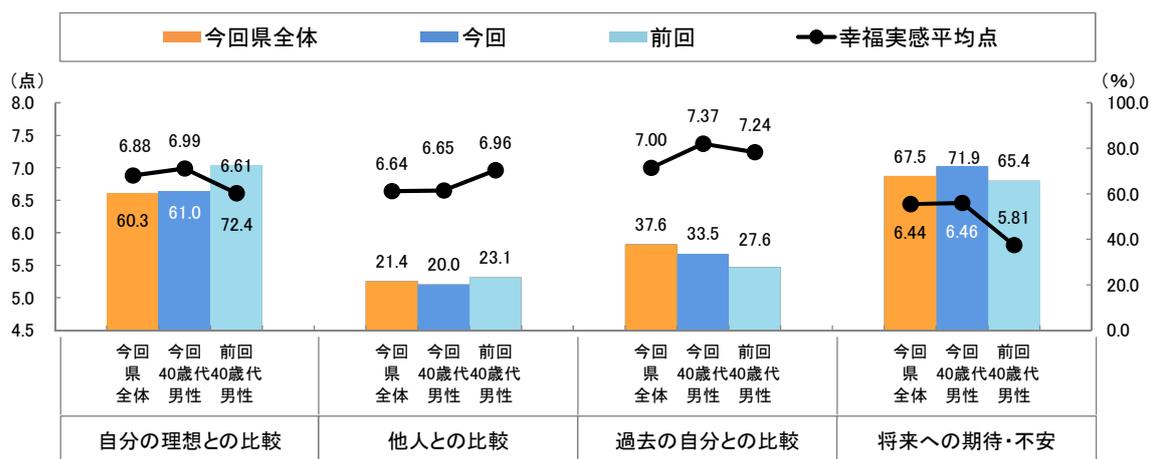


40 歳代男性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、前回調査より「自分の理想との比較」では 11.4 ポイント、「他人との比較」では 3.1 ポイント減少しています。また、幸福実感の平均点は、「他人との比較」を除くいずれも前回調査より上がっています。特に「将来への期待・不安」の平均点は 0.65 点上がっています。

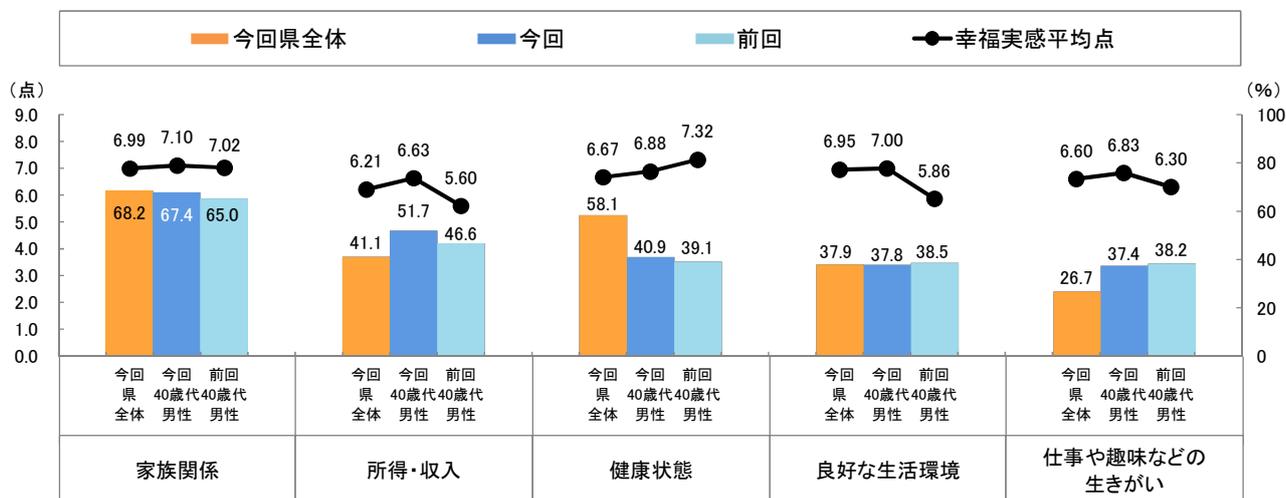
重視事項の回答割合を上位 5 項目でみると、「良好な生活環境」と「仕事や趣味などの生きがい」を除く 3 項目が前回調査より増加しており、特に「所得・収入」は 5.1 ポイント増となっています。また、幸福の実感平均点をみると、「健康状態」を除くいずれも前回より点数が上がっています。「良好な生活環境」と「所得・収入」の平均点は大きな差がみられ、それぞれ 1.14 点増、1.03 点増となっています。

これらのことから、40 歳代男性の幸福実感にプラスの影響を与えているのは、過去の自分と比較した場合や将来を考えた場合の、家族関係や所得・収入に対する満足感や期待ではないかと考えられます。

【40 歳代男性】判断基準別の幸福実感平均点



【40 歳代男性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位 5 項目）

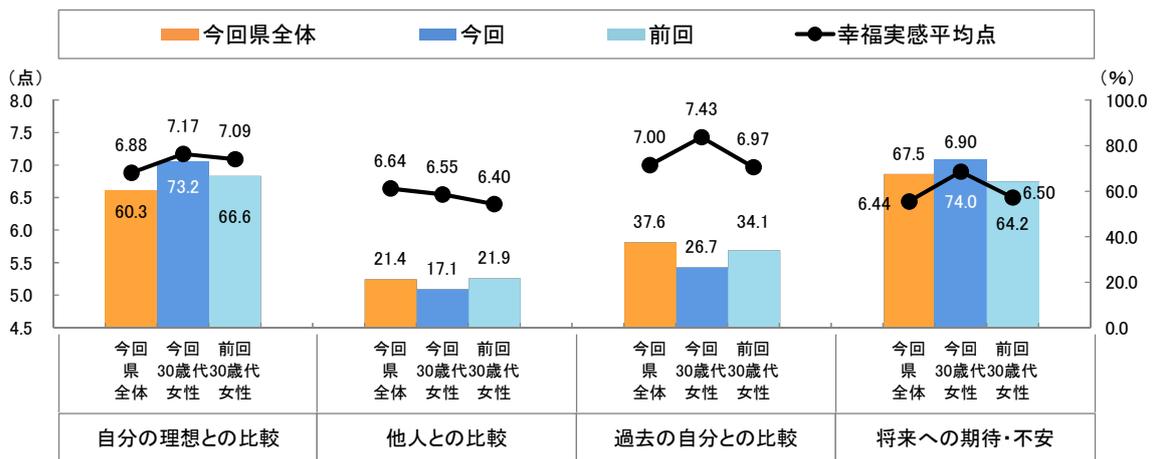


30歳代女性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、「将来への期待・不安」は前回調査より9.8ポイント増、「自分の理想との比較」は6.6ポイント増となっており、この2項目はそれぞれ約7割を占めています。また、幸福実感の平均点はすべて前回より上がっています。

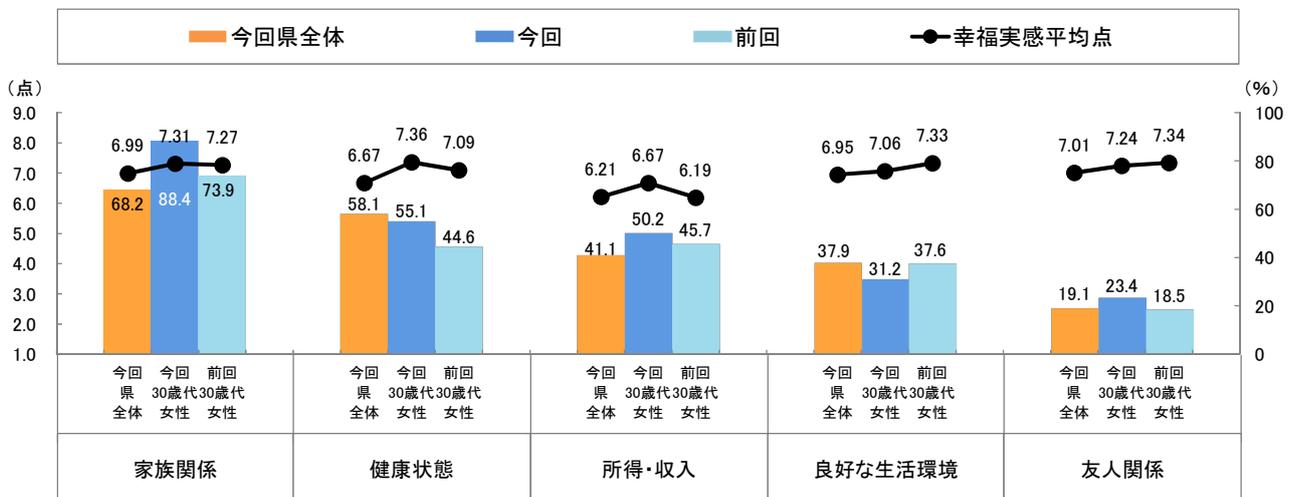
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「良好な生活環境」を除くいずれも前回調査より上がっており、特に「家族関係」は14.5ポイント増、「健康状態」が10.5ポイント増となっています。また、幸福実感の平均点は、「所得・収入」「健康状態」「家族関係」が前回より上がっています。

これらのことから、30歳代女性の幸福実感にプラスの影響を与えているのは、自分の理想と比較した場合や将来を考えた場合の、家族関係や自身の健康、所得・収入などに対する満足感や期待ではないかと考えられます。

【30歳代女性】判断基準別の幸福実感平均点



【30歳代女性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）

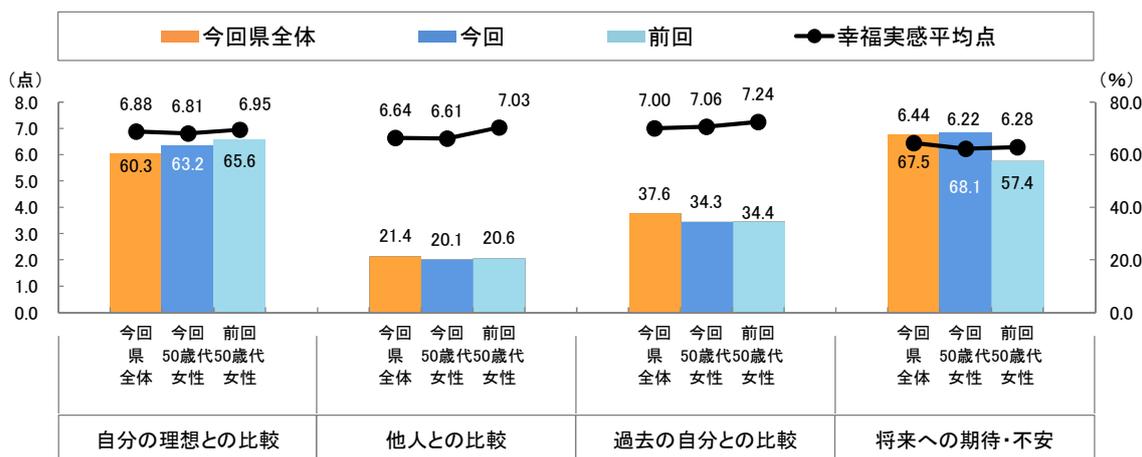


50 歳代女性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、前回調査より「自分の理想との比較」が 2.4 ポイント減少、「他人との比較」と「過去の自分との比較」はほぼ横ばいとなっています。また、「将来への期待・不安」は大きく増加し、10.7 ポイント増となっています。幸福実感の平均点はすべて前回より下がっています。

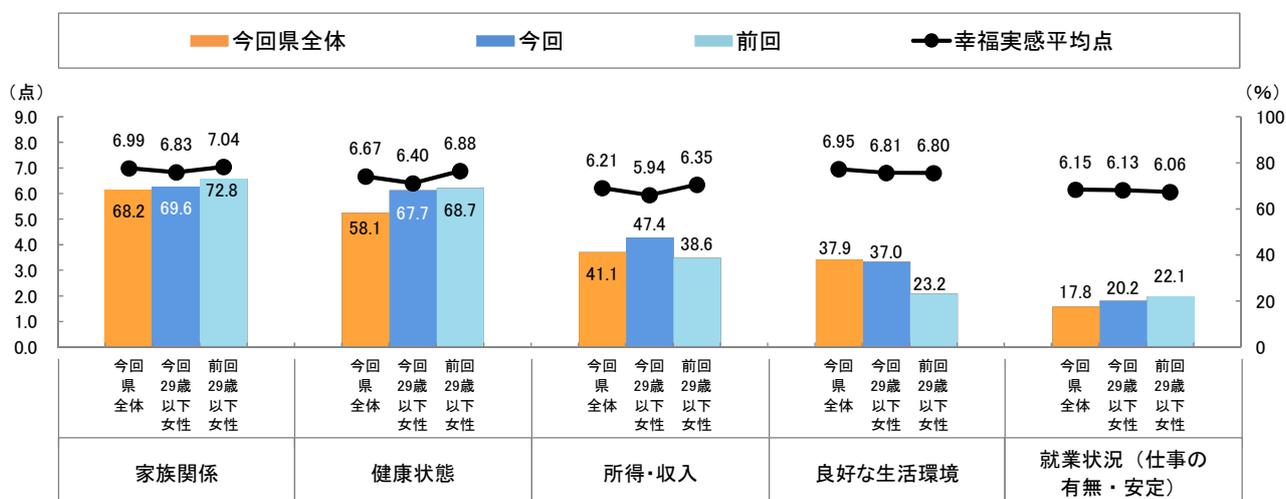
重視事項の回答割合の上位 5 項目でみると、前回調査より「所得・収入」、「良好な生活環境」を除く 3 項目は減少しています。「良好な生活環境」は前回との差が最も大きく、13.8 ポイント増となっています。また、幸福実感の平均点は「良好な生活環境」と「就業状況（仕事の有無・安定）」を除くいずれも前回調査より下がっています。

これらのことから、50 歳代女性の幸福実感にマイナスの影響を与えているのは、将来を考えた場合の収入状況に対する不安ではないかと考えられます。

【50 歳代女性】判断基準別の幸福実感平均点



【50 歳代女性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位 5 項目）

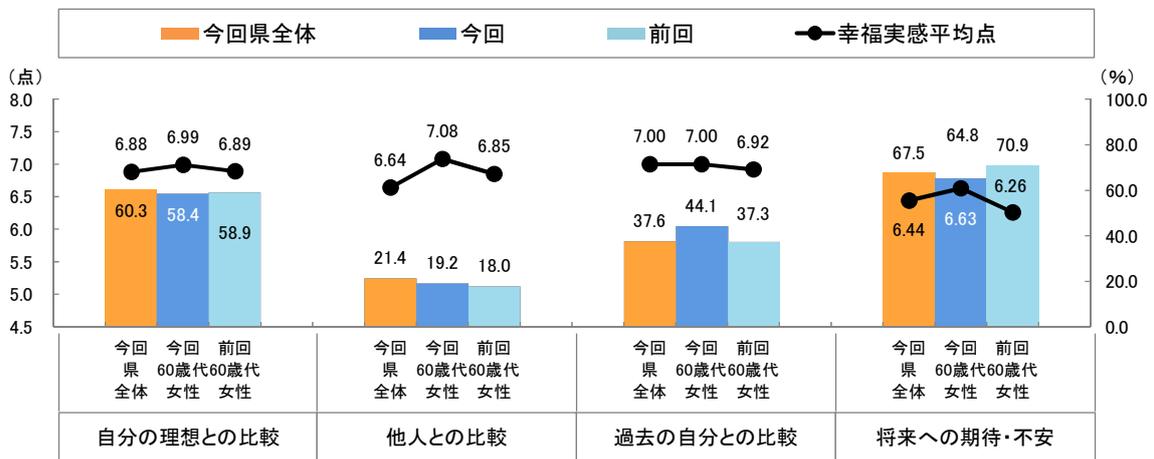


60歳代女性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、「将来への期待・不安」は前回調査より6.1ポイント減となっている一方、「過去の自分との比較」は6.8ポイント増となっています。また、幸福実感の平均点はすべての項目が前回より上がっています。

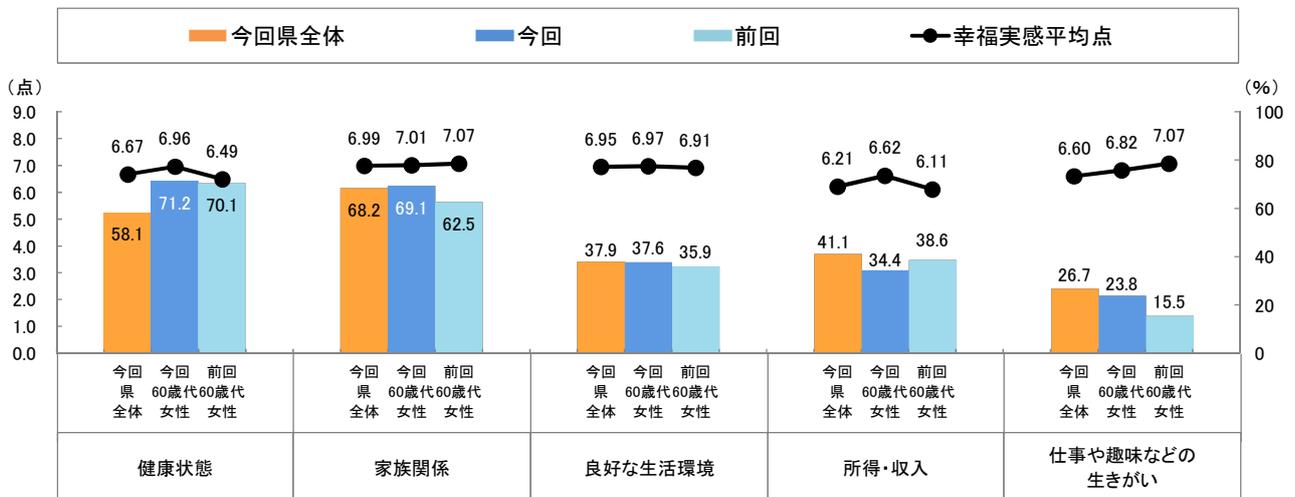
重視事項の回答割合の上位5項目をみると、「所得・収入」を除くいずれも前回調査より増加しており、特に「仕事や趣味などの生きがい」が8.3ポイント増、「家族関係」が6.6ポイント増となっています。一方で、幸福実感の平均点をみると、「家族関係」「仕事や趣味などの生きがい」は前回より下がっています。

これらのことから、60歳代女性の幸福実感にプラスの影響を与えているのは、他人や過去の自分と比較した場合の、自身の健康や生活環境に対する満足感ではないかと考えられます。

【60歳代女性】判断基準別の幸福実感平均点



【60歳代女性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）



IV. 資料編

＜調査票＞

福岡県民意識調査

～記入上の注意点～

1. 必ずご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意見などを代理の方が記入されてもかまいません。
2. 各質問のご回答は、特に説明がないかぎり、あてはまる項目の番号に○をお付けください。質問文に「1つだけ」、「2つ」など指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
3. 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
4. 「その他」を選ばれたときは、お手数ですがその内容を（ ）の中に具体的に記入してください。

調査票の回収について

ご記入後、調査票を折って、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、8月3日（月）までに郵便ポストに投函してください。

- この調査は無記名で行い、ご回答の内容については、「こういう意見の方が全体の何%」というように、すべて統計数値として集計いたしますので、お答えいただきました方のお名前や個人の回答内容が公表されることは一切ございません。
- これまでに実施した同調査の結果は、福岡県のホームページでご覧いただけます。
*インターネット検索で「福岡県民意識調査」とご検索ください。

【お問い合わせ先】

調査主体：福岡県企画・地域振興部総合政策課重点政策班 担当：池
住 所：福岡市博多区東公園7番7号
TEL：092-643-3158 FAX：092-643-3160

調査実施機関：株式会社 サーベイリサーチセンター九州事務所 担当：小林
住 所：福岡市博多区博多駅東2丁目6番26号
TEL：092-411-8811 FAX：092-411-8851

【県の施策について】

福岡県では、県民一人ひとりが幸福を実感できるよう、本県をもっと元気にする施策はさらに伸ばしていき、一方で課題や問題を抱えている県民の皆さんに寄り添う、温かみのある行政に、より一層力を入れていきたいと考えています。

今後の県政運営の参考とさせていただきたいと思いますので、次の問8から問28までの施策について、あなたのご意見をお聞かせください。

(商工業の振興)

問8 活力にあふれ成長力に富んだ経済をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. アジアの発展に貢献する環境・エネルギー産業の拠点づくり 2. 自動車やロボットなどの先端成長産業の育成や拠点づくり 3. 資金調達や商品開発、販路拡大、海外展開など中小企業の総合的な支援 4. 創業支援やベンチャー企業（創造的・革新的な経営を展開する中小企業）育成 5. 商店街の活性化 6. 地場産業や伝統工芸産業の振興、販路開拓 7. 地域経済の活性化や雇用創出につながる企業の誘致 8. 物流の要となる空港、港湾、高速道路などのインフラ整備 9. 地方大学等との産学官連携による研究推進や専門人材の育成 10. その他（ |) |
|---|---|

(観光振興)

問9 国内外の観光客を呼び込むために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 農林漁業体験や産業観光など、参加・体験型観光の推進 2. 祭りの振興やイベントの実施 3. 地域で観光振興に取り組む観光協会の組織強化・活用や観光ボランティアガイド地域の観光リーダーなどの人材育成・活用 4. 観光案内板（多言語）、観光案内所、公衆無線LAN、駐車場などの整備 5. 良好な景観づくりなどの街並み整備 6. アジア地域からの外国人観光客の誘致 7. 欧米豪からの外国人観光客の誘致 8. インターネット、スマートフォンなどによる観光情報提供の充実 9. キャラクターやタレントを活用した観光PR 10. 波及効果が期待できる国際スポーツ大会や国際的な会議・見本市などの誘致 11. 国内外からの航空路線の誘致 12. その他（ |) |
|---|---|

(農林水産振興)

問 10 食料などの生産や安定供給だけでなく、県土の保全などにも大きく貢献している福岡県の農林水産業を、今後さらに発展させていくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 県産農林水産物（その加工品も含む）の販売・消費の拡大
2. 県産農林水産物のブランド化推進
3. 県産農林水産物を原料とした加工品の開発、販売を行う6次産業化の推進
4. 安全・安心で高品質な農林水産物の供給
5. 県産農林水産物の海外への輸出促進
6. 地産地消の拡大や食育・木育・花育の推進
7. 新規就農者など、農林水産業の意欲ある担い手の育成・確保
8. 県内外での県産農林水産物のPR
9. 生産者と消費者の交流・体験活動などによる農山漁村の活性化
10. 山間部など農業の生産に不利な地域への支援
11. 農地の保全、耕作放棄地の活用
12. イノシシなどの鳥獣被害防止対策
13. 水産資源（魚介類などの水産物）の維持・回復
14. 女性の活躍による農林水産業の活性化
15. 公共建築物や住宅などにおける県産木材の利用促進
16. スマート農林水産業の推進
17. その他（)

(雇用対策)

問 11 あらゆる世代の人がいきいきと働き、安定した生活を送ることができる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 若者の就職支援
2. 中高年の就職支援
3. 子育て中の女性の就職支援
4. 低所得者、失業者に対する生活・就業支援の充実
5. 障がいのある人の就職支援
6. 企業ニーズ（知識、技術、コミュニケーション能力など）に沿った人材育成
7. 熟練技能の継承支援
8. 人材が不足する分野や新たな雇用が見込まれる分野への人材移転の推進
9. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の促進
10. 労働問題に関する労働相談の充実
11. 希望者の正規雇用への転換促進や非正規雇用の処遇改善
12. UIJターン※希望者への就職支援
13. 時短勤務、在宅勤務などの多様な働き方の普及
14. その他（)

※UIJターン…Uターンは、地方出身者が都市圏への移住を経て、出身地に戻ってくること。Iターンは、都市圏出身者が地方に移住すること。Jターンは、地方出身者が都市圏への移住を経て、出身地近くの地方に移住すること。

(地域振興)

問12 地域それぞれの特色を活かし、魅力ある地域をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 農林水産物や産地の技術、観光資源など地域の資源を活かした新商品開発の支援 2. 自然や食べ物、歴史、文化など地域の観光資源を活かした地域おこし 3. 住民による地域おこし活動の支援 4. 移住・定住促進などの人口増加策 5. 空洞化が進む中心市街地の活性化 6. 荒廃化が懸念される郊外市街地の再生 7. 空き家や空き店舗などの適正管理と有効活用 8. 地域住民の移動手段となる公共交通機関の維持・確保、生活道路の整備 9. 地方大学と地域との連携によるまちづくりの取組み 10. その他 () |
|--|

(インフラ・社会基盤整備)

問13 アジアとつながり、地域が密接に連携し発展するための社会資本を整備するために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. アジアの拠点となる空港、港湾の整備・充実 2. 経済・文化活動の広がりを促進するための基幹的な道路網などの整備 3. 生活の利便性や安全性を高めるための生活道路の整備 4. 移動手段となる公共交通機関（バス、鉄道など）の整備 5. 交通渋滞を緩和するための立体交差事業の推進 6. 安全・安心で快適に生活できる住宅や居住環境の充実 7. 県民の憩いの場となる都市公園、自然公園の整備・充実 8. 歩道や自転車専用道路の整備 9. 老朽化した橋りょう、トンネルなどの計画的な維持管理・修繕 10. その他 () |
|---|

(子育て支援)

問 14 安心して子どもを生み育てることができる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実 2. 保育サービスの充実(延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど) 3. 待機児童の解消(保育所の整備や保育士の確保など) 4. 地域における子育ての情報提供や相談体制の整備 5. 子育てをしながら働き続けられる職場環境づくり 6. 子育て中の女性の就職支援 7. 男性が子育てや家事に関わるための意識啓発 8. 虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもなど、きめ細かな対応が必要な子どもへの支援 9. ひとり親家庭の自立支援 10. 子育て家庭の経済的負担の軽減 11. 犯罪や事故からの子どもの安全確保 12. 社会全体で子育てを応援する気運の醸成 13. その他 (|) |
|--|---|

(教育)

問 15 個性や能力に富み、学力・体力を備えた子どもを育てるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力、体力向上のための取組みの推進 2. 性や心の健康課題の解消、望ましい食習慣を学ぶための健康教育の充実 3. 郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実 4. 実体験を重視した教育の推進 5. いじめや不登校等への対応 6. 青少年の非行防止と健全育成 7. 学校、家庭、地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもを育てる取組みの推進 8. 学校施設、社会教育施設、スポーツ施設の整備・充実 9. 奨学金事業の充実などによる教育機会の確保 10. 信頼される教職員の育成 11. 個性や能力を伸ばす教育の充実 12. 障がいのある子どもたちへの特別支援教育の推進 13. 望ましい職業観・勤労観や技能を身につけるキャリア教育・職業教育の推進 14. 国際感覚あふれる子ども・若者の育成 15. 自分の人権を守り、他者の人権を守るための人権教育・啓発の推進 16. その他 (|) |
|---|---|

(若者)

問 16 若者が夢を抱き、将来に向かってはばたくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。
(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校や大学等の新規学卒者の就職支援 2. 早期離職防止のための取組みの充実 3. 若者の正規雇用への就職支援 4. 社会的企業（社会問題を解決するために活動する企業等）やNPO（民間の非営利組織）などへの就職紹介、支援 5. インターンシップ（就業体験）などの社会体験の機会の充実 6. 異業種や海外企業との交流などによる人材育成 7. 民間資金を活用した起業や新たなビジネスに挑戦する機会の提供 8. 若者の海外留学の支援や海外派遣研修の実施 9. 若者が定住できる生活環境の整備 10. ひきこもりやニートの自立支援 11. 出会い・結婚支援の充実 12. その他（ |) |
|---|---|

(女性)

問 17 女性が能力を発揮し活躍する社会づくりに向けて、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。
(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 職場や地域などにおける男女の均等な機会と待遇の確保 2. 職場や地域などにおける指導的地位（役員、管理職、自治会長など）への女性の進出促進 3. 女性が結婚や出産をしても働き続けることができる職場環境づくり 4. 勤務時間・勤務体制の見直しなどワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み 5. 「男は仕事、女は家庭（家事、子育て、介護の担い手）」といった、性別による役割分担意識の払しょく 6. 男性への男女共同参画の意識啓発 7. 子育て支援の充実 8. 女性の起業、キャリア形成支援 9. さまざまな分野で活躍している女性ロールモデル（模範となる人）の紹介 10. セクハラ、ストーカー、DV（夫婦・恋人間の暴力）、性暴力の防止対策、被害者への支援 11. その他（ |) |
|---|---|

(NPO・ボランティア)

問 20 NPOやボランティア（以下、「NPO等」という）が活躍する社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

※NPO…民間の非営利組織

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. NPO等の活動情報の提供（広報誌やホームページ） 2. 県民とNPO等との出会い・交流の場や活動への参加のきっかけづくり 3. NPO法人（NPOのうち、法人格を取得した団体）への指導の強化 4. NPO等の資質を向上させるための研修の実施 5. 県民や企業によるNPO等への寄附の促進 6. NPO等と行政（県や市町村）がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施 7. NPO等と企業がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施 8. NPO等の活動に参加するための休暇制度の促進 9. その他（ | ） |
|---|---|

(文化・スポーツ)

問 21 文化やスポーツなどの活動を盛んにするために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。（○は3つまで）

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化芸術を鑑賞したり体験したりする機会の充実 2. 文化芸術分野の第一線で活躍する人材の活用 3. 県民参加型のスポーツ大会の開催など生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくり 4. 団体やサークル活動の支援・育成 5. スポーツにおけるコーチやトップアスリートの養成 6. ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機とした地域づくりや国際交流の推進 7. 地域文化の継承や振興のための取組みへの支援と文化財の保存活用 8. 県民の文化芸術活動を生かした地域づくりや交流の推進 9. 生涯学習（講演会、講座など）や創作活動の環境づくりや指導者の育成 10. 美術館や博物館、図書館、スポーツ施設、文化施設などの拠点施設の充実 11. その他（ | ） |
|--|---|

(国際交流)

問 22 国際交流の推進や外国人との相互理解の促進のために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化芸術やスポーツでの交流 2. アジア諸地域との環境分野での交流 3. 諸外国との人材ネットワークづくり 4. 若者文化を通じた交流（まんが、アニメ、ファッションなど） 5. 国際見本市、物産展の開催、県産品の海外展開への支援 6. 外国人が暮らしやすい環境の整備（多言語での情報提供、相談窓口の開設など） 7. 青少年などの海外研修事業 8. 留学生などの受け入れ体制の充実 9. 国際交流・協力活動を行う民間団体との連携や支援 10. 専門知識や技術をもつ外国人の県内企業や研究機関への就業支援 11. その他（ |) |
|--|---|

(防災対策)

問 23 災害に強いまちをつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 県民への防災知識の普及や防災訓練の充実強化 2. 災害時における情報伝達体制の充実 3. 地域の自主防災組織の育成や消防団の充実、災害ボランティアの育成 4. 災害時に自ら避難することが困難な方（要介護者や高齢者など）の避難支援 5. 緊急時の避難場所や避難所の機能充実、帰宅困難者の一時滞在施設の整備 6. 災害時の医療体制の整備 7. 消防・救急体制の充実 8. 住宅、公共施設の耐震化促進 9. 河川改修、ダム建設などの治水対策 10. がけ崩れ、地すべりなどの土砂災害防止対策 11. その他（ |) |
|--|---|

(防犯・事故対策)

問 24 犯罪や事故のない社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 暴力団犯罪の取締り、暴力団排除運動の支援、保護対策
2. 飲酒運転の取締り、飲酒運転撲滅運動の推進
3. 子どもや女性、高齢者を犯罪から守るための取組みの推進
4. 防犯に関する情報提供の充実
5. ニセ電話詐欺や窃盗などの身近な犯罪の取締り
6. インターネットなどのサイバー空間の安全確保に向けた取組みの推進
7. パトカーや制服警察官によるパトロール活動
8. 自主的な防犯活動をしている住民・団体への支援
9. 殺人や強盗など重要凶悪事件の徹底検挙
10. 青少年の非行防止と健全育成
11. 薬物乱用防止対策の推進
12. 交通安全教育や交通規制の見直し、交通指導取締りなどの交通安全活動の推進
13. 悪質商法などの消費者被害に関する情報提供や消費生活相談体制の充実
14. 食品の安全・安心の確保
15. テロ対策の推進
16. 再犯防止の推進
17. その他 ()

(環境)

問 25 環境と調和し、快適に暮らせる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 地球温暖化対策の推進 (家庭・事業所での省エネ推進、公共交通の利用促進 等)
2. 気候変動の影響への適応 (熱中症予防、高温に強い品種の開発 等)
3. エネルギーの効率的利用と再生可能エネルギー (太陽光、水力など) の普及
4. ごみの排出抑制、資源化などのリサイクルの推進
5. 豊かな自然環境や生物多様性の保全・再生
6. 美しい田園風景や、自然、歴史、文化などを活かした良好な街並みの保全
7. 公益的機能 (水や空気の供給、土砂災害防止など) を持つ森林の保全や緑化の推進
8. 大気汚染、水質汚濁、生活排水、土壌汚染、騒音、悪臭などへの対策
9. 廃棄物の不法投棄対策の強化
10. 海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染 (PM2.5、黄砂など) への対策
11. 環境情報の提供や環境教育の推進、環境保全に取り組む住民・団体への支援
12. 動物愛護の推進
13. その他 ()

(新型コロナウイルス感染症対策)

問 26 「新型コロナウイルス感染症」の拡大を抑止し、県民の健康と生活を守るため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 教育機関、福祉施設、介護施設等における感染拡大の防止 |
| 2. 医療提供体制の強化 |
| 3. 治療薬・ワクチンの開発 |
| 4. 雇用の維持、確保 |
| 5. 中小・小規模事業者への支援 |
| 6. 生活に困っている世帯や個人への支援 |
| 7. 観光・運輸業、飲食業、イベント・エンターテインメント事業等に対する支援 |
| 8. 農林水産業への支援 |
| 9. テレビ会議、介護ロボット、遠隔教育、在宅勤務等、ICT（情報通信技術）を活用したリモート化の推進 |
| 10. 迅速かつ正確でわかりやすい情報の提供 |
| 11. その他（) |

(重点分野)

問 27 これまで、ご回答いただいた下記の18分野において、あなたは特にどの分野に力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 商工業の振興 | 10. 女性 |
| 2. 観光振興 | 11. 高齢者・障がいのある人 |
| 3. 農林水産振興 | 12. 保健・医療 |
| 4. 雇用対策 | 13. NPO・ボランティア |
| 5. 地域振興 | 14. 文化・スポーツ |
| 6. インフラ・社会基盤整備 | 15. 国際交流 |
| 7. 子育て支援 | 16. 防災対策 |
| 8. 教育 | 17. 防犯・事故対策 |
| 9. 若者 | 18. 環境 |

問 28 県民一人ひとりが幸福を実感できる「県民幸福度日本一」を目指すにあたって、あなたが福岡県に期待することや特に力を入れて欲しいこと、あなたが思い描く将来の福岡県の姿など、ご自由にお書きください。

【参考設問】

あなたは、この1年間に、ホール・劇場、美術館などで、料金を支払い、文化芸術を鑑賞したり、体験したりしたことはありますか。次の中からいくつでも○で囲んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------|-----------------|
| 1. 音楽 | 6. 映画 |
| 2. 美術 | 7. 歴史的建物や史跡 |
| 3. 演劇・舞踏 | 8. 鑑賞・体験したものはなし |
| 4. 伝統芸能 | 9. 分からない |
| 5. 茶道・華道 | 10. その他 () |

【参考設問】

福岡県では、「福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例」により、自転車に乗車中、他人に怪我をさせた場合などに備える自転車損害賠償保険等(自動車保険などに付帯される個人賠償責任保険を含む)への加入が令和2年10月1日から義務化されます。

あなたは、自転車損害賠償保険等に加入していますか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. 加入している | 3. 加入しているかわからない |
| 2. 加入していない | 4. 自転車を利用していない |

【参考設問】

あなたは、SDGs(エスディーゼズ)※という言葉聞いたことがありますか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがあるが、内容は知らない |
| 2. 内容について、少し知っている | 4. 聞いたことはない |

※SDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)…「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に取り組む、2030年までの達成を目指す国際目標のこと。



福岡県マスコットキャラクター「エコトンファミリー」

【基本項目】

ご意見をお尋ねするのは、以上で終わりですが、お答えいただいたご意見を統計的に分析するため、あなたご自身のことやご家族のことについて、差し支えない範囲でお聞かせください。

F 1. あなたの性別はどちらですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2. あなたの年齢（記入日現在）はおいくつですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 18・19歳 | 5. 50～59歳 |
| 2. 20～29歳 | 6. 60～69歳 |
| 3. 30～39歳 | 7. 70歳以上 |
| 4. 40～49歳 | |

F 3. あなたの職業はどれにあたりますか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 農林水産業（家族従事者を含む） | 5. 専業主婦・主夫 |
| 2. 自営業・自由業（家族従事者を含む） | 6. 学生 |
| 3. 企業、役所、団体などの正規職員 | 7. 無職（定年退職者を含む） |
| 4. パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など | 8. その他
() |

F 4. あなたは結婚していらっしゃいますか（事実婚を含む）。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|----------|----------|----------|
| 1. 未婚 | 2. 配偶者あり | 3. 配偶者離別 | 4. 配偶者死別 |
|-------|----------|----------|----------|

F 4-2. 「F 4.」で「2. 配偶者あり」と回答された方のみにお尋ねします。

現在、あなた方は共働きですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 共働きである | 2. 共働きではない |
|-----------|------------|

F10. あなたは、福岡県のお生まれですか。1つだけ選び、○で囲んでください。
(○は1つだけ)

1. はい (福岡県)

2. いいえ (福岡県外)

F10-2. 「F10.」で「2. いいえ (福岡県外)」と回答された方のみにお尋ねします。あなたのお生まれはどちらですか。1つだけ選び、○で囲んで、() 内に都道府県名、または国名をお書きください。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 北海道・東北地方() | 5. 中国・四国地方() |
| 2. 関東地方() | 6. 九州・沖縄地方() |
| 3. 中部地方() | 7. 国外() |
| 4. 近畿地方() | |

F11. 現在お住いの市町村名についてお尋ねします。1つだけ選び、○で囲んでください。
(○は1つだけ)

北九州地域	福岡地域	筑豊地域	筑後地域
1. 北九州市	14. 福岡市	34. 直方市	49. 大牟田市
2. 行橋市	15. 筑紫野市	35. 飯塚市	50. 久留米市
3. 豊前市	16. 春日市	36. 田川市	51. 柳川市
4. 中間市	17. 大野城市	37. 嘉麻市	52. 八女市
5. 遠賀郡芦屋町	18. 宗像市	38. 宮若市	53. 筑後市
6. 遠賀郡水巻町	19. 太宰府市	39. 鞍手郡小竹町	54. 大川市
7. 遠賀郡岡垣町	20. 古賀市	40. 鞍手郡鞍手町	55. 小郡市
8. 遠賀郡遠賀町	21. 福津市	41. 嘉穂郡桂川町	56. うきは市
9. 京都郡苅田町	22. 朝倉市	42. 田川郡香春町	57. みやま市
10. 京都郡みやこ町	23. 糸島市	43. 田川郡添田町	58. 三井郡大刀洗町
11. 築上郡吉富町	24. 那珂川市	44. 田川郡糸田町	59. 三潴郡大木町
12. 築上郡上毛町	25. 糟屋郡宇美町	45. 田川郡川崎町	60. 八女郡広川町
13. 築上郡築上町	26. 糟屋郡篠栗町	46. 田川郡大任町	
	27. 糟屋郡志免町	47. 田川郡赤村	
	28. 糟屋郡須恵町	48. 田川郡福智町	
	29. 糟屋郡新宮町		
	30. 糟屋郡久山町		
	31. 糟屋郡粕屋町		
	32. 朝倉郡筑前町		
	33. 朝倉郡東峰村		

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

*ご記入後、アンケート調査票を折って、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、
8月3日（月）までに郵便ポストに投函してください。